

# 教会学校教案誌

2012.7.8.9月号



No.46

日本キリスト改革派教会  
中部中会日曜学校委員会

# 2012年7～9月カリキュラム（第46号）

— 『子どもカテキズム』に基づく二年サイクル第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単元の目標			
7月1日	唯一の神	問8	ウ告白2:1、ウ小5
		申命記6:4, 5	申命記6:4, 5
真実の神はただお一人である。キリストによって示された神をほめたたえよう			
7月8日	生ける神	問9	ウ告白2:1、ウ小5
		エレミヤ10:6-11	詩編115:4, 5
死んだ神々、偽りの神々をしりぞけて、まことの神を仰ぐことに固く立とう			
7月15日	三位一体の神	問10	ウ告白2:3、ウ小6
		ヨハネ14:25-27	ヨハネ14:26
父・子・聖霊としてわたしたちに働きかける三位一体の神をほめたたえよう			
7月22日	主権者なる神	問11	ウ告白3:1, 5、ウ小7
		ローマ11:33-36	ローマ11:33, 36
弱いわたしたちを支えてくださる全能の神がおられることを喜ぼう			
7月29日	天地創造	問12	ウ告白4:1、ウ小9
		創世記1:1-5	創世記1:31
世界を極めて良いものとして造ってくださった天地創造の神をあがめよう			
8月5日 (平和)	平和を創り出す	—	
		ローマ15:7-13	マタイ5:9
平和の主イエス・キリストにならって、平和を創り出す者として歩もう			
8月12日	摂理の神（一）	問13	ウ告白5:1、ウ小11
		ローマ8:28	ローマ8:28
救い主キリストの父である神が共にいてくださる。摂理の神を信頼して歩もう			
8月19日	摂理の神（二）	問14	ハイテ26-28
		マタイ6:25-34	マタイ6:34
まことの神を知ると、恐れから解き放たれる。神に生かされる平安の中を歩もう			
8月26日	人間の創造	問15	ウ告白4:2、ウ小10
		創世記1:27, 2:7	一コリント15:49
人は神に似せて、神のかたちに造られた。人として生きることの幸いを知ろう			
9月2日	人の罪	問16	ウ告白6:1、ウ小13-15
		創世記3:1-7	創世記2:16, 17
誘惑によって罪が入った。神の愛のまなざしの中で、人間の罪を見つめよう			
9月9日	罪と墮落	問17	ウ告白6:2、ウ小17-19
		創世記3:8-24	一ヨハネ3:4
罪とは何か、そして、その罪の広がりについて、御言葉から学ぼう			
9月16日 (敬老)	罪の悲惨	問18	ウ告白6:4、ウ小17-19
		創世記4:1-16	ローマ7:24
罪は現実の悲惨となって現れる。その苦しみと神の憐れみに目を留めよう			
9月23日	神の怒り	問19, 20	ウ告白6:3, 6、ウ小16, 19
		ローマ5:12	エフェソ2:3-8
わたしも神の怒りに価する罪人である。神の憐れみを知り、悔い改めに生きよう			
9月30日	贖い主の必要性	問21	ウ告白7:3, 5、ウ小20
		ローマ3:21-26	一ヨハネ4:10
罪の故に死すべきわたしたちに救い主が与えられた。愛の神をほめたたえよう			

も く じ

2012年7・8・9月カリキュラム

まえがき	風間義信	4
巻頭説教	川杉安美	5
日曜学校・教会学校訪問		
湘南恩寵教会日曜学校の紹介	高橋乃亜	8
特別寄稿		
子どもたちの心に寄り添うために	山浦裕子	12
発題		
子どもに届く説教の言葉を求めて	望月 信	14
教案誌会計報告		21
自由募金のお願い		22
聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例		23
7月 1日		24
7月 8日		31
7月15日		38
7月22日		46
7月29日		53
8月 5日		60
8月12日		68
8月19日		75
8月26日		83
9月 2日		90
9月 9日		98
9月16日		105
9月23日		113
9月30日		121
副読本のご案内		128
2012年10・11・12月カリキュラム		129
2012年度年間カリキュラム		130
執筆者よりひとこと・あとがき		132

# まえがき

風間義信（江古田教会牧師）

## 〈御言葉を積み重ねて〉

私が奉仕している江古田教会では、来年の教会設立50周年を控えて、「聖書全巻リレー朗読」に取り組んできました。そもそもこの話が出ましたのは、教会の記念行事としてどのようなことを行うかについて懇談会を開いた時です。複数の会員から、記念集会などの受身のようなものではなく、自分たちも参加したという思いの強いものを行ないたいという意見が出されました。そして、その具体的なものとして、会堂の講壇の聖書を皆で読んでいけたら素晴らしいのではないかということでした。

このような営みは、全国の様々な教会で行われてきたもので、改革派教会の中でも実施した教会があります。その場合、ゴールデンウィークや年末年始、夏休み等に集中的に朗読するものが多いようです。聖書66巻を朗読した場合、ほぼ百時間弱となりますので、丸四日間ほどかかることとなります。その場合、寝食のことや体力・健康面の考慮も必要になってきます。そのため、当初は思いはあっても果たして最後まで続けられるのか、個々人で読めばよいのではないかなどの不安も出されました。

そのため、無理なく進められるよう、毎月第一主日の午後と何日かの祝日を用いることにして、約一年で読み通す計画を立てました。2011年1月から始めたものの、3月の東日本大震災の余震や計画停電などから一時中断、計画の見直しも図られました。それでも、2011年末には旧約聖書を読み終わり、2012年4月29日、ちょうど教会設立50周年を記念する一年前に完了となりました。

現在の現住陪餐会員だけでなく、他住、元会員、未陪餐会員なども朗読に加わり、最後まで

途切れることなく朗読を続けることができました。また創世記1章、マラキ書3章、マタイによる福音書1章、ヨハネの黙示録22章は、その場に参加していた全員で声を合わせて朗読しました。

これは教会の記念事業であると共に、さらに御言葉によって主が教会を建てあげてくださることを感謝していただく時となりました。朗読者はただ一人ですが、聴く側の者たちの存在も重要です。御言葉によって心が合わされ、まさに聖霊の導きによって時が与えられていることを実感しました。自分一人や家庭で数章読むとは違って、会堂で時には6～7時間にわたって御言葉をいただくことは、多くの方にとって初めての経験でした。また、信仰生活の長い方であっても、初めて講壇の聖書を読む（あるいは触る）という新鮮な感動をもたれた方もおられたようです。

もちろん、朗読全時間出席された人は多くはありません。それでも一つの教会に呼び集められた者たちが、聖書を読みつないでいくという中で、この教会の一員としての思いがさらに強められ、共に御言葉によって生かされていることを、改めて感じることができました。そこに御言葉を積み重ねていく恵みがあったものと思われれます。

教会は神の御言葉を土台として建ち、御言葉と共に歩んでいることを教えられる一つの仕方が、このような聖書全巻リレー朗読にも見ることができるのではないかと感じた一年数ヶ月でした。

「あなたの御言葉は、わたしの道の光 わたしの歩みを照らす灯。」（詩編119編105節）

## 「時間をかけることの大切さ」

～マタイによる福音書 4章1～11節による説教～

川杉安美（綱島教会牧師）

さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”に導かれて荒野に行かれた。そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」イエスはお答えになった。

『人はパンだけで生きるものではない。

神の口から出る一つひとつの言葉で生きる』

と書いてある。」次に、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、言った。「神の子なら、飛び降りたらどうだ。

『神があなたのために天使たちに命じると、

あなたの足が石に打ち当たることのないように、

天使たちは手であなたを支える』

と書いてある。」イエスは、

『あなたの神である主を試してはならない』

とも書いてある」と言われた。更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言った。すると、イエスは言われた。「退け、サタン。

『あなたの神である主を拝み、

ただ主に仕えよ』

と書いてある。」そこで、悪魔は離れ去った。すると、天使たちが来てイエスに仕えた。

（マタイによる福音書 4章1～11節）

以前、IT関係の会社から、パソコン通信に関するセールスの電話がよくかかってきました。うたい文句は、「もっと早くなりますよ、大量に情報を送れますよ」というものでした。

私のパソコンの利用状況から考えて、そんなに大量の情報を早くやり取りするという必要を感じなかったのです。断り続けていました。セールスをする側は、「早いこと、情報が大量であること」、すなわちそれがいいことである、というふうな発想なのでしょう。そんなにいいことなのにどうして受け入れないのか、という感

じでした。そういう経験をしながら、「早いこと、情報が大量であること」、それがすなわちいいことなのかと、考えさせられました。

テレビや本でもご活躍の脳科学者の茂木健一郎さんが、本を速読することについてこんなことを書いています。「脳にとって、体験を伴う『時間』は重要な要素です。速読することによって、ある量の情報を脳にダウンロードすることはできますが、脳のA地点からB地点に情報が伝わるのに要する時間は変わりません。本を読むことは早くできても、読んだ内容を脳が処理する

のにかかる時間は変わらないのです。脳の中ではどうしても、一分なら一分かけないといけないことが存在します。要するに、速読によって情報は得られるかもしれませんが、読書によって立ち上がるかもしれない脳の中の別のプロセスは立ち上がらない」（『読む、書く、話す、脳活用術』p.54）。

これは速読ということに関してですが、やはり、早ければいい、情報が多ければいい、というのではなく、それなりの時間をかけなければならぬということなのでしょう。

イエス様が、時至っていよいよ救い主のお働きを始めようとしたときのことで、霊に導かれて、荒野で悪魔の誘惑と戦ったという記事が、マタイ福音書の4章に記されています。

マタイ福音書によりますと、三つの誘惑に合われました。第一の誘惑は、四十日間の断食をして空腹を覚えているイエス様にたいして、悪魔が、「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ」というものでした。

第二の誘惑は、神殿の屋根の端に立たせられて、「神の子なら、飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える』と書いてある」というものでした。

第三の誘惑は、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せられて、サタンがいうには「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」というものでした。

いずれの誘惑に対しても、イエス様は御言葉をもって対抗し、誘惑に打ち勝ち、サタンを退けたのでした。

その第三の誘惑をあらためて見ると、マタイ4章8節にこうあります。「更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、『もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう』

と言った」。

世のすべての国々とその繁栄が与えられるというのは、結果だけを見るならば、復活したイエス様に与えられたものでもあります。マタイ福音書の一番最後の部分、28章18節に、死より復活したイエス様の言葉が記されています。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」。あるいはフィリピ書2章9節には次のようにあります。「神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです」。そのように、どちらにしても、イエス様にはすべてのものが与えられるのでした。

しかし、サタンの誘惑は、一つには自分と手を組むことによって、自分を拝むことによって、それを手に入れよということでした。神様の御心、神様の導き、それに従うことによって、得るべきものを得るというのではなく、神様から離れて、サタンと手を組んで手に入れよ、という誘惑でした。

もう一つは、時間をかけ、なすべきことをなし、通るべき道を通してそこに至るなどというような面倒なことはやめて、サタンと手を組んで今すぐにそれを手に入れろ、という誘惑でした。しかし、先ほど引用したフィリピ書2章9節の前の部分、7、8節にはこうあります。「かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」。そのように、通るべき道筋を通して、なすべきことをなして、定められたプロセスを踏んだからこそ、9節で、「そのため、神はキリストを高く上げ、……」と続いているのです。つまり、救いの御業を成し遂げて、その後、キリストが上げられたというわけです。

第一の誘惑、すなわち空腹なのだから石をパンに変えたらどうだという誘惑も、似た問題があります。神様の御心に従うことは面倒だから、やめたらどうだと。そして、自分の力で、手っ取り早く空腹の問題を解決したらどうだ、というわけです。それに対してイエス様は、「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つひとつの言葉で生きる」という御言葉を示して、打ち勝ったのでした。

つまり、何か問題を解決したい、あるいは何か価値あるものを手に入れたい、という場合、神様の御心に従いながら、一つひとつやっていき、通るべき道筋、踏むべきプロセスを踏んで、そうしてその結果、主から与えられるのだということになるのです。

その一つの典型的なものが、教育とそれによる成長ではないかと思います。主の御心に従いながら、様々な課題に取り組み、手順やプロセスを踏んで、通るべき道を通りながら、時間を

かけて、そうやって、主から成長や成果や実りをいただいでいく、というのが本筋ではないでしょうか。教える側も教えられる側も、そうやってお互いに成長していくのではないのでしょうか。神様の御心を離れてでも、手っ取り早く成果を手にした、手っ取り早く解決したい、というのは誘惑ではないでしょうか。

教える側も、教えられる側も、御言葉に聞き従いつつ、時間をかけながら、色々道を通って、だんだんと学び、成長していくのだということであらためて覚えたいと思います。ほかでもない、イエス様御自身も、そのような道のりを通られたのです。

ヘブライ5章8、9節、「キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となり……」。



## 湘南恩寵教会日曜学校の紹介

高橋乃亜（湘南恩寵教会日曜学校校長）

### 1. はじめに

私たちの湘南恩寵教会は、東部中会に所属する神奈川県茅ヶ崎市にある教会です。茅ヶ崎市は、教会名にあるとおり、神奈川県南部の相模湾沿いに位置する湘南にあり、一年を通して多くのサーファーが波を楽しみ、夏は多くの海水浴客が訪れる、避暑地・観光地としても有名な町です。

1992年、この湘南の地に東京恩寵教会による開拓伝道がスタートしました。この伝道のために、多くの方々の献身と尊い献げものがなされ、開拓伝道から19年目の昨年、主の導きのうちに教会設立をすることができました。現在は鈴木牧雄牧師とともに、長老2名、執事6名の役員が立てられ、教会運営を行っております。

ちなみに、母教会である東京恩寵教会では伝統的に「日曜学校＝Sunday School」の頭文字を取り「SS」と呼んでいることから、私たちの教会でも同じく日曜学校を「SS」と呼んで、これまで活動をしています。



湘南恩寵教会教会設立式



湘南恩寵教会外観

### 2. 日曜学校の様子

私たちの日曜学校（以下、SS）では、3年前から本誌『教会学校教案誌』（以下、教案誌）のカリキュラムに沿って、礼拝とクラスを行っています。教会独自の行事や、夏休み・冬休みなどもあることから、すべてカリキュラム通りではありませんが、日にちをずらしながらも教案誌カリキュラムに沿ったスケジュールを独自に作っています。

SSは毎週日曜朝9時から行われます。礼拝10分前、教師による祈禱会から始まり、礼拝時間は約25分、鈴木牧雄牧師がカリキュラムに基づいた説教をしてくださいます。礼拝内で歌われる賛美歌2曲のうち、1曲はゴスペルで、高学年の生徒たちが毎週ウクレレでゴスペルの伴奏をしてくれます。ウクレレ伴奏を始めてから4年目に入り、今年からは下の学年の子どもたちにバトンタッチする準備をしていることから、いつの間にか湘南恩寵SSの伝統？ になりつつあります。

礼拝後は学年に応じたクラス（分級）に分かれ、カリキュラムに基づいた内容を約30分間

学びます。クラスは、幼稚園・保育園の子どもたちのための「幼児科クラス」、小学校1～3年生までの「小学科低学年クラス」、小学校4～6年生までの「小学科高学年クラス」、中学生のための「中学科クラス」の計4クラスです。参加者数を平均すると、幼児科3名、小学科低学年4名、小学科高学年1名、中学科2名、合計10名で、全員が契約の子どもです。通常は、子どもたちに加えて、教師8名、補助教師1名、母親たちが、毎週のSSに出席しています。

教師8名中7名が、子どもの親や兄姉（クリスチャンホーム4家族）ということから、文字通り家族みんなで子どもを育てているような、アットホームな環境です。

### 3. 日曜学校のおもな行事

SSの定例行事としては、毎月第一主日の誕生会と、年に三回行う「子ども中心礼拝」です。子ども中心礼拝は、10時半から行われる通常の公同礼拝を、子ども中心にしたもので、受付、奏楽、献金感謝等の礼拝奉仕をすべて子どもたちで行い、賛美歌もすべて「子ども賛美歌」、説教も子ども向けのお話し（「補足的に」大人へのメッセージ）を牧師にさせていただきます。大人も子どもも共に神に招かれ、礼拝を形づくるという信仰を、教会全体で確認するとてもよい機会となっています。

夏には、神奈川県下の教会が合同で行う、恒例の「神奈川県地区合同夏期学校」があり、当教会からも多数の子どもが参加しています。県下の教師方の奉仕に感謝しつつ、当教会教師会からも教師の奉仕者を募って、積極的に参加していきたいと思っています。

また、大きな行事としては、毎年12月の「子どもクリスマス会」を継続して行っています。教会のクリスマス記念礼拝の案内チラシ裏面に、子どもクリスマス会の案内を印刷、近隣の小学校2校の校門前で配布をし、新しい子どもたちを招いてきました。クリスマス会では、キャ

ンドルサービスの後、参加者全員で手を使って工作をすることが、ここ数年の恒例となっています。ちなみに、昨年は「クリスマス・キャンドルづくり」を行いました。教師と生徒の3名がキャンドル作家のワークショップに出て、作り方を習った本格的な工作だったため、時間はかかりましたが仕上がりはとてもきれいで、皆さんとても喜んでいました。



子どもクリスマス会チラシ



クリスマスキャンドルづくり



キャンドルサンプル

今年に入り、イースターに合わせた「イースター子ども会」を初めて行いました。クリスマス同様に、学校前でのチラシ配布を行いました。初めての試みにも関わらず、27名の近隣の子どもたちが参加してくれました！ イースターエッグを包む「ハンカチづくり」をしましたが、当初予定していた人数をはるかに超えたため、大慌てで足りない分を用意するという事態で、まさにうれしい悲鳴でした。



子どもイースター

参加者の1人でも、毎週の礼拝につながってほしいと願っていますが、まずはクリスマス、イースターの二回の行事を、着実に、丁寧にやって地域で教会を認知していただき、子どもやお母さんたちに教会に親んでもらうことを大切にしようと考えています。その先に、独自のサマーキャンプを行えるまで発展していきたい、という夢も教師会では語っています。

#### 4. 日曜学校教師会

今年度から教師の増員もあり、現在8名体制で教師会を運営しています。これまでSSで育ってきた大学生2名が新たに教師になってくれたので、一気に若返りを図ることができました。子どもたちも、若いお姉さんが先生になったことで、クラスへの期待感も高まっているかもしれません。

これまででは教師会を行うといっても、月に一回、30分ほどの事務的な話し合いをするのが

精一杯でした。今年からはそれに加え、年に三、四回、主日の午後には時間をとり、SS活動全体の方向性や、カリキュラム内容の確認、子どもたちの信仰の状態を確認するなど、さまざまな課題について話し合う時間を作ることにしました。あわせて、話し合いだけでなく、教師自身の研修も必要であることから、本教案誌のバックナンバーにある諸先生方の講演を取り上げて、学びと議論を深めていくことになっています。

#### 5. 今後の課題

- ・契約の子の信仰告白にむけて

今年度は2名の生徒が中学校に進学しました。他の教会でも同じような悩みをお持ちだと思いますが、中学からは学校生活と教会生活の両立がとても難しくなる時期です。教会として、SSとして何ができるか、模索している最中ですが、中会や大会で行われるキャンプ等の交わりが、子どもたちにとって大きな意味があると感じています。高校生で信仰告白をし、教師になってくれた2名の青年のように、彼らも続けてくれるよう祈っています。そして、次々と続く下の子どもたちに対し、生きた信仰をもって接して欲しいと心から願っています。

- ・SSと家庭の連携について

子どもたちの信仰を養うためには、日曜のSS教育だけでなく、家庭における毎日の信仰教育が欠かせません。SSと各クリスチャンホームができるだけ歩調を合わせて、互いに知恵を出して合って子どもたちを信仰へと導けるよう、話し合いを始める予定です。カリキュラムに基づく月ごとの暗唱聖句の実践や、SSカリキュラムを意識した家庭礼拝の持ち方など、地道ではありますが、信仰教育の意識を教会全体で共有し実践できるようなアイデアを、皆で出し合いたいと思っています。

・地域への伝道

これまでは、どうしても教会内のことだけで精一杯だった現実がありました。子どもクリスマス会、イースター子ども会等を通し、茅ヶ崎における子ども伝道の可能性が芽生えつつあるのを実感しています。目の前にある契約の子教育の課題に取り組みつつも、少しずつ地域の子どもたちへの伝道活動を行っていきたいと思っています。

6. おわりに

私自身も小さい頃から毎週日曜学校へ通って来ました。日曜学校教師となった今だからこそ、当時熱心に聖書を教えてくださった信徒の方々や先生方が、子どもたちのために注いでくださった時間や苦勞がよくわかり、ただただ頭が下がる思いです。そして、教会における信仰教育は、一朝一夕にしてならず、多くの方々

の祈りと時間、献身の積み重ねがなければ成り立たないことを実感させられています。主が託してくださったこの尊い働きを、イエス様の救いという「宝」を子どもたちに伝えていく責任を、教師会を中心に教会全体で果たしていけるように、そして、教会の子どもたち全員が信仰告白にまで導かれるように、心から願っています。

最後に、本教案誌を通し、諸教会の教会学校教師の皆様と、信仰教育の課題や、祈りを共にできる幸いを、主に感謝いたします。経験や訓練の足りない私たち日曜学校教師にとって、本教案誌がとても大きな助けになっていることは言うまでもありません。この場を通して、この教案誌に関わってくださっている、教師、信徒の皆様、心から感謝いたします。これからも本教案誌が主に豊かに用いられますように！



## 「子どもたちの心に寄り添うために」

山浦裕子（稲毛海岸教会）

日曜学校の奉仕に携わる中で、どのようにみ言葉を語り教理を教えるかということの他に、子どもたちとどのようにかかわるのかということが、大きな課題となります。日曜学校奉仕者が子どもたちと向き合うとき、信仰の先輩、人生の先輩として自身の経験を生かすことができる利点がある一方で、「大人」だからこそ上手くいかないことも出てくるようです。ここでは特に牧会ケアの観点から、子どもたちと向き合うときに見過ごしがちな点について述べたいと思います。

### ■聞くことと聞かれていること

人を相手とし、その人に寄り添う存在であろうとするときに必要となる基本姿勢は、「傾聴」です。その人の気持ち・考えに耳を傾け、その心に共感することです。傾聴するためには、自分の考えを押し付けたり教え諭したりするのではなく、むしろ相手の話を十二分に聞き、受け止めることが大切です。手法に多少の差異はあるものの、この傾聴という基本姿勢は、対象を老若男女を問わず共通したものです。

しかしながら、「大人が聞いているか」と「子どもが聞いてもらえているか」ということは、似て非なるものであることを大人側は認識している必要があるように思います。

何年か前のテレビコマーシャルで、こんなシーンが描かれていました。朝、出勤する父親を見送りながら小さな男の子が「また明日ね」と手を振るのです。その一言を聞いた父親ははっとして、子どもとの時間を過ごすようになるのでした。朝早くから深夜まで働く父親としては、自分はこんなに家族のためにがんばって

いると実感できることでしょう。ところが子どもにしてみれば、ほとんど姿を見せることがなく、かまってくれない父親に見えているのかも知れません。「お父さんは、あなたのためにがんばっているのよ」という説明は理解できても、実感することはできないのです。

日曜学校の奉仕でも、子どもの目に見えないところで準備をし、労苦することが多くあります。その準備と労苦を、思着せがましく子どもたちに見せる必要はありません。しかし、子どもたちがどれだけ価値ある存在なのか、私たちの愛情の対象であるのか、そして何より神様の愛情の対象であるのかを表現することが大切であり、必要なのです。それも、子どもたち自身ができるように伝えることが必要です。

そのためには、子どもたち「のために」時間を過ごすだけでなく子どもたち「と」時間を過ごすことが求められてきます。その中で、子どもたちのささやかな変化に気づくこと、具体的に声掛けすること、そして子どもたちの話を聞くことができてくることでしょう。

### ■子犬の恋は、子犬の恋に過ぎない

#### しかし、子犬にとっては真剣な恋なのだ

子どもたちと向き合うとき、大人にとってチャレンジとなることの一つに、子どもたちが直面している問題をどれだけ真剣に捉えられるかということがあります。

子どもたちよりも少しばかり長く人生を生きてきた大人たちにとって、子どもたちが頭を抱え心悩ましている問題の多くは、いわば取るに足らないと感じられることが少なくありません。「この年頃の子にはよくあることだ」、「自

分にもそういう時期があった」などという思いが頭の中を過ぎりながら、どこか楽観視してしまうのです。

成長に伴って、子どもたちも恋愛や友だち付き合いなどの人間関係に悩むことが出てきます。ところが同じような悩みを乗り越えてきた大人たちは、それらの悩みがその子の人生を左右するほどのものではないと判断してしまうことがあります。あるいはまた、それらの経験が後々に力となるとすら感じていることがあるかも知れません。そして、問題を軽く捉えてしまうのです。しかし当然ながら、その子本人にとっては生死にかかわるほどの大問題なのです。それだけ真剣だからです。

問題がもっと些細な出来事の場合、大人と子どもの温度差はより明白になるでしょう。膝小僧にできた小さなすり傷のことを、まるで命に関わるほどの大怪我のように騒ぎ立てる子どもがいます。その子に向かって「たいした怪我じゃないわ、大丈夫よ」といった声がけは、まるで意味がありません。その子にとっては少しも大丈夫じゃないのですから、むしろ「大変だったね、痛かったね」と心配を表し、共有してあげることが「傾聴」につながります。

子どもたちと一緒にあたふたする必要はありません。あたふたする子どもたちを決して軽んじることなく、その「あたふた」ぶりを受け止めてあげることが大切なのです。自分の話を聴き、心配してほしい気持ちにも応えてもらえた子どもたちは、自分の言葉と心を受け止めてもらえたことに安心を覚えることができます。問題の内容は、何でもよいのです。

子どもの問題に向き合うときには、経験を活かす知恵と同時に、経験を活かさない知恵も求められているのです。

## ■子どもを招かれる主イエス

今まで子どもたちとどのようにかかわってきたかを振り返り、自分たちの至らなさに気づく

とき、主イエスがどのように子どもと向き合われたのがより意味深いものとなります。

イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れてきた。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子供たちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言っておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。

(マルコによる福音書10章13～16節)

旧約時代だけでなく新約時代においても、子どもたちが数に入れられることはありませんでした。弟子たちが子どもたちを追い払おうとしたのは、大人としての配慮のほかに、当時の社会状況からは何も不思議ではない行動だったことでしょう。しかしイエス様は違いました。大の大人たちから「ラビ(先生)」と呼ばれていたイエス様が、数にも含まれない子どもたちに目を留め、自らの元へと招かれたのです。

私たちはどうか大人目線、自分たち目線で考え判断し、言動してしまいがちです。しかしこの小さなエピソード一つからも、イエス様は私たち大人が子どもたち一人ひとりを心にかけ、真摯に向き合うことの大切さと必要とを教えてくださいようように思うのです。

### ○山浦裕子姉のプロフィール

所属教会：日本キリスト改革派稲毛海岸教会  
学歴：慶應義塾大学大学院修士(教育心理学専攻)、カルヴィン神学校修士(教育ミニストリー専攻)

専門領域：牧会ケア、グリーフケア

現在、稲毛海岸教会にて、日曜学校・高校生会など青少年ミニストリーを担当。

# 「子どもに届く説教の言葉を求めて」

～9月4日の説教展開例ができるまで～

望月 信（中部中会教会学校教案誌編集委員）

## 〈はじめに〉

日曜学校委員会より、2011年9月4日の説教展開例について話してほしい、という依頼をいただきました。今回の研修会では、9月4日の主の日にしぼって、その具体例を分かち合うことを通して学ぶ。そのため、説教展開例を執筆した者が、説教展開例のできるまでを紹介するという依頼でした。案内に『講演』という形で記されていて、ちょっとびっくりしましたが、今日のプログラムには、「執筆者によるレクチャーとアドバイス」となっていて、少しホッとしたところです。「子どもに届く説教の言葉を求めて」という主題をいただいておりますが、「9月4日の説教展開例ができるまで」ということで、お話をさせていただきます。

まず最初に、説教についての二つの講演をお勧めします。一つは、日本キリスト教団の加藤常昭先生が1999年に西部中会でしてくださった講演です。それが、『子どものための説教入門』という書物になって出版されています。西部中会の教育委員会の発行です。説教学者でもある加藤常昭先生が教会学校の説教について講演してくださったものがまとめられています。説教とは何か。この説教という課題については、おとな向けも子ども向けありません。おとなに向かって語るときも、子どもに向かって語るときも、神の御言葉を取り次ぐ御言葉の奉仕であるということは同じです。その説教の基本となることを講演してくださいました。また、具体的な説教準備についても記されています。

もう一つ、昨年の教会学校研修会では、日曜

学校委員会の二宮創先生が「大好きなイエスさまを物語る」と題して講演してくださいました。そこでも、二宮先生の説教に向かう姿勢と備えについて、教えられました。こちらは、『教会学校教案誌』の第42号に記されています。これらをお読みくださり、説教について学んでくださるよう、お願いいたします。

今日は、ごく具体的なことをお話することが求められていると思います。そして、そのように努めたいと願っています。基本的なことに立ち帰る学びも必要ですから、最初に、ご紹介させていただきました。

もう一つ、説教は「生まれる」ものであるということをお願いしておきたいと思います。わたしは、説教を「作成する」という言い方には少々、違和感を感じるころがあります。もちろん、わたしも「作成する」と言いますし、「作成する」という言葉遣いが間違いではありません。こちら側の、人間の側の黙想があり、文章を執筆するときの試行錯誤があって、まさに作成いたします。しかし、同時に、説教は、神の御業であって、聖霊がこのわたしに働いてくださり、ですから、与えられるものでもあります。自分が「作成する」とか、自分が「執筆した」というのとは、また少し違う、神から与えられたものとしての説教、という意識があります。

そのため、説教は、与えられるものであるし、ですから、「生まれる」もの、という感覚があります。これは、大なり小なり、説教者は皆そうであると思います。

最初に、このことを申し上げるのは、これが大切なことだからです。「与えられるもの」「生まれるもの」だから、説教には、当然、産みの苦しみがともないます。説教を作成する作業は、苦しいものです。もちろん、そこには、喜びがあります。御言葉に心動かされ、感動することがあります。けれども、産みの苦しみがともないます。大切なことは、その産みの苦しみを避けて通ってはならない、ということです。産みの苦しみがあるからこそ生まれるのであり、産みの苦しみが無い説教は、本当の説教にはならないのだらうと思います。

そして、「与えられるもの」「生まれるもの」だから、当然、与えられるために、生まれるために、祈らなくてはなりません。神のみわざとしての説教であり、聖霊がこのわたしを通して生んでくださるものが説教です。罪人を通して、神がご自身の御言葉を語られる。それが説教なのであって、ですから、説教者は、神の御前に身を低くして、祈らなければなりません。この自分が神の御言葉の器として用いられる。こんなにふさわしくない、神の御心にかなわない惨めな罪人が、ただ神の憐れみによって説教者として用いられるのです。それは、ただ神が働いてくださるから、可能となることです。ですから、神の聖霊のみわざを祈り求めなければなりません。そういうところで、説教が与えられます。説教が生まれます。

そうして生まれると、それは嬉しいものです。語るべき言葉が与えられた喜びがあるのです。惨めな罪人であるこのわたしが用いられて、語るべき言葉が与えられた。その喜びがあるところでこそ、説教者は、その与えられた説教、神の御言葉を、神の御言葉として、喜びをもって、大胆に説教できる、告げ知らせることができるのだと思います。

この「生まれる」ということに関して、もうひとこと申し上げると、これは神秘的な事柄

であって、他人が入り込むことのできない領域があるのだらうと思います。女性が赤ん坊を産むというの、他人が入り込むことができない、神秘的な領域の事柄だと思えます。それと似たところがあるのではないかと思います。説教を作成する、そのたどる道は、神と向かい合い、神と対話する、そのところで苦しうめくのであって、他人が入り込むことはできない領域があると思うのです。

産みの苦しみを苦しむとは、ただ文章を執筆する苦しみというではありません。神の御前に自らをさらけ出す、そういう過程を通らなければならない、ということです。そうして、神の御言葉を聞き取り、語るべき言葉が与えられます。そういう備えをぜひしていただきたい、と願っております。

### 〈説教作成の準備段階〉

#### ①聖書を読み、黙想する—自分自身のために

説教作成には、実際の作成、執筆の段階の前に、準備の段階が必要です。準備の段階こそが大切であると申し上げることができます。

その第一が、聖書を読み、黙想することですが、そこではまず、自分自身のために聖書に耳を傾けます。語ることを考えるのではなく、自分自身に対して何が語られているのかを聞き取ります。聖書の言葉が自分自身にとって神の御声として響いてくるのが大切です。自分が何を語るのかということが先立つと、神の御声として響いてこないことを語る、ということが起こってしまいます。ですから、まず自分に何が語りかけられているのかを思い巡らします。

9月4日の聖書箇所は、列王記3章4節から15節です。わたしは、その与えられた聖書箇所を読み、さらにその前後も含めて読みます。そこだけを読む、というのではなく、もう少し広く読む。声に出して読むこともします。そうして、思い巡らします。

そのところで、どんなことを思い巡らしたのか。正直なところ、きちんとおぼえていません。教案誌の原稿は、一年近く前に書いています。9月4日の原稿は、いつ書いたのかというと、昨年の11月の時点で書いています。ですから、どんなふうに思い巡らしたのか、きちんとおぼえていませんが、はっきりとしていることが一つあります。

ソロモンが「善と悪を判断することができるように、このしもべに聞き分ける心をお与えください」と祈った。そして、主なる神が、「訴えを正しく聞き分ける知恵を求めた」とおっしゃって喜ばれました。そのところで、ソロモンは、神の御前にへりくだる姿勢がある。そして、箴言において、「主を畏れることは知恵の初め」と語られていて、主を畏れ敬うことこそがわたしたちの身につけるべき知恵だと教えられている。そのことを思い浮かべたことをおぼえています。ですから、知恵というのは、ふつうの意味で賢いとか、知識があるとかいうことではない。むしろ神の御前にひざまずく態度こそが知恵ある態度なのだ。そういうことを思い巡らしたのです。そして、そこから、主を畏れ敬うことこそが、人に本当の分別を与えるし、人を練り清めて成長させる。主を畏れ敬うこと、神を礼拝することが、人に物事を見抜く力を与える。そういうことも考えたと思います。そして、何とそういう知恵に欠けているのだろうと思って嘆きました。

説教展開例を見ていただいてもお分かりになると思いますが、その結論の部分で語っていることは、おおよそ最初の黙想の段階で思い巡らしたことになります。自分自身のために聞き取ったことが土台になっています。いつでもそうなるということではありませんが、けれども、終わりの部分に、何らかの形で、最初の黙想が現れてくることが多いと思います。その意味でも、自分自身のためにまず御言葉を聞き取ることが大切です。

## ②聖書を読み、黙想する—語る言葉を求めて

第二の段階が、語る言葉を求めての黙想です。教会学校の説教の場合、子どもたちにとって、どういうメッセージが響くのだろうか。子どもたちのことを思い浮かべて思い巡らします。あるいは、子どもたちに代わって、聞き取ろうとする。自分が子どもだったときのことを思い浮かべて聞く、ということでもあるでしょう。

ただし、子ども向けということにあまり意識過剰にならなくてもよいと思います。子どもであってもおとなであっても、人間であるという本質は変わらないからです。子どもであっても、たとえば、生きるとは何か、あるいはまた、死とはどういうことか、そういうことを思い巡らす時があるのです。子どもであっても、生きる苦しみ、人生の悲しみ、そういうことを感じているのです。その時すぐに分からなくても、聞いたことが心に蓄積していて、いつの日か分かるようになる、ということもあります。

ですから、分かりやすくしようと思って、言葉が難しいのですが、レベルを下げようとするのは、注意しながらしたほうがよいと思います。レベルを下げようすると、ただ何か道徳的なお話、一般的な教訓話をしている、ということになりやすいからです。

むしろ何よりもしなければならないことは、語るべきことをなるべく単純にすること、無駄をそぎ落とすことです。たくさんのこと、複雑なことを語るといえるのは、子ども向けではありません。いや、おとなに向けての場合も、そぎ落としていく作業が大切です。そして、まして子どもの場合は、単純であることが大切なことだろうと思います。

しかし、このそぎ落とすという作業が、黙想をきちんとしないと難しいのです。黙想ができていない説教というのは、おおよそ長い説教になります。複雑で、難しい説教になります。黙想というのは、いろいろなことを思い巡らして

膨らませる、ということもあるでしょう。けれども、それ以上に、その膨らんだものを見つめ直し、整理して、語るべきことを凝縮させていく、単純にしていく、ということが大切になります。いろいろなことを未整理のまま差し出すのではなく、これ、この一点をきちんと知ってほしい、そう言って、しばって差し出すことが必要です。語る言葉を求めての黙想は、むしろ、この絞る作業になると思います。

この点で、教案誌のカリキュラムに掲載されている「単元の目標」や、説教展開例に記されている「単元のねらい」を参考にさせていただきたいと思います。単元の目標やねらいでいわれていることが、自分の黙想とピッタリくるか、あるいは、なかなかピッタリ来ない、しっくりしないのか。

語るべきことを求めて黙想するというのは、絞る作業だと言いましたが、説教がどこを目指すのか、説教の目当てをきちんと見定める、ということです。語る説教が何を指すのか、どこへと向かうのか。その目当てをきちんと見定める作業になります。その目当てがきちんと見定められてはじめて、この一点を差し出す説教にしようと、まとまっていくのです。

「単元の目標」や「単元のねらい」がしっくり来るなら、それでよいでしょう。しっくりしない、何かピント外れに思える。そういうこともあります。それは、自分がだめとか、説教展開例執筆者がだめとか、そういうものではありません。聖書の御言葉は、一人ひとり、受け止め方が違うものです。また、一人の人であっても、その時その時で響き方が違うということもあるのです。そして、ですから、教案誌に掲げている目標やねらいに、無理に自分をあわせることはありません。もちろん、それなりに考えて、思い巡らして掲げてありますから、尊重し、参考させていただきたい。けれども、最終的には、説教する方が自分で考えるということが優

先します。というのは、自分で確信をもって語ることにしか、説教として語れないからです。自分がきちんと聞き取ったこと、そして、これを語ろうと思う、そう思えるものしか語るできません。聖霊に導かれた説教者の自由ということがあるのです。そういうものを目指して、自分なりの、その説教の目指すところ、目当てを見定めていただきたいと思います。

そのときのよい方法の一つは、カテキズム、教理問答の一つの問答をいつも念頭において黙想するということです。カテキズムの問答は、説教の目当てを指し示すものとして用いることができます。カテキズムというのは、そういうふうにして、具体的に、説教の準備の役に立つものです。

9月4日の説教の場合、目当てとしたことは、神さまを礼拝することから、すべての知恵が始まる、ということです。学校の勉強で身につく知恵ではない。聖書から学ぶ、礼拝することで身につく知恵がある。神を畏れ敬う知恵である。それこそが、人間として、決定的な知恵である。そのことを知ってほしい。そこに目当てを定めることにしました。

### ③聖書と教理を学ぶ

準備の段階の第三は、教案誌や註解書、説教集などを用いて学ぶことです。過去の教案誌や大会作成の教案なども参考になります。聖書辞典や神学事典などを見る場合もあるでしょう。

この学びの目的は、大きくふたつあります。一つは、必要な知識を学び取るためです。知識を学び取るとは、たとえば、ごく単純に、聖書地図を開いて、ギブオンという場所はどこのことだろうか探してみるとか、「知恵」という言葉が用いられている聖書箇所がほかにどこどこがあるのか探して、開いてみるとか。そういう聖書知識のような、必要な事柄を調べることです。聖書を読んだ中で、分からない言葉や

語句など、調べておく必要があります。

そして、もう一つ、大切なことは、自分がここで御言葉から聞き取り、学んだこと、そして、語りたと思ったことが、独りよがりなのではないということを確認することです。聖書から学ぶというのは、何か新規な珍説を見つけなければならない、ということではありません。いや、新規な珍説が披露されるなら、それはかえって危険なことかもしれません。ですから、註解や説教集などを読むときに大切なことは、自分の聞き取ったことが聖書と教理の本筋から離れていないことを確認する、ということです。

そのために、日頃から聖書に親しんでいることが大切です。また、日頃からのカテキズム、教理の学びも大切です。教理というのは何のためにあるのか、その一つは、聖書全体をバランスよく学ぶためです。聖書を読むときに、その聖書全体の筋道から離れた読み方をしないためです。これは、説教を準備するときに慌ててしても無意味です。教会で教理問答や信仰問答が解説されたり、説教される機会があるでしょうから、そういう機会を大切にしていきたいと思います。

9月4日の説教展開例の作成では、マタイ福音書11章25節の「これらのことを知恵あるものや賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました」という御言葉や、暗唱聖句に掲げた箴言9章の「主を知ることは知恵の初め／聖なる方を知ることは分別の初め」という御言葉は、聖書の学びの段階で与えられた御言葉です。最初から思いついていたものではありません。黙想をし、いくつかの教案誌や註解書を開く中で与えられたものです。この御言葉が与えられる中で、自分の黙想が的外れではないことを確認し、また、説教で目指すべきところがいっそうはっきり、明確なものとなりました。

ここまで、準備段階として、三つのことを申

上げました。自分のために御言葉を聞き、また、語るべき言葉を祈り求め、そして、聖書と教理を学び、聞き取ったこと、語ろうとすることが聖書の本筋から離れていないことを確認する。これらは、第一の段階、第二の段階、第三の段階というようにして、この順番でできるというものではありません。むしろ、行きつ戻りつすることのほうが多いでしょう。御言葉を聞き取り、そして、教案誌や註解書で調べて、そして、語るべき言葉を思い巡らす、そういうこともあります。ですから、順序は、いろいろ入り乱れてくるでしょう。それは、まったくかまいません。けれども、事柄として、この三つのことが欠かせない、ということです。

そして、次に説教作成のことを申し上げますが、実際には、説教作成、執筆の段階でも、なお行きつ戻りつするのです。黙想しながら書き、書きながら黙想に戻る。そういうことがしばしばです。そうやって、産みの苦しみを苦しむのです。

## 〈説教作成〉

### ①きちんと原稿を書く

説教作成のこととして申し上げることは、一つは、きちんと原稿を書いていただきたいということです。原稿を書くことには、二つの大きな利益、効果があります。

その一つは、原稿を書く場合に、きちんと段落をつけて、本論一、本論二、本論三など、大きな区分も考えて、執筆することが大切です。起承転結でも、序破急でもよいのです。いずれにせよ、文章というのは、ダラダラと書くのはだめです。きちんと段落をつけ、区切りをつけて書く。そうすると、自分の言いたいことを整理することができます。この段落ではこのことを言う。次の段落ではこういうことを言う。そうやって整理できますし、あらためて黙想することもできます。

文章には、ある一定の論理構造がないと、語

るのも語りにくいですし、聞くほうも聞きにくいのです。そして、論理構造を持つために、段落をつけることをいたします。

いちばんよいことは、まずアウトラインを書く、梗概を書く。いや、黙想の段階から、書いてみることをお勧めします。そして、それに基づいて、アウトラインを整理し、文章を書いていく。もちろん、書きながら変わることもあります。それでよいのです。けれども、そのとき、またあらためて、アウトラインの全体を見直して、全体の見通しの中で書いていく。

時には、必ずしも、アウトラインの全体がはつきりしない、最後まで見通せないで書き始める場合もあります。それはそれでよい。場合によっては、どうやったら、目標としているねらいにたどり着けるのか、自分でもはつきりしないという、黙想が不十分な段階で書き始めることもあります。その場合も、論理構造を整理しながら、段落をつけながら書いていくと、だんだんと、全体像が見えてくるようになります。

こうして、実のところ、原稿を書くことによって、そして、段落をつけて整理しながら書くことによって、黙想が終わるのです。説教を作成する中でも、黙想は続いています。

原稿を書くことのもう一つの効能、利益は、原稿があると、実際に説教するとき、本筋から離れないで説教できる、ということです。

実際に説教するとき、説教原稿から離れてしまうことがあります。原稿から離れることはあってよいことです。説教の現場で聖霊に信頼して思い巡らしながら語るのです。ですから、原稿から離れてよい。ただ、原稿を書いていないと、語るべき本筋から離れて迷い出してしまう。そして、迷ったまま、目当てを見失い、ゴールを見失い、そうして、尻切れトンボで説教が終わってしまう。そういうことになってしまうと悲惨です。聞いているほうも分からないままで終わりますし、説教する側も、説教したあと

のつらさが半端ではありません。何という締まらない説教をしたのだろうと悲しくなります。原稿があれば、多少右に左にそれたとしても、戻ってくるができます。

ですから、ぜひ原稿を書いていただきたい。起承転結、説教のゴールを目指す原稿を書いていただきたい。きちんとシュートまで行く原稿ですね。ぜひ、書いていただいて、実際には、それを見てもよいし、見なくてもよい。見ずに説教できればそれに越したことはありませんが、見てもよい。あまり見るか見ないかにこだわらなくてよいと思います。また、慣れると、メモ書き、アウトラインを書いただけで説教できるようにもなります。そういうこともあってよい。ただ、いつもいつもメモ書きだけではないほうがよいと思います。シュートまできちんとできる原稿を書くというのは、黙想がきちんと終了する、ということです。黙想がきちんと締めくくられるという訓練をするためにも、原稿を書いていただきたいと思います。

## ②聖書の持つ物語性を大切に

二つには、聖書の持っている物語性を大切にしたいです。聖書の御言葉を解説し、ただ説明するだけで終わるならば、御言葉を切り刻むということになってしまいます。また、教訓的なお話、道徳的な訓話のようにしてしまわないことも大切です。きちんと福音を語る。主イエス・キリストの恵みと喜びを差し出す。聖書が物語として語られているところであれば、その物語そのものをもう一度語りなおして、子どもたちの前に生き生きとしたものとして再現してみせる。そういうことにチャレンジしていただきたいと思います。成功する場合もあれば、失敗してしまう場合もあります。しかし、失敗を恐れず、物語の語り部として、聖書の物語そのものを語っていただきたいと思います。

この9月4日の場合、ソロモンの祈りと神がお答えになったというだけでは、子どもたちに生き生きとした形で差し出すことにならないと考えました。そこで、直接、聖書箇所として指定されていませんでしたが、15節以降の、二人の女性の争いのことを取り上げることになりました。ソロモンの知恵が実際に具体的に表された物語を取り上げて、動きのある説教にしたい、そして、子どもたちが興味を持つようにと考えました。

こうして、説教展開例の構成は、

はじめに ダビデの息子ソロモン王

一、二人の女の人の争いとソロモン

二、へりくだるソロモン、祈り求めるソロモン

三、主を畏れることに知恵がある

むすび 神さまを礼拝する知恵

こういう形になりました。

### ③神賛美、信仰告白、感謝と献身へ

もう一つ、説教において大切なことは、説教の全体が、神をほめたたえるものとなることです。もちろん、罪が指摘され、悔い改めが迫られます。けれども、キリストの十字架による罪の赦しがあり、神の恵みを喜び、感謝し、讚美する。説教というのは、そういう頌栄としての性格を持ちます。罪の悲惨の中にある自分を見つめるだけで終わってはなりません。十字架において勝利し、神の右に座しておられるキリストを見つめて、神の御手に捕らえられているものとして自分自身を認識するのです。ですから、神を讚美し、神のくすしきみわざをほめたたえるに至ることが必要です。

別の言い方をすると、キリストの再臨における完成を待ち望む、ということでもあります。地上のことで終わるわけではありません。キリストの再臨とそこにおける完成が視野に入るとい

うことが、キリスト教信仰の持つ大切な性質の一つです。「御国を来たらせたまえ」と祈り、再臨を待ち望む信仰に生きるのです。

ですから、神に信頼し、神に期待し、神を待ち望んで締めくくられる。そういう説教を目指したいと思います。

### 〈終わりに〉

駆け足で申し上げて参りました。言葉足らずのところもあるかと思いますが、ご容赦いただきたいと思います。また、これは、わたし自身、こう祈り願って取り組んでいるということであって、自己反省を含めて申し上げたというのが正直なところです。あらためて謙そんに取り組んでいかなければならないと思います。

高蔵寺教会で、9月4日の礼拝は、わたしの担当でした。実際に、この説教展開例に沿った形で説教しました。説教展開例では、「洞察力」という言葉がありますが、実際の説教では、その言葉は用いませんでした。幼稚園の子どももいますから、洞察力では何のことも分かりません。けれども、神さまを礼拝して、信じて生きることによって、人間は、正しいものの見方を身につけることができる。そういうことはお話ししました。礼拝すること、お祈りすることは、人間が人間であるために欠かせないことですよとお話ししました。子どもたちがどこまで分かったのかは、聖霊なる神様におゆだねすることですが、こういう礼拝の御言葉が積み重なって、まさに子どもたちが主を畏れることに導かれるのだと思います。

こういう説教をする苦勞と喜びが与えられていることに感謝して、いよいよしっかりと取り組んで参りたいと願います。

(高蔵寺教会牧師)

※ 2011年11月23日に開催された「中部中教会学校教師研修会」の発題を掲載しました。

# 教案誌会計報告

中部中会日曜学校委員会発行『教会学校教案誌』は、日本キリスト改革派教会中部中会の事業として、中部中会に会計報告をしています。けれども、収入の多くが教案誌の売り上げと自由募金であることから、2006年度分より、教案誌誌上にも会計報告を掲載しています。

さて、2011年度の教案誌会計は以下の通りです。内容は、中部中会2012年度第一回定期会において報告したものと同一ですが、購読部数などについて付け加えてあります。

中部中会日曜学校委員会  
教会学校教案誌編集部

## 教案誌会計 (2011年3月1日～2012年2月29日)

収 入		支 出	
中会財務より	100,000	出版費	1,332,450
売り上げ(※1)	1,421,350	送料	84,970
自由募金(※2)	211,660	謝礼	96,000
		事務費	10,860
		会議費	26,969
		交通費	44,650
		消耗品費	2,748
		雑費	4,400
小計	1,733,010	小計	1,603,047
繰越金	903,640	繰越金	1,033,603
合計	2,636,650	合計	2,636,650

※1 教案誌定期購読部数 313部

定期購読教会・伝道所数 68教会・伝道所(改革派64、他派4)

定期購読個人数 6人

(これらは定期購読を申し込んでおられる数です)

※2 教案誌自由募金 41教会・伝道所、5個人

(教会・伝道所分)

高蔵寺教会、川越教会、宝塚教会、奈良伝道所教会学校、四日市教会、桑名伝道所、稲毛海岸教会、那加教会、那加教会教会学校、高松教会、新座志木教会教会学校、筑波みことば伝道所教会学校、津島教会、銚子栄光教会、関キリスト教会、青葉台キリスト教会日曜学校、厚木教会教会学校、神港教会、江古田教会子どもの教会、山梨栄光教会、山田教会教会学校、豊明教会、滋賀摂理伝道所日曜学校、名古屋岩の上伝道所、名古屋教会、名古屋教会婦人会、東京恩寵教会日曜学校、大垣伝道所

(個人分)

山隅嘉代子、藤本千春、杉山清美、角谷一子

☆尊い献金をどうもありがとうございました。

## 『教会学校教案誌』発行のための 自由募金のお願い

教会のかしらなる主イエス・キリストの御名をあげます。

中部中会日曜学校委員会（2007年4月中部中会第一回定期会で教育委員会から改組）は、日本キリスト改革派教会をはじめとする改革・長老主義諸教会の教会学校・日曜学校教育に資することを目的として、『教会学校教案誌』を発行しています。2001年4月に始まり、すでに12年目に入り、第46号まで発行して参りました。中部中会ではほとんどの教会により採用され、改革派教会全体でもおよそ70教会で採用されています。大会教育委員会もご支持を表明してくださっています。皆様のご支援に心からの感謝を申し上げます。

『教案誌』の発行は中部中会の事業として行われておりますが、中部中会日曜学校委員会では、あわせて皆様からの自由募金によってご支援いただきたいと願っています。子どもたちの信仰教育のために、ぜひ皆様からのお祈りと募金のご支援をいただきたく、よろしく願い申し上げます。教案誌を購入していただきやすくするために、教案誌の頒布価格を印刷・製本単価ぎりぎりにおさえています。『教案誌』をご購入くださることも発行のための支援となりますので、ご購入いただくことによってもご支援くださいますよう、お願いいたします。

目標金額 30万円／年

送金先 郵便振替 伊藤治郎

00890-2-148183

※通信欄に「教案誌のための自由募金」と明記してください。

聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例

---

テキスト 申命記 6章4, 5節  
子どもカテキズム 問8

問8 私たちの神さまのほかに神々はいますか。

答 神さまはただお一人しかおられません。

私たちをお造りくださった神さま、生きておられる真の神さまです。

神はこのように、御自身の存在のすべてを傾けて、その民を招いておられる。このように招かれて生きる民は、自身も、その存在を傾けて神を愛することへと心を集める。まず神からの愛の集中と呼びかけがあり、それに応じて私たち自身からも神への愛が呼び出される。そのような愛の絆を聖書は「契約」と呼ぶ。その意味で、申命記6章4,5節は、御自身の民を契約的な生へと呼び出す神の決断である。

申命記を取り巻く霊的な環境は、大きな危機に満ちている。荒れ野の40年を経て、民は、今まさに約束の地に向かうため、最後の一步を踏みしめようとする。荒れ野に満ちているのは、茫漠として方向を見失う危険であり、困窮によってもたらされる眩暈である。約束の地カナンでぶつかる試練は、まったく性質の異なるものである。そこには、優越した文化、肥沃な土地とその実りが待っている。

そこで直面する誘惑は、主を忘れることである(6:10-12)。主を忘れるとは、単なる記憶力の問題ではない。神への無関心である。神への関心を失って、なお生きられるという誘惑。それは荒れ野の試練とは別種のものである。フランス改革派教会の哲学者であったジャック・エリュールは、“都市がもたらす最大の誘惑は、祈らないでも人が生きてゆける点にある”と言っている(『都市の意味』)。

そのような霊的な文脈から見ると、この聖句が語りかける愛への招きは、深い警告を含んでいることが明らかである。「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」。神を愛することを避け、神に祈ることを遠ざけても、なお人は生きてゆける。それが、申命記が想

定しているイスラエルの背きである。

神に対する大いなる無関心、神への冷淡、そして祈りを欠いた生活。そのような危険が押し迫っていることを、申命記は敏感に察知している。事実、申命記の信仰を一心に引き受けつつ神の言葉を語った預言者ホセアは、愛を失ったイスラエルのゆえに、神御自身が深く傷ついておられることを、自らの痛ましい体験をふまえて洞察したのである。

神の愛は痛みを伴う愛である。それゆえ、神を愛する愛にも痛みが伴う。どうして痛みなしに神を愛することができよう。そして、神への愛の招きを受けて、私たちが心を傾けて引き受ける痛みは、「悔い改め」以外にない。神を愛しているか？この問いの前に自分を置くとき、深い痛みなしに御言葉を受け取ることはできない。惨めな私たちは、自分の中にいかなる光も持たない。だからこそ、自分の外へと出なければならぬ。それが悔い改めである。悔い改めてどこへ行くのか？イエス・キリストのもとへと急ぐのである。

神は唯一であられる。その事実を、大きな恵みとして届けてくださったのは、主イエス・キリストである。キリストなしに、神が唯一であられるとき、人に残されるのは徹底した悲惨と、徹底した審判のみである。しかし、幸いなことにキリストがおられる。心を尽くして父を愛されたキリスト。魂の限りを尽くして神への誠実を貫いたキリスト。私たちに代わって、神への徹底した愛に生きたキリストだけが、私たちの希望である。キリストを通して神を知る。そのとき、神が唯一であられることは、なんとという幸いとなるだろう。この幸いを聴きなさい！ (小野静雄)

テキスト 申命記 6章4, 5節  
子どもカテキズム 問8

### 〔単元のねらい〕

神が唯一であられることは、この神を信頼する私たちにとって、最大の慰めである。他の神に心をさ迷わせる必要がない。真っ直ぐに人生の意味と喜びを信頼することができる。そのように、神が唯一であることは、全き福音である。しかし、神の唯一性を心から信じるためには、私たちは余りにも自分中心の欲情に膨れ上がっている。神なしで生きてゆけるかのような、人生の恐るべき習慣が、私たちの魂の奥底にまで浸透している。神が唯一であられる事実が、裸の現実として私たちに届くならば、人は自分の悲惨に耐えることができない。人に与えられるのは、地獄の責め苦以外にない。しかし、神が唯一であるという真理は、イエス・キリストを通して私たちに届いたのである。キリストのもとでこそ、神がただお一人の方であるという事実を、暖かでいかなる不安もない福音として聴くことができる。唯一の神を届けることは、キリストを届けることと一つである。神の唯一性は、唯一、という数字の問題ではなく、キリストにおける神の愛の決断である。

## 神さま、あなただけ！

旧約聖書の中で、いちばん大切な言葉は何だろう？ そのように質問されたら、皆さんはどう答えますか。そんな難しい質問には、とても私たちの力では答えることができません。けれども、実はイエス様も同じ質問を受けたことがあります。

一人の律法の学者が、イエス様に質問しました。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか」。するとイエス様は、今朝のこの聖書の言葉を用いてお答えになりました（マルコ12:28以下）。もちろん、旧約聖書の中には、たくさんの大切な言葉、心を打つ言葉、私たちの導きとなる言葉、従うべき教えが溢れています。聖書のどの言葉も、それぞれに神さまが私たちの救いと信仰生活のためにくださった大切な真理の御言葉です。そのたくさんの言葉の中から、イエス様がとくに選んでくださった聖書の言葉。そういう意味で、今朝の御言葉の大切さは、特別なものだと思います。

私たちは、日曜学校の礼拝や、それぞれ自分で聖書を読むことによって、神さまがただお一人の方だ、ということを読んで学んでいます。日本の社会では、神さまがただお一人だという真理を、多くの人々がまだ信じようとしません。とても残念なこ

とです。神さまがお一人だということ。それを信じて、どんな良いことがあるのでしょうか？

何よりも、神さまが真実な方だということが分かります。あちらにも、こちらにも、いろいろな神さまがいるとなれば、どの神さまが本当か、どうして見分けることができるでしょう。聖書では、神さまはご自分のことを「わたし」と言われます。そして、神さまを信じる私たちに「あなた」と呼びかけてくださいます。「わたし」と「あなた」というつながりは、とても暖かく、そして確かなつながりですね。みなさんも自分のことを「わたし」「ぼく」と言うでしょう。そして、そのような「ぼく」も「わたし」も、いまここにいる、ただ一人の「わたし」「ぼく」です。ほかのどんな人とも、取り替えることのできない、大切な「ぼく」、大切な「わたし」です。

神さまも同じです。いいえ、神さまがご自分をまず「わたし」と呼んでくださるからこそ、私たちも、安心して自分を「わたし」と呼ぶことができるのです。このようにして、結ばれた「わたし（神さま）」と「わたし（皆さん一人一人）」の大切なつながりを、聖書は「愛」と呼んでいます。

神さまは、まず私たちを愛してください、そして、私たちにも神さまを愛するように求めておられます。私たちの生活が、このような愛の結び合いによって造られていることは、何という嬉しいこと、何という暖かい喜びでしょうか。

「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」。

これが、神さまからの呼びかけですね。私たちを、真っ先に愛してくださる神さま。そんな神さまが、心を尽くして神さまを愛しなさい、と呼びかけ、命じておられるのです。この大切なご命令に従うことこそ、私たちにとっていちばん大きな幸せだと思いませんか？ 確かにそうです。けれども、はじめの人アダムとエバが、神さまのご命令にそむき、神さまとの約束をやぶって以来、人は、真っ直ぐに神さまを信頼し、“「あなた」こそ私の神です”と、信仰告白することが、とても困難になりました。罪が入ってきたのです。罪は、神さまの愛を疑わせ、そして神さまを愛する心を歪めてしまいました。

ただ一人の神さまを、心から信頼して愛することができれば、本当はこれほど素晴らしい喜びはありません。ところが、私たちの心の中には、自分の心を神さまに向けることを嫌う思いが深く根付いています。神さまを愛する。それは、自分を神さまに委ねることです。愛は、自分を相手に与えます。相手の喜ぶことをしようとします。神さまが、いちばん喜ばれることは、私たちが神さまに心を向けて、神さまに自分を委ねることです。神さまに祈り、神さまを賛美し、神さまが共にいることを喜んで歩む。それが、神さまがいちばん喜んでくださることです。

その大切なことができなくなった！ そして、神さま以外のいろいろなものに、私たちの心は向かってゆきます。神さまよりも自分のことを第一

にするようになりました。神さまの教えより、世の中の考えを大切にする、心の習慣が生まれました。祈るよりも、自分の力を信じて頑張るほうを選んでしまうのです。神さまを押しつけて、自分が自分が、と自分中心の考えに流されています。いろいろな不安、恐れ、怒り、思い煩いが、一気に私たちの心に押し寄せるようになりました。まことの神さまを失った罪が、そのような不安を生み、心が漂うようになったのです。

この漂う心、不安と苛立ちですっかり歪んでしまった「わたし」。そのような「わたし」を、もう一度、神さまの前に連れ戻すため、主イエスキリストが来られました。神さまと、私たちの間に、もう一度「わたし」「あなた」という一筋の信頼を取り戻すためです。イエス様だけが、そうすることができます。なぜなら、「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」と言われる御言葉を、真実に行えたのは、イエス様ひとりだから。イエス様は、私たちに代わって、本当に天の神さまを信頼し、心から従い、そして私たちを神さまの前に、大切な「わたし」にするため、十字架についてくださったのです。

いま私たちが、「神さま、あなただけ！」と心から言えるのは、イエス様のおかげです。イエス様の中には、神さまを愛する愛があふれています。神さまへの信頼があふれています。神さまを喜ぶ心で一杯です。ですから、ただ一人の神さまを信じる道は、イエス様の中にあります。イエス様を心に迎えるなら、私たちの心はイエス様と一緒に、神さまのところへ真っ直ぐ運ばれてゆくでしょう。そして、神さまとの暖かな交わりが始まります。「神さま、あなただけ！」と告白する大きな喜びが、皆さんの心にあふれますように！

(小野静雄)

---

[今週の暗唱聖句] 申命記 6章4, 5節

聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。

あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

---

**〈ねらい〉**

ただ一人のまことの神を信じるとは、心の真ん中にただお一人の神を据えて生きるということである。そのことが人間として生きるための一番大切なことであることを教えたい。

**〈展開例〉****1. 私たちを造られた神様はただお一人**

(洋服を持ちながら) この洋服を作ったのは誰かな? お洋服を作る会社の人がこの洋服を作ったんだよね。洋服のデザインを考える人、布をハサミで切る人、それをミシンで縫う人、ボタンをつける人……というふうに、いろいろな人が協力して洋服は作られます。

じゃあこの世界はどうやって造られたのかな? この世界を造られたのは誰ですか? いろんな神様が協力してこの世界ができたのかな? (神様お一人で造られた)

神様はお一人でこの世界をお造りになりました。この世界のすべてのもの、海も空も生き物も、お一人の生ける神様によって造られました。

**2. 何に向かって生きるのか**

神様は、神様に向かって生きるものとして人間をお造りになりました。すべてのものは神様に向かって生きるように造られました。

でも人間は、ある日神様から離れて自分の好きなどころに向かって生きるようになってしまいました。自分を楽しませてくれるものや、偽物の神様を拝んで生きるようになってしまいました。

今日のみことばには「あなたは心を尽くしてあなたの神、主を愛しなさい」とあります。つまり、あなたの心の真ん中に神様をおきなさい。わたしが、ぼくが一番という生き方ではなくて、神様が一番という生き方をしなさいということです。

**3. 中心がずれているとどうなる?**

(右の図を参照にしてコマを二つ作る)

ここにコマが二つあります。回してみましよう。(一つは真ん中にコマの軸がきているもの。も

う一つは軸が中心から大きくずれているコマ) あれっ? こっちは何回やっても、うまく回らないね。どうしてかな? そうだね。こっちはコマの軸が真ん中にきていないからだね。

じゃあ、こうして軸を真ん中に直すとどうなるかな。ほら、ちゃんと回ったよ。

じゃあ、私たちの軸がずれていたたり、間違った軸がささっているとどうなるかな。

生きるのがつらくなったり、不安になったり、間違った生き方をするようになってしまうよね。

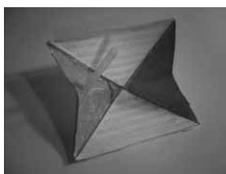
でも神様はそんな私たちを救うためにイエス様を送ってくださいました。イエス様は私たちのずれた軸を直して、神様を中心にして生きることができるようにしてくださいます。

**4. 牛乳パックでコマを作ってみよう。**

**用意するもの:** 牛乳パック (底の部分のみ)、はさみ、ストロー、セロテープ、布製のガムテープ、マジック (きれいなシール)

**作り方:**

- ①牛乳パックの底の部分をハサミで切り取る。中心部分が軸となるよう、×の線のところで折り目をしっかりとつけておく。紙が固くない部分を山折にして折る。
- ②マジックで色をぬる。(きれいなシールを貼ってもよい)
- ③ストローは5~6cmくらいの長さに切り、1cmほどの切り込みを入れて+の字のように開き、セロテープで牛乳パックの底の真ん中にべたりと貼る。  
(指で押さえてしっかり貼る)  
軸の上部(持つところ)に布製のガムテープを巻くと滑りにくくなる。



軸がずれているコマ



軸がずれていないコマ

**〈ねらい〉**

神様が「唯一の神を大切にせよ」と言われた理由を知る。そして、唯一の神を愛することを大切にす。

**〈展開例〉**

今日の聖書箇所をみんなで読んでみよう。次に、「イスラエル」と「あなた」を、順番にみんなの名前に変えて聖書の言葉を一緒に読んでみよう。「聞け、〇〇ちゃんよ。我らの神、主は唯一の主である。〇〇ちゃんは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、〇〇ちゃんの神、主を愛しなさい。」聖書には、〇〇ちゃんの神はどなたと言われてますか。(聖書の神様、唯一の神、天地を作られた神、イエス様、聖霊、表現はいろいろ)

「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、」と言う言葉を、普段使う人はいますか。みんなの言葉で言い換えてみよう。そして書き出してみましよう。(例：一生懸命に、とにかく頑張る、精一杯に、なにがなんでも、心から、めちゃくちゃ……)では、どの言葉が一番すごい言葉かな……。とにかく、神様を一番大事にして愛しなさいということですね。

そしたら、神様は、どうしてこういうことをおっしゃったんだろうか。もし、神様のことをよく知っていたら、きっとみんなは神様を愛するし、大事にするでしょう。神様がここまで言われた理由は何か、考えてみよう。もし、神様を愛さなかったり、大事にしなかったりする理由があるならなんだろうか。もしみんなのお友達の中に、神様を大事にしていない人は何を大事にしているだろう。あるいは、神様でないものを神様にしている人はいますか？誰ですか？(挙げたり、書き出したりしてみましよう。そして教師はクラスの子の置かれている環境を理解しましよう。同じクラスの子、塾の子、近所の人などはどうでしょうか。)そしたら、他の神様はどんな力をもってますか？

……しかし、聖書の神様は全知全能で、この方はただお一人だけです。

神様はみんなを、毎日の生活に送り出す時、神様でないものが神様とされている所へ送り出しています。それは、みんながそこでしっかりと唯一の神様を信じて、本当の神様をみんなに知ってもらうためです。同じことを、聖書のイスラエルの人たちしてきました。

他の神様と言われるものは、何かふしぎな力やおもしろいことをして、みんなの興味をひきつけます。「わあ、いいなあ、すごいなあ」って思わせませす。でもそれは、唯一の神様から目を引き離すことになります。そして、たくさんの人たちの目が引き離されてしまっ、悪いことが起きています。さて、ではお尋ねします。私たちの目を正しく唯一の神様へ目を向けるように教えてくださったのは誰でしょうか……イエス様ですね。私たちがこの唯一の神様を知ることができたのは、イエス様が教えて、助けてくださったからです。

最後に、唯一の神様は、みんなをお造りになりました。だから、みんなのことを一番よく知っています。みんなが神様のことを知る前から神様はみんなのことをよく知っていて、そして何でもできる神様なんですね。だから、聖書の神様から離れないように信じていきましょう。

**〈お祈り〉**

神様。本当の神様じゃないものが、不思議な力やおもしろい言葉、その他のいろんなことで私たちの心を神様から引き離そうとします。でも、唯一の神様のみを信じられるように助けてください。



## 〈ねらい〉

わたしたちの信じる神様が唯一の神様であることの意味を知り、喜ぶことができる。

## 〈展開例〉

(1) 暗唱聖句の穴埋めをしよう。

(下記をコピー。必要があれば拡大して)

(2) 言葉の意味を考えよう。

子どもが自分の言葉で答えるように促す。

「唯一<sup>ゆいいつ</sup>」って、何？→ただ一つであること。それ以外にはないこと。

「唯一の主」ってどういうこと？→「ただお一人の方」「神さま、あなただけ！」(説教展開例より)

「つくす」って、どういうこと？→そのことのために全部を使ってしまう。ある限りを出し切る。

心を全部使い切って、魂を全部使い切って、力を全部出し切って、神さま、あなただけ！を愛

するって、どんなことが考えてみよう。→意見交換をする。(意見が出ないときは、「考えておいてね」と流してよい) 自分の力ではできないが、イエス様が地上のご生涯でご自身のすべてを尽くして神さまを愛された。イエス様とご一緒に、わたしたちは神さまを愛することができる。

(3) やってみよう。

今、分かったことを踏まえて、どんな風に残らいいか考えて暗唱聖句をみんなで読んでみよう。→ ①一斉に。②一行毎に一人ずつ。③役割を決めて。「あなたは心を尽くし」までは一人で、「魂を尽くし」は二人で、「力を尽くして」は三人で、最後の行は全員で読むと迫力がある。

(4) 歌おう。

「アーメン賛美しよう」(プレイズワールド「ジャンプ」2 いのちのことば社)

あんしょうせいぐ

暗唱聖句 (申命記 6 章 4, 5 節)

月 日 名前

け、イスラエルよ。

われらの 、 は唯一の  である。

あなたは、 をつくし、魂<sup>たましい</sup>をつくし、 をつくして、

あなたの 、 を愛<sup>あい</sup>しなさい。

聞 神 主 心 力

(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

「わたしはあなただけを愛します。」これは、好きな人への告白の言葉です。信仰告白も同じです。色々難しく考えることはない。要するに、告白です。神様にコクるわけです。

この告白は、ふられる心配はありません。私たちが生まれる前からずっと見てくださって、ずっと愛していると言い続けてきてくださった方に、「わたしもこれからあなたを愛します」と言うだけなのですから。

神様はどこまでも誠実な方です。絶対にあなたを幸せにする、わたしは裏切らない、わたしに任せろと言っていてくださいます。だから、あなたもわたしだけを愛してくれ、それが神様からいただいたプロポーズです。

私たちの周りにいる人たちの中には、そういう一途な愛をバカにする人が多いみたいです。別に最近のチャラ男だけじゃない。日本人は、特に日本の男は、昔からそういう傾向にあるのです。浮気の一つや二つは、かんべんしてよ。あいつは遊び、お前は本気……。

でもそんなのが、いざとなって通用するでしょうか？ 本気のほうの人に愛想をつかさされるのがオチです。かわいそうに。愛する喜びも、愛される喜びも、本当には知らないのですね。

私たちはどうでしょうか？ 神様との関係で、そんなことをしてないでしょうか？ 「人生やっ

ぱりお金だよ。いくら神様を信じてても、お金がなくてはどうにもならない。」「神様もいいけど、やっぱり自分がしっかりしてなくては。いつもいつも神様に頼ってばかりの弱い人間にはなりたくない。」「わたし占いて好きなんですよ。聖書は意味分からないけど、占いしてもらえば、今日どうすればいいか教えてくれるし……」みたいな。でも、そんなテキトーなこと言っているのは、本当の修羅場を経験してないからです。あなたたちには、かわいそうだけど、これからの人生、鬼のような試練がいっぱいあります。自分なんてほんとにちっぽけな存在だと思知らされる時が必ずある。お金なんていくら持っていてどうにもならないような試練が。

そんな時、どうしますか？ もう、祈ることしかできない。祈らねばどうしようもないという時に、あなたは誰に祈りますか？

ほんとに苦しかった人の話も、私はたくさん聞いてきました。ある人は言いました。もう何を失ってもいい。魂だけが大切だ。魂だけは守らなくては。そう悟って、イエス・キリストの救いを受け入れました。それから、本当に心が楽になったと聞きます。もうこの方だけに任せたらいい。この方が、私以上に私を愛して、責任をもって導いてくださる。その平安の中で、抱えていたトラブルもやがてすべて解決したそうです。

あなたは誰に祈りますか？

本気で愛してみないと、愛される喜びなんて分かりっこありませんよ。



テキスト	エレミヤ書 10章6～11節
子どもカテキズム	問9
参考教理問答	カルヴァン、『信仰の手引き』2 『キリスト教綱要』第1篇10～12章、第2篇8章

問9 神々とは何ですか。

答 人間が造り出したものです。

死んだ人や生きている人、動物や植物などの自然、作り話の神々を拝むことは、私たちの神さまがもっとも悲しまれる愚かなことです。

### 〈偶像と何かを問うこと〉

問8で考えた唯一の神は、「私たちをお造りくださった神さま」です。そのことが問9で「神々」つまり「人間が造り出したもの」と対比されます。ここでは、偶像について考えなければなりません。たしかに「世の中に偶像の神などはなく、また、唯一の神以外にいかなる神もないことを、わたしたちは知っています」（一コリント8:4）。それにもかかわらず、偶像は世にあまた存在するばかりか、今も次々と生み出されています。それはどうしてかを問う必要があるのです。

### 〈偶像を拝むことの愚かさ〉

1～5節でエレミヤは、世で崇められている偶像が、「森から切り出された木片、木工のみを振るって造ったもの」で、「きゅうり畑のかかし」のように、身動きできず、口も利けず、歩けないので、人や動物によって運ばれるものにすぎないと喝破します。それらがどれほど美しく、見事なものであったとしても、所詮は「巧みな職人の造ったもの」にすぎません。聖書は繰り返し偶像の愚かさを説きます。詩編115、135編では、「国々の偶像は金銀にすぎず、人間の手が造ったもの」として、「口があっても話せず、目があっても見えない。云々」と続け、「偶像を造り、それに依り頼む者は、皆、偶像と同じようになる」と語ります。イザヤも44章で、それが「人の形に似せ、人間の美しさに似せて作」られた「無力な神」にすぎないことを明らかにし、46章では、据え付けられれば立つけれども、動くことはできず、「助けを求めて叫んでも答えず、悩みから救ってはくれ

ない」と、生けるまことの神と対比します。なぜならまことの神は、逆にわたしたちを担い、背負い、救い出してくださる神だからです。

### 〈自分に都合の良い神〉

それにもかかわらず、偶像はなくなりません。なぜでしょうか。口があっても口をきくことができない偶像に祈ることは愚かです。しかし、まさに「もの言えない」存在だからこそ、偶像なのです。なぜなら人間に語りかける神などいないからです。「もの言えない」神だから、それに向かって人間は一方的に祈り求め、命令できるのであり、そこに偶像の正体があります。偶像とは、自分に都合の良い神、自分の言いなりになり、自分の思い通りを実行する神のことで、そこでは自分が主であり、神は僕にすぎません。これこそが偶像礼拝の本質なのです。

### 〈偶像とは自分自身〉

偶像は、わたしたちの外にはなく内にあります。カルヴァンは、人間が「偶像の製造工場」であって、「自分の頭で神を考え出す」ことを指摘します。「偶像は精神が生み、手が作り出すもの」で、偶像とは人間の願望をかたどったものであり、自分自身を神として形に表したもので、つまり自分の偶像化であり、「己が腹を神とする」（フィリピ3:19、ローマ16:18）ことにほかなりません。神ならぬ自分が神となること、それが偶像の正体であり、偶像は己れ自身の中にあるのです。偶像とは、自分の意のままになる神であって、偶像礼拝とは自分自身を神とする心のことです。だから神は、それを悲しまれるのです。（三川栄二）

テキスト エレミヤ書 10章6～11節  
子どもカテキズム 問9

### 〔単元のねらい〕

問8では「唯一の神」について考えました。その唯一の神は、「私たちをお造りくださった神さま」です。そのことが問9の「神々」つまり「人間が造りだしたもの」と対比されます。ですから表題は「生ける神」となっていますが、内容的には偶像について考えなければなりません。そもそも偶像の神などいるはずはないのに、偶像は世にあまた存在します。それはどうしてかを問い、その本質は何かを考えさせることがここでのねらいです。偶像とは人間の願望をかたどったものであって、自分自身を神として形に表したものの、つまり自分の偶像化であり、「己が腹を神とする」ことにほかなりません。偶像礼拝とは、まことの神を追い出して自分自身が神となることであり、自分を自分の神とすることです。だから神は、そのことを悲しまれるのです。そのことへと思いを向けさせていってください。

## 自分自身を拝むことの愚かさ

先週は問8で、「生きておられる真の神さま」はただ一人しかおられないこと、そしてその神さまは「私たちをお造りくださった神さま」だということを考えましたね。一コリント8章4節には、「世の中に偶像の神などはなく、また、唯一の神以外にいかなる神もないことを、わたしたちは知っています」と書いてあります。皆さんの周りにも、神社やお寺があり、お地蔵さんが祭られていたり、大きな木にしめ縄がしてあるのを見たことがあるでしょう。けれどもこうしたものは、神さまでもなんでもありません。むしろ神さまがお造りになったものであり、それを人間が勝手に神さまに祭り上げて拝んでいるだけです。こうした神でもなんでもないので、神として拝まれるものを、偶像と言います。

今日はエレミヤ書10章を読みましたが、その前の3～5節も見てください。ここでエレミヤという預言者は、世で崇められている偶像が、「森から切り出された木片、木工がのみを振るって造ったもの」で、「きゅうり畑のかかし」のように、身動きできず、口も利けず、歩けないので、人や動物によって運ばれるものにすぎないと語ります。そうした偶像は、とても美しく造られ、見事な芸術作品として造られますが、たとえどれほど

素晴らしいものであったとしても、それは「巧みな職人の造ったもの」にすぎませんから、こうした偶像が私たちを救うことはできません。だから聖書は、繰り返し偶像を拝むことがどんなに愚かなことかを語ります。今日の暗唱聖句は詩編115編4,5節で、「国々の偶像は金銀にすぎず、人間の手が造ったもの。口があっても話せず、目があっても見えない」ですが、その後には「耳があっても聞こえず、鼻があってもかぐことができない。……偶像を造り、それに依り頼む者は、皆、偶像と同じようになる」と書いてあります。本当にそうですね。イザヤという預言者も、44章で「偶像を形づくる者は皆、無力で、彼らが慕うものも役に立たない」と語り、実は偶像とは「人の形に似せ、人間の美しさに似せて作」られたものにすぎず(13)、「無力な神」にすぎないことを明らかにします。46章でも、据え付ければ立つけれども、動くことはできず、「助けを求めて叫んでも答えず、悩みから救ってはくれない」と語り(7)、生けるまことの神とは全然ちがうことを教えます。まことの神さまは、逆に私たちを担い、背負い、救い出してくださいる神なのです(3,4)。ですから偶像を拝んだり、それを信じて依り頼むことは、とても愚かなことなのです。

そのことは、ちょっと考えたらすぐに分かることなのに、偶像は世の中からなくなりません。偶像は世にあまた存在するばかりか、むしろ今も次々と生み出されています。どうしてでしょうか。さっき見たように、聖書では、偶像に依り頼むことがどんなに愚かなことか書いてありました。なぜなら偶像は、わたしたちが背負わなければ動くこともできず、ただ人間の重荷になるだけだからです。また口はあっても、口を利くことができません。だからそんな偶像に一生懸命にお祈りすることは、ばかげた愚かなことだと教えます。しかしここで考えてほしいのです。私たちはこうして教会に通い、聖書が教える生ける真の神さまを信じ、拝んでいますから、偶像を拝むことなどないと言えるのでしょうか。木や石に向かって拝むことが愚かなことは、誰にでも分かります。しかし聖書は、偶像とはそうした木や石で造られた像のことだけではなくて、実は私たちの心にあると教えるのです。そして生ける真の神さまを信じ、イエスさまに従っているはずの、私たちも偶像礼拝をすることがあるかもしれないと語るのです。

昔イスラエルの民がエジプトを脱出した後、モーセが十戒をもらうために山に登っている間に、待っていた民は金の子牛を造り、それを拝みました。そのとき、その像を「イスラエルよ、これこそあなたをエジプトの国から導き上ったあなたの神々だ」と言って拝みました。つまり彼らは違った別の神さまを拝んだのではなくて、自分たちがこれまで信じていたイスラエルの神を拝んだつもりだったのです。けれどもそれはやはり偶像礼拝でした。なぜでしょうか。見えない神さまに見える形に表わすとき、人間はそれを自分が理解している像、自分好みのイメージの像にして表わします。像という形では、神さまの全体を表わすことができず片寄ったものとなり、そこからゆがんだ神理解が生じ、間違った神礼拝が行われてしまいます。だから生ける真の神さまは、ご自分を像にして表すことを禁じられたのでした。

偶像は口があって話せませんが、このように「ものを言えない」存在であることこそ、偶像なのです。なぜなら人間が神さまに向かって指図し、命令するのであって、人間に語りかける神さまなどいないからです。「ものを言えない」神さまだから、それに向かって人間は一方向的に祈り求め、命令できるのであり、そこに偶像の正体があるのです。つまり偶像とは、私たちに都合の良い神さまのことで、私たちの言いなりになり、自分の思い通りに実現し、お祈りの通りに実行してくれる神さまです。そこでは自分が主であり、神さまは僕にすぎません。そしてこれこそが偶像礼拝の本質です。

自分は教会に通い真の神を信じているから、偶像礼拝などないと思えるなら間違いです。なぜなら偶像とは、私たちの外ではなく内にあるからです。ある人は、人間は「偶像の製造工場」だと語りました。私たち人間は、自分の頭で神を考え出し、偶像を手で作ります。つまり偶像とは、私たち人間の願いを形に表し、思いを像にしたものであって、結局それは自分自身を神さまに仕立て上げて形に表したものにすぎないのです。つまり自分自身が偶像であり、自分の思いを神さまとすることに他なりません。神さまでもなんでもない自分自身が神さまとなること、それが偶像の正体であり、だから偶像は自分自身の中にあるのです。偶像とは、生ける真の神さまを自分の思い通りにしようとすることで、こうした心、つまり神さまを自分の僕にしようとする心こそが、偶像礼拝なのです。だから神は、そのことをとても悲しまれるのです。私たちのお祈りはどうでしょうか。私たちはどうして神さまを信じているのでしょうか。自分のお祈りを聞いてもらうために信じ、自分の思いを実現するために神さまを拝むなら、それが偶像礼拝です。そうではなくて、神さまをこそ神さまとして、心から信じ、愛し、従う、神さまの子どもとなっていきたいですね。神さまを神さまとして拝み、礼拝し、従うこと、これが本当の礼拝なのです。(三川栄二)

---

[今週の暗唱聖句] 詩編 115編4, 5節

国々の偶像は金銀にすぎず、人間の手が造ったもの。

口があっても話せず、目があっても見えない。

---

### 〈ねらい〉

偶像にまどわされずに生ける神様だけを信じていることができる幸いと、幼いときにそのことを正しく教えられる恵みを覚え、偶像礼拝の間違いははっきりと指し示したい。

### 〈展開例〉

#### 1. 何だか変だよ偶像礼拝

リンゴを半分に切る。片方は皮をむいて食べやすいように切る。(この動作を子供たちの前で行う)それから切ったリンゴをみんなで食べる。

さて、残った半分のリンゴを見てください。もし誰かが「この残りのリンゴは、特別なリンゴです。このリンゴの半分は食べるとおいしい普通のリンゴですけど、この半分は違います。拝めば願い事を聞いてくれるリンゴなんです」と言われたらどう思いますか。

もう片方のリンゴに、包丁やナイフで刻んで目と鼻と口をつける。

こうするとどうですか？ 目や口がついたら、このリンゴは目が見えるようになったり、口がきけるようになりましたか。このリンゴは私たちの願いを聞いてかなえてくれることができるようになりましたか。何だか変だね。

でも、多くの人が木や石を刻んで、目や口をつけてそれを拝んでいます。それをちっともおかしいことだとは思っていません。

木や石で作る人形。それらはどんなにりっぱな顔をしていても神様ではありません。ただの木や石にすぎません。その中に命はありません。そのようなものを拝むことを神様はお怒りになられます。

#### 2. なぜそんなものを拝みたくなるのでしょう

海の神様、山の神様、狐の神様……たくさん

偽物の神様がいるわけではありません。神様は私たちを造られた生ける神様ただお一人だけです。お正月になると多くの人が神社に行って願い事をします。

「交通事故にあいませぬように」「試験に合格しますように」「背が伸びますように」。願いごとを聞いてくれる、目に見える神様がほしいのです。お願いしてそれをかなえてもらえると安心したいのです。

#### 3. 目に見えない神様

この世界は神様によって造られました。木や石の中に神様は住んでおられません。神様は目に見えないお方です。目には見えなくても私たちの命を造られた生きた神様がおられることを、私たちは聖書をとおして知ることができるのです。

#### 4. カードめくりゲーム (ぼうずめくり)

画用紙をトランプぐらいの大きさに切ってカードを作る。裏に何もかいてない(または何かのマーク)カードを47枚ほど、偶像の絵を貼ったものを5枚ほど、十字架の絵を貼ったものを2枚ほど作る。最初にカードをよく混ぜて、真ん中に積み上げる。

①じゃんけんをして勝った人から時計回りに一枚ずつカードをめくる。

②何もかいてないカードならもらえる。

偶像の絵が出たら自分の持っているカードを場に捨てる。

十字架の絵が出たら場のカードを全部もらえる。

積んであるすべてのカードがなくなったときに、一番たくさんカードを持っている人の勝ち。



**〈ねらい〉**

生ける神様と偶像の神との違いを知り、生ける神様のみを信じることができるようにする。そして、偶像を造らないようにする。

**〈展開例〉**

私たちをお造りなり愛してくださっている神様は、この世界のすべてのものをお造りになりました。そして、今も存在し、今も働かれています。それで、「生ける神様」とお呼びしたりします。生ける神様って、おもしろい表現だと思います。昔の人たちは、「主は生きておられる！」といて、神様をほめたたえて礼拝をすることがありました。

さて、「生ける神様」っていうのと、ただ「神様」というのでは、何が違いますか。神様と人と同じように考えたら神様に失礼だけでも、「生ける〇〇ちゃん」「〇〇先生は、生きておられる」という文章の〇〇の部分に、自分の名前を入れてみても良いでしょう。みんなの意見を聞かせてください……。

その人の力を認めている言葉になりますね。「生ける神様」という場合、神様の力を認め、神様ご自身の力で生きて働かれておられることを認めるわけです。神様はご自身の力で生きることができ方です。

さて、今日の大切な話は、この反対のことで。 「生ける神様」の反対は、「死んだ神様」です。神様は死なないから変な表現だけでも、神とか神々とか言われているもので、偶像というものです。偶像は自分の力ではちゃんと存在できません。

木の像とか、石の像。これを神々にしている人たちがいます。でも、木の像や石の像は、自分で自分の体を造れるでしょうか。人に造ってもらわないと存在できません。

それにアニメやマンガ、ゲームに登場する神様も偶像です。アニメやマンガの神様は人が書かないと存在できないし、本をとじたらそこからできません。ゲームは戦って倒せる神はまことの神じゃないし、そもそも電源を消しちゃえば存在できませんね。人の手で造ってあげたり、倒しちゃったり、電気をつけてあげなきゃいけない神様は、偶像の神様です。もし偶像が本当の神様なら、壊しても自分で直るし、海に投げ捨てても自分で戻ってくるでしょう。人間だって海落ちたら自分で泳いで戻ろうとします。偶像は何もできません。こんなものを拝んでも仕方ありません。しかし、不思議にもたくさんあるんです。

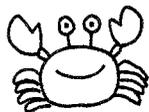
この偶像の神様はどれほどたくさんあると思いますか。それはもう数えきれませんよ。なんでそれほどたくさんあるんでしょう。偶像をつくることは神様が嫌うことだからいけないけど、もし自分が造りたいと思ってしまうならどんな時でしょうか……。

それは、自分が冗談抜きで困ってる時に思い通りに願いを叶えてくれたり、自分が好き勝手に楽しみたいという時じゃないでしょうか。こんな神様がいたらいいなあって、人は、罪人はいつでも思っちゃんだ。それで人間が偶像をつくっちゃいます。私たちも神様を忘れていて偶像を造ってしまうかもしれません。それは神様が悲しまれます。

昔の人がこう言いました。「人間は『偶像の製造工場』。私たちはそれをしないように、まことの生ける神様だけを信じていきましょう。

**〈お祈り〉**

たくさんのお偶像があっても、わたしたちはまことの生ける神様だけを信じることが出来ますように。また、わたしたちが偶像をつくらないように助けてください。



## 〈ねらい〉

偶像礼拝とは自分自身を神とすることであることを知り、本当の神さまに心を向けることができる。

## 〈展開例〉

(1) 暗唱聖句の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「偶像」って、何？→木・石・土などで作った、神や仏をかたどった像。あこがれや尊敬・妄信などの対象となっている人や物事。

知っている偶像を書き出してみよう。(言わせるだけでもいいが、時間があれば、書かせるといういろいろなことが分かる。例えば照る照る坊主が「テルテル」だったり「てるてる」だったりする。絵で描かせても面白い)。子どものイメージする偶像を丁寧に聴き取る。時期的に、七夕、夏祭り、折り鶴なども出るかも。アイドルや自己の

偶像化についても子どもの口から出るとよい。

(3) やってみよう。

偶像を信じる人の気持ちについて考えよう。どうして、偶像を信じるのだろうか？→人々の願いや希望。それらを生み出す不幸や不安や不安定さ。目に見える偶像にすがりたい気持ち。

わたしたちはどうするのか考えよう。わたしたちの中にも目に見えるものを神さまにしようとする気持ちがないか。(説教展開例より) 自ず自身を神さまにしていることはないか。

そのような自分の罪を見つめながら、そして本当の神さまを知らない国々の人々に伝道する指名を自覚しながら、もう一度暗唱聖句を読む。

(4) 歌おう。

「主エスよ心から」(ひむなる131 インマヌエル総合伝道団讃美歌委員会)

あんしやうせい く

暗唱聖句 (詩編115編 4, 5 節)

月 日 名前

々の偶像は  銀にすぎず、

間の  が造ったもの。

があっても  せず、

があっても  えない。

国 金 人 手 口 話 目 見

(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

アイドルっていますよね。AKBとか、嵐とか。アイドルって、偶像って意味です。私はクリスチャンじゃなかった頃に、そのことを知ったのですが、あんまりピンときませんでした。偶像ってなに？って感じです。

でも今は、よく分かる気がします。「偶像とは、私たちに都合のよい神様のことで、私たちの言いなりになり、自分の思い通りに実現し、お祈りの通りに実行してくれる神様です。」「偶像とは、生ける真の神様を自分の思い通りにしようとするので、こうした心、つまり神様を自分の僕にしようとする心こそが、偶像礼拝なのです。」(いずれも説教展開例より)

要するに、偶像というのは、自分で勝手に作り上げたイメージです。アイドルもイメージです。最近のアイドルはそうでもないみたいですが、昔はいろいろと厳しいルールがあったそうですよ。「恋愛は禁止」「お酒飲んじゃだめ」「怒っちゃだめ」etc……。なぜって？ イメージを壊しちゃダメだからです。

アイドルというのは、ファンのみんが作り上げたイメージを壊しちゃいけません。「清楚で、かわいくて、彼氏なんか絶対いなくて……」っていう勝手なイメージです。アイドルっていうのは、そうやってみんなのイメージで、その人本人とは別の人格が作り上げられていく。そしてファンというのは、そのイメージに無理やりその人を合わせようとする。合わないことをすると、がっかりしたり怒ったりする。

偶像の神々を作り出した人々の気持ちというのも、それと同じようなものです。私は仏像を芸術作品として見るのが好きで、本も持っていますが、おもしろいですよ。病気をなおしてほしいければ、薬の瓶をもった薬師如来のところに行けばいい。戦いに勝ちたければ毘沙門天なんてのもいますよ。不動明王なんかもかっこいいね。いろんな神仏がいて大変だ。

みんなも、自分で偶像のイラストでも書いてみるといい。どんな神様がいたら便利かな？ 恋愛の願いをかなえてくれる愛の女神。お金持ちにしてくれる神様の名前は、セレブ神。色んな願いがあるよね。スポーツ万能になりたい、ケーキ屋さんになりたい、スマホがほしい……。そういう願いひとつひとつに、それぞれの神々のイメージを作っていたら、さぞかしにぎやかなことになるでしょう。(実際に分級でやってみてはいかが？)

そうやって冗談で笑っている分にはかまいません。でも、ここで一回、真剣に考えてみてほしい。私たちはそういう勝手なイメージを、聖書の神様にも押し付けていないだろうか？

神様は、私たちの思うようになる方ではないし、願いどおりに動いてくださる方でもない。むしろ、生きて自由に動いておられる神様の思いに、私たちのほうが合わせていく必要があるのです。

聖書に示された神様の御心を、「私のイメージと違う」なんて言って、勝手にねじまげてはいけませんよ。神様を、自分のイメージに合わせようとしてはいけませんよ。「私にとって神様とはこういう方」という言い方が、もう偶像崇拜の始まりなのです。



テキスト ヨハネによる福音書 14章25～27節

子どもカテキズム 問10

参考教理問答 ウェストミンスター信仰告白2:3、ウェストミンスター小教理問6、  
ウェストミンスター大教理問9、10、ハイデルベルク問23、24、25

問10 私たちの神さまにはいくつの位格がありますか。

答 真の神さまには三つの位格があります。

御父なる神さまと御子なる神さま（イエスさま）と聖霊なる神さまです。

この三位は同質であり、三位一体の神さまです。

CRJM のジョン・ソク・ゴー宣教師が提供しているテモテ指導者訓練の「聖書的説教」モジュールを参考に項目を立てました。

### 【KEY1 聖書本文を語る】

[STEP1] 聖書本文を読む。ヨハネ14章25～27節

[STEP2] この個所のテーマは何か？

カテキズムを意識するなら、「父なる神が、イエスの名によって、聖霊を遣わす」こと。

[STEP3] この個所はテーマをどのように展開しているか？

イエスが天に昇られると、父なる神が弁護者（聖霊）を遣わして、すべてを教え、キリストの平和を実現する。

### 【KEY2 神の福音を語る】

[STEP1] この個所で神は何をされているか？ご自身について何を表しているか？

神は、イエスが世を去るので恐れる弟子たちのために、聖霊を遣わしてキリストの平和を与えてくださる。

[STEP2] 前後の節／章は、神について何と言っているか？

13章から最後の晩餐の場面が始まる。互いに仕え合い(13:14)、愛し合うことがキリストの掟であり(13:34)、キリストを愛する者はそれを守る(14:15)。父なる神とキリストはその人と一緒に住む(14:23)。聖霊もまた永遠にその人と一緒にいる(14:16)。キリストを見た者

は父なる神を見たのであり(14:9)、キリストを通らなければ父のもとに行くことができない(14:6)。

[STEP3] 聖書全体を通しての神の働きに、この個所はどのように関係しているか？

旧約の歴史を通じて離反をくり返してきた神の民に和解を与えるため、父なる神は御子キリストを世に遣わされた。父の御旨をすべて成し遂げたキリストは、世を去り、聖霊が遣わされることによって救いが完成される（経綸的三位一体論）。

### 【KEY3 子ども達の信仰と生活のために語る】

[STEP1] この個所を最初に聞いた人たちの必要は何だったか？

キリストがすべてのなすべき業を終えて、世を去られたことは、残された者たちにとって、恐れと不安を与えることだった。

[STEP2] 私たちの教会の子ども達に似たような必要があるか？

目に見えないキリストを信じ、従うことに難しさがある。

[STEP3] この聖書箇所「その時」から、私たちの教会の「今」へ橋をかける。

キリストが目に見えなかったとしても、聖霊によって、キリストと父なる神とに一致した神の業が継続されていることに励ましを受けることができる。  
(大西良嗣)

テキスト ヨハネによる福音書 14章25～27節  
子どもカテキズム 問10

---

### 〔単元のねらい〕

子どもカテキズム問10は、三位一体の教理を教えます。父・子・聖霊という三つの区別された位格があると同時に、唯一の神であられるという三位一体の教理は、論理的に理解することが困難です。それは、聖書が救済史の中に言い表した三位一体の神様（経綸的三位一体）を、存在論的に言い表そうとしていることに一つの理由があります（存在論的三位一体）。今日の聖書箇所は、救済史の中に表された三位一体の神様のお働きを言い表した部分ではありますが、その存在論的なあり様をも垣間見させてくれる文脈にあります。主が三位一体であられるということが、私たちの信仰の歩みに、慰め・励ましを与えるものであることを、子どもたちと分かち合うことができればと願います。

---

## 今も共にいて働いてくださる三位一体の神様

---

今日の箇所は、イエス様が十字架につけられる前の夜に、イエス様が教えてくださったことです。

イエス様は、まもなく、ユダヤ人たちに捕まわってしまいます。そして、十字架にかけられて死なれます。そして、三日目に墓からよみがえられます。復活したイエス様は、四十日間、いろいろなところでお弟子さんたちに現れてくださいますが、ついには天に昇って行かれます。

イエス様は、天にいらっしゃる父なる神様から遣わされて、世界にやっ来て来られました。そこで、父なる神様がするように、イエス様に命じられたことをすべて行われました。病人を癒し、悪霊を追い出し、人々に神様のことを伝えました。人々のために多くのことをしてくださいました。人々に仕えるために来られた方です。最後には、十字架にかかって、私たちの身代わりとなって死んでくださいました。神様に知らん振りして、神様に背いて生きていた私たちが受けなければならない罰を、イエス様が代わりに、受けてくださったのが十字架です。

そのようにして、イエス様は、私たちが救われ、神様の子どもとして歩み出すために必要なことをすべて行ってくださいました。ですから、イエス様は、父なる神様のもとへお戻りになったのです。

けれども、今まで、目に見えていたイエス様がいなくなってしまうというのは、とても悲しいことでした。いつも一緒に過ごしていたお弟子さんたちは、これからどうしたらよいのか、不安でした。ユダヤ人たちに、ひどい目に遭わされるのではないかと、怖くなりました。イエス様が教えてくださったことを、しっかり、みんなに伝えられるかどうか心配でした。イエス様のことを、きちんと伝えなければならないのですから、責任重大です。

父なる神様は、イエス様を天に連れ戻された後、「あとは自分たちでやりなさい」と弟子たちや、私たちのことを放り出されたわけではありませんでした。

父なる神様は、ちゃんと、よく考えてくださっていました。イエス様が救いに必要なすべてのことをやり終えた後は、聖霊なる神様が、それを私たち一人ひとりの救いとなるように完成させてくださる計画を持っていました。

イエス様は、そのことを今日の箇所で、弟子たちに教えられたのですね。「しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくだ

さる。」この聖霊なる神様が、永遠に私たちと一緒にいてくださいます。

だから、お弟子さんたちは「イエス様が教えてくださったことを、ちゃんと思い出せるかなあ？」なんて、心配をしなくてよいのですね。聖霊なる神様が、きちんと教えてくださるので、必要なことはすべて思い起こすことができるようにしてくださいます。何も心配をしなくてよいのです。

イエス様がいなくなると、心細くて心配になってしまうかもしれません。けれども、聖霊なる神様が、イエス様の平和を与えてくださいます。イエス様の平和というのは、つらいことや苦しいこと、だれかからひどい目にあわされることがないということではありません。お弟子さんたちは、実際、イエス様を信じて、宣べ伝えようとしたために、多くの人たちからひどい目に合わされました。それでも、どんなことがあっても、イエス様を信じ、イエス様が命じられたとおり、周りにいる人たちを愛して、その人たちが喜ぶことをいつも行っていこうとするなら、イエス様の平和があります。聖霊なる神様は、救われた私たちが神様の子どもとして歩もうとするのを、共にいて助けくださる方です。

### 【三位一体の教理】

私たちの信じている神様は、私たちが救われて、神様の子どもとして生きることができるようになら、力を尽くしてくださる方です。なぜなら、神様の

子どもとして生きることが、何よりも素晴らしく、私たちにとって幸せだからです。

父なる神様は、そのために子なる神様であるイエス様を遣わされました。そして、イエス様は、この世界で歩まれ、最後には十字架につけられてくださいました。それは、私たちの救いのためでした。そして、イエス様の救いを私たちのものとするために、聖霊なる神様が遣わされました。

父なる神様、子なる神様、聖霊なる神様のことを三位一体の神様と呼びます。この方たちは別々の方ですが、ただ一人の真の神様です。父なる神様も、子なる神様も、聖霊なる神様も、一つとなって、私たちの救いのために全力を尽くしてくださいましたし、今も、全力を尽くして下さっています。

私たちは、父なる神様のことも、イエス様のことも自分の目で見ることができません。聖書には、神様がしてくださったたくさんのごこと、イエス様がなさったたくさんのお働きが記されていますが、それらを見ることもできません。けれども、神様は、聖霊なる神様を遣わして下さって、三位一体の神様のお働きを今も続けていらっしゃるのです。聖書に記されている父なる神様・子なる神様のお働きが、今、私たちのところで、続けられているのです。

ですから、私たちは、神様の子どもとして、確信を持って生きていくことができるのです。力強い神様のご存在を感謝します。 (大西良嗣)

---

[今週の暗唱聖句] ヨハネによる福音書 14章26節

しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。

---



**〈ねらい〉**

神様が三位一体であられるということをお子たちにできるだけわかりやすく伝える。

**〈展開例〉****1. 三人なのに一人？**

今日、お話しの中で、どんな神様のお名前がでてきたか、覚えていますか。

父である神様、子である神様、聖霊である神様でしたね。

じゃあ、神様って三人いらっしゃるのかな？でも、聖書は神様はお一人だけですと教えています。

三人なのに一人ってとてもわかりにくいですね。私たちは神様のことを全部知ることはできません。それは、神様が私たちよりも大きくて素晴らしいお方だからです。

この教えは、人間が考え出したものではありません。神様が、ご自分はこういう神様ですよと教えてくださっていることなのです。

**2. 神様のお働き****①父なる神様って？**

父なる神様はこの世界を造ってくださいました。

**②子なる神様って？**

イエス様のことですね。私たちを救うために、来てくださいました。

**③聖霊なる神様って？**

私たちをいつも助けてくださる神様のことです。

父なる神様がおられなかったら……この世界には草や花、生き物も何一つないでしょう。

子なる神様（イエス様）がおられなかったら……私たちを罪から救ってくださる方がおられません。

聖霊なる神様がおられなかったら……私たちに助けたり、導いてくださる方がおられなくなります。

**3. 工作をしよう**

三つだけど、一つということが少しでも理解できるように、三角錐の工作を作ってみましょう。

(→次ページを参照)



用意するもの：厚紙、ハサミ、カッターナイフ、色鉛筆かマジック、セロテープ

作り方：

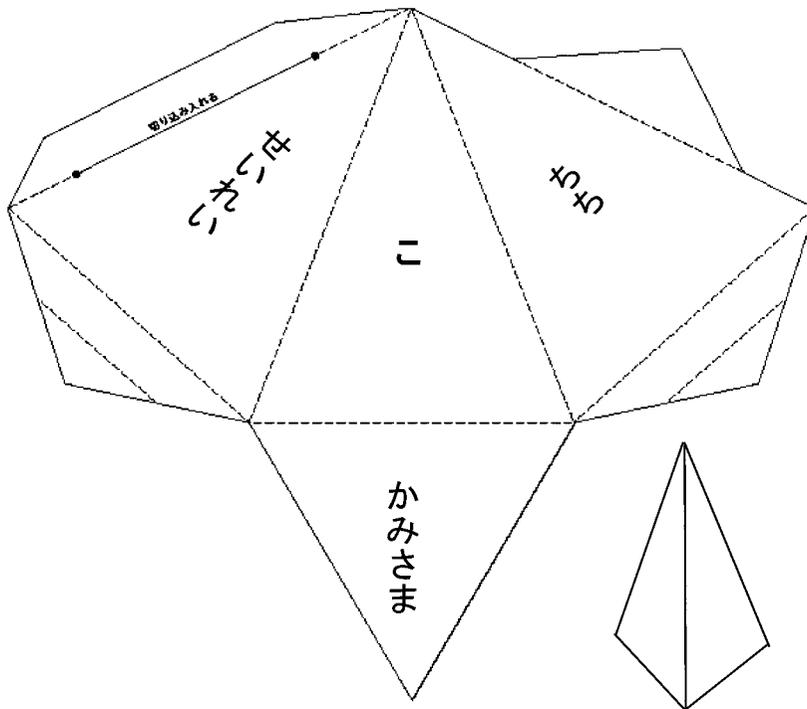
- ①厚紙に三角錐の展開図を書く。各面に「ちち」「こ」「せいいい」「かみさま」と書く。  
各面の字は別の紙に書いて、あとで貼りつけてもよい。
- ②輪郭を切り抜く。
- ③各面に色を塗る。

.....ここまでは教師がやっておく.....

- ④ ●——●に切り込みを入れる。
- ⑤点線の部分を山折にし、組み立てる。
- ⑥切り込みに三角の部分を差し込む。
- ⑦外れないようにセロテープでとめる。

使い方：それぞれの面は三位一体の神様がそれぞれ別々の人格を持っておられることを表している。

また、その底辺は同格の神であることを表す。(子どもにはこのような説明は難しいので父なる神様も「かみさま」、子なる神様も「かみさま」、聖霊なる神様も「かみさま」と言いながら、「かみさま」というときに裏返して見せるとよい)



**〈ねらい〉**

三位一体は論理的には説明できないが、やはり三位一体としかいようがない。聖霊の働きを説明しながら、救いの観点から三位一体の神を伝える。

**〈展開例〉**

(分級の中で話し合うことは、大きな紙に書きとめながら進めるとよい。)

今日のカテキズムを読みましょう。今日のお話に出て来た神様の名前を挙げてください……。

「父、イエス様、聖霊」……父と子と聖霊の三つの名前があり、これを三位といいます。覚えてくださいね。しかし、一人なのに三人に見えるのは不思議ですね。ここで、神様と人間との違いを一緒に考えて挙げてみましょう。……いろんな違いがありますね。大切なのは、神様でいらっしゃるから、人間を数える仕方が全く同じなのではありません。昔から教会の人たちが長い間聖書をよく読んでずーっと調べて分かったことは、やっぱり神様は三位一体としかいようがない、ということでした。父なる神様も、イエス様も、聖霊も神様であって、ただお一人の神様。だから、聖書の神様を一番良く表す言い方が、三位一体の神様なんです。

さて、さっき、神様と人間との違いをいろいろ挙げましたね。もしかしたら、神様は人間を救えるけど、人間には人間を救えない、というのがあるでしょうか。私たちが罪から救い出してくださいのお働きに、三位一体のお働きが一番よく表れています。

今日のお話は、イエス様が死ぬ直前の話でした。死ぬ直前には、すごく伝えたい大切な話をすると思います。この時のイエス様もそうでした。イエス様は十字架にかかって死んだら、お弟子さんたちが不安になることを知っていました。でも、私のかわりに聖霊が遣わされる、だから大丈夫、安心なさい、と力づけてくださったのです。

聖霊なる神様は、イエス様のように人間の体は持っていないんだけど、今、私たちと共にいて、目には見えないけども私たちの内で外で働いてくださるとても大切な神様です。聖霊なる神様は私たちに何をなさるかということ、神様を信じることができるよう働いてくださるし、神様に従うのはどうしたらいいかなあと困る時に、助けてくれる神様です。とても大切な働きをしてくださいます。

私たちが救われるのは、父なる神様の働きと、イエス様の働きと、聖霊なる神様の働きによって救われます。どれか抜きで救われることはありません。たとえば、聖霊の働きはなしで、父なる神様とイエス様だけの働きで救われることはありません。イエス様もこう言っています。「父と子と聖霊の名によって洗礼を授けなさい」(マタイ28:19)。人間を救えるのは神様しかいません。そして、一人の方としかいようのない仕方で、私という一人の人を救ってくださいます。

たとえば、みんな、父なる神様にお祈りしてから、またイエス様にお祈りして、そしてまた聖霊なる神様にお祈りしなきゃいけない、ということはしないよね。神様、って一人の方に呼びかけてお祈りします。同じように、賛美する時も一人の神様に賛美をささげます。神様はただお一人なんです。

そして、今日は詳しくお話できないけど、最後に言うておくことは、三位一体の神様が救ってくださるなら、私たちの救いは間違いない、確かだ、ということです。三位一体の神様だから、私たちは安心して救われる、ということ覚えてくださいね。

**〈お祈り〉**

三位一体の神様を教えてくださいありがとうございます。どうかこれからも信じていきますように。私たちがこれからもお守りください。

## 〈ねらい〉

三位一体という言葉を知り、神さまの子どもとして生きてくための大きな恵みであることを感謝することができる。

たがたがといたとき、これらのことを話した(25節)である。聖霊なる神さまは、イエス様のお話を、わたしたちに教え、思い起こさせてくださる。

## 〈展開例〉

(1) 暗唱聖句の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「弁護士」って、何?→その人の益となるようにかばってくれる人。申し開きをして立場を護ってくれる人。

「すなわち」は「＝」という意味で、「①弁護士」＝「②父が私の名によってお遣わしになる聖霊」である。「①」「②」をそれぞれ丸で囲んで「＝」で結び、視覚的に理解を助けると良い。

「わたし」って誰?→展開例通りの説教をしっかり聞いていたお友達は答えられる。

「しかし」の前は「わたし(イエス様)はあな

(3) やってみよう。

父なる神さまと子なるキリスト・イエスさまと聖霊なる神さまが、3人だけれどお一人の神さまでいらっしゃることをなんと言うか? 空欄に数字を漢字で書こう。

暗唱聖句の「父」「わたし」「聖霊」をそれぞれ丸で囲んで、三位一体の神さまが働いてくださって、わたしたちの救いが完成されることを喜ぼう。

(4) 歌おう。

「声を合わせて」(二宮忍)

ホームページから楽譜と楽曲のダウンロードができます。[http://ogaki-ch.com/ss\\_text/46](http://ogaki-ch.com/ss_text/46)

あんしょうせい く

暗唱聖句 (ヨハネ14章26節)

月 日 名前

しかし、<sup>べんごしや</sup> 弁護士、すなわち

がわたしの  によってお遣<sup>つか</sup>わしになる

が、あなたがたにすべてのことを教<sup>おし</sup>え、わたしが

話<sup>はな</sup>したことをことごとく思<sup>おも</sup>い起<sup>お</sup>こさせてくださる。

父なる神

子なるキリスト

聖霊なる神

位

体

父

名

聖

霊

(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

前回、前々回の学びで、唯一の生けるまことの神のみが存在することが教えられました。この唯一の神に、御父・御子(イエス・キリスト)・聖霊という三つの位格(人格)があります。この三位一体の神という教理こそ、私たちのキリスト教信仰の一番大事なところでもあり、他宗教(特にユダヤ教・イスラム教)と一線を画す最大の特徴です。

①三位格には、それぞれに固有なあり方と働きがあります。

父なる神：おもに、世界の創造と保持・統治、また救いの計画を担われます。

子なる神：おもに、私たちのための救い(あがない)の御業(受肉・十字架・復活・昇天)を担われます。

聖霊なる神：おもに、私たちの内側でキリストの救いを適用して下さいます。

②この三位格は、いずれも力と栄光において等しく、神の神たるところの神の真髄を共にしています。御子や聖霊が御父より劣っていることはありません。

③父なる神が、ある時はキリストに変身し、ある時は聖霊となるということでもありません。あくまでも区別された三つの位格です。

④しかも、この三者が別々の神様ではなく、一人の神様なのです。

と、教科書的に説明してみましたが、よく分からないでしょう？ 分からなくても仕方ありません。このような三位一体の教理は、神様の深い深い奥義に関わることであって、人間の理解を超えた神秘です。この神秘を神秘のまま受け取ること

を嫌がって、もっと人間に納得しやすいように整えようとする人たちは、長い教会の歴史の中にいっぱいいましたし、今もいます。エホバなどの異端も、そうやって生まれてきたとも言えます。イエス様は神と人間の間くらいで、聖霊は神様の力の波動だなんていう具合に、分かりやすくしてしまうのです。でもそういうのは、いと高き方である神を、自分たちの理解できるお手頃なものにまで引き下げようとする傲慢です。聖書の神様は、神秘に満ちた方で、人間が考え出すような安っぽい「神」とは全く異なる方であることを認めねばなりません。

新約聖書には、イエス・キリストは神であるとはっきり啓示されています(ヨハネ1:1、20:28、ローマ9:5、フィリピ2:6、コロサイ1:15、テトス2:13、ヘブル1:3など)。これはユダヤ社会の一神教的背景にあって、驚くべき大胆な告白です。そしてイエス様ご自身が、自分は神の特別な「独り子」だと証言され(ヨハネ1:14、18、3:16、18)、神について「わたしの父」と呼んでおられます(マタイ7:21、11:27、ルカ2:49など)。そしてイエス様ご自身が、ご自分の代理の「救い主、慰め主、弁護者、助け手」として、人格的な神である「聖霊」を遣わすと約束されています(ヨハネ14:26、15:26、16:14)。

このように、父なる神と並んで、イエス・キリストと聖霊も神と告白され、しかも同時に、「神は唯一である」という真理は、聖書の不動の前提なのです。この聖書に啓示された神からの自己紹介の前にひれ伏し、ただ素直にアーメンと受け入れるならば、結果として三位一体論にならざるをえないのです。

要するに、聖書にそう書いてあるのだから(イエス様がそうおっしゃるのだから)、そのまま素直に信じるってことです。

テキスト ローマの信徒への手紙 11章33～36節  
子どもカテキズム 問11

問11 私たちの神さまの全能、主権とは何ですか。

答 私たちの神さまが、すべてのものを神さまの栄光のために定め、  
造り、保ち、支配しておられることです。  
神さまの力の及ばないところは、宇宙のどこにもありません。

子どもカテキズムでは「神様の全能、主権」について、「私たちの神様が、すべてのものを神様の栄光のために定め、造り、保ち、支配しておられること」そして、「神様の力の及ばないところは、宇宙のどこにもない」と、教えています。

これは、ウエストミンスター小教理問答では、聖定・創造・摂理の部分すべてを含んでいます。そのような計り知れない偉大なお方を「私たちの神様」と呼んでいます。

この子どもカテキズム問11で、このように「神の聖定・創造・摂理」をまとめて取り上げて、この後、問12で「神の創造について」、問13で「神の摂理の働きについて」取り上げています。

「神の聖定」については個別に取り上げられていないので、この問11で創造も摂理も含めた「神の聖定の計り知れなさ」を子どもたちに伝えたいのかもしれませんが。

また、ここでは「神の全能と主権」について思い巡らすにあたって、「聖定を創造と摂理の御業によって実行なさる」神の偉大さに子どもたちの思いを向けさせたいのかもしれませんが。

しかし、子供たちに「神の全能と主権」を教えることはなかなか容易なことではないと思います。勿論、創造と摂理についても説明は容易ではないでしょう。ではどうすれば子供たちに「神の全能と主権」を理解させることができるでしょう。

やはり聖書そのものから、神の全能を教えることが、もっとも分かり易いように思えます。

「全能の神」として、神御自身が自らを父祖たちにお示しになりました。「全能の神」とは、ヘブライ語では「エル・シャダイ」と言います。

まず、神はアブラハムに御自身を「エル・シャダイ」「全能の神」として現わされました。創世記17章1節以降です。「アブラムが九十九歳になった時、主はアブラムに現れて言われた。『わたしは全能の神（エル・シャダイ）である』……」このように御自身を「全能の神（エル・シャダイ）」として自己紹介なさり、アブラハムとサラの間に息子が与えられ、その息子から契約の民が増え広がる約束をお与えになりました。

この時、アブラハムは自分の弱さ、自分の限界を思い知らされていました。そんな中で、自分とサラから約束の子どもが与えられるとは到底考えられない。まさにそのような状況の中で、神は、御自身を「全能の神（エル・シャダイ）」として現わされました。

一方では人間の弱さ、限界が徹底的に知らされる。そのような状況の中で、神の全能と主権とが示される。そうして私たちは、パウロ同様、このような告白へと導かれるのです。

「ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。だれが、神の定めを究め尽くし、神の道を理解し尽くせよう……。すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン」と。

(芦田高之)

テキスト ローマの信徒への手紙 11章33～36節  
子どもカテキズム 問11

### 〔単元のねらい〕

「神様の全能と主権」を知らされる時、同時に私たちは自分の弱さや限界に気付かされます。自分の弱さや限界に直面する時にこそ、「神の全能と主権」を実感させて頂けると言ってもよいでしょう。ですから、「神の全能と主権」を知らされることと、「私たち自らの弱さと限界」を知らされることとは、表裏一体の関係にあると言ってもよいでしょう。この表裏一体の事実を子どもたちの現実にも照らしながら教えたい。しかし、むしろ聖書にある記事から、人間の想像を超えて「神の力と知恵とは計り知れない」という事実に思いを向けさせることが、より説得力を持って子どもたちに「神の全能と主権」の事実をその心に焼き付けることができるでしょう。そして、この全能の神が共に居てくださることを子どもと一緒に確認したいものです。

## 人間の弱さと神様の全能と主権

わたしは皆さんと同じような子どもの時、大人がよく、「疲れた」とか、「しんどい」というのを聞きました。そして、思いました。「疲れる」とか「しんどい」って、どんな感じなんだろう……って。子どものわたしには、「疲れる」という言葉の意味がよくわかりませんでした。でも、今はよくわかります。

何時間もコンピューターの前に座って仕事をしていると、体のいろんな所が痛くなります。「もう若くないんだなあ」とか、「体ってすぐに疲れて力が出てこなくなるんだなあ」とか、思います。

また、困ったことがあると、「どうしよう。どうしたらいいんだろう……」と悩むこともあります。いくら考えても、いい知恵や考えが浮かんでこなくて、「ああ、もう駄目だ」と思うこともあります。そうして、こう思います。「わたしは何と弱い存在なんだろう」と。

でも、それはわたしだけではありません。人間はみんな弱い存在です。歩き続ければ疲れます。走り続けても疲れます。仕事をし続けても疲れます。疲れるだけでなく、体を壊してしまうこともあります。

それと、どんなに頭のいい人でもすべてのこと

が分かるわけではありません。知れば知るほど、自分が知らないことの多さに気づくものです。

そんなわたしたちに神様は御自分のことをあらわしてくださいました。神様は、御自分のことを「全能の神」と自己紹介されました。

「全能の神」のことを「エル・シャダイ」と言います。「エル」は、神という意味です。「シャダイ」は全能という意味です。「シャダイ」「全能」とは、どういうことでしょうか。

わたしたちは疲れますが、神様は疲れることがありません。これも神様が全能・シャダイであられる、ということです。

わたしたちは知らないことがたくさんありますが、神様は知らないことは何一つありません。これも神様が全能・シャダイであられる、ということです。

わたしたちはできないことがたくさんありますが、神様にはできないことはありません。これも神様が全能・シャダイであられる、ということです。

わたしたちは何もないところから、何かを造り出すことはできません。でも神様は、何にもない所から何でも造り出す事ができます。これも神様が全能・シャダイであられる、ということです。

この何でもできる御方、全能の神、エル・シャダイという方が、ある時アブラハムさんの所に来ておっしゃいました。

「アブラハムよ、わたしは全能の神、エル・シャダイである」と。そして、百歳になったアブラハムさんと九十歳になった奥さんのサラさんから男の子が生まれる、とおっしゃったのです。アブラハムさんもサラさんも、「それは無理だよ」と思いました。でも神様は御自分のことを「全能の神、エル・シャダイ」と自己紹介されました。「神様にはできないことはない。百歳のおじいさんと九十歳のおばあさんから赤ちゃんが生まれるようにすることが、全能の神、エル・シャダイにはできる」と、おっしゃったのです。

そして、お約束通り、おっしゃったとおり、百歳のアブラハムおじいさんと九十歳のサラおばあさんから、イサクさんという息子が生まれました。アブラハムさんもサラさんも、「神様という方は、本当に全能のお方だ。エル・シャダイだ」と驚いたでしょうね。

絶対無理だ、と思っていることを実現する実力を神様は持っていらっしゃる。神様は、そういう御方、全能の神、エル・シャダイだ、とアブラハムさんもサラさんも、驚きながら、びっくりしながら信じたと思います。

このアブラハムさんとサラさんの子どもの子ども、そのまた子ども……というように、アブラハムさんの子孫たちが何千年も続いて行くうちに、あるとき、マリアというアブラハムさんとサラさんの子孫が生まれました。

このマリアがまだ結婚する前に、全能の神様、エル・シャダイは、マリアの所に来ておっしゃいました。「あなたは、男の子を産む。まだ結婚していないし、夫も居ないけど、わたしの全能の力で、あなたが男の子を産むようにする」と、おっしゃいました。

マリアは「どうしてそんな事があり得るだろう

か……」と、思いました。でも、マリアは、「神様は、全能の神様、エル・シャダイでいらっしゃる。だから、神様にはできないことはない」とも思いました。そして、「神様がなさりたいことを、わたしを用いてなさってください」と、神様に申し上げました。マリアは神様が、全能の神、エル・シャダイでいらっしゃることを信じていたからです。

こうしてエル・シャダイ、全能の神様を信じるマリアからお生まれになったのが、イエス様です。

そして、イエス様御自身が実は、全能の神、エル・シャダイです。エル・シャダイ、全能の神が、イエス様というわたしたちの救い主になって、わたしたちの所に来てくださいました。全能の神、エル・シャダイが、イエス様という救い主になって、わたしたちと一緒にいてくださるのです。全能の神、エル・シャダイがわたしたちの救い主となって一緒にいてくださるとは、どういうことでしょう。

それは、わたしたちが、「もう、だめかもしれない」「ああ、こまった、どうしたらいいのかわからない。これからどうなるのか分からなくて不安で仕方がない」というときも、イエス様という全能の神、エル・シャダイと一緒にいてくださるということです。このエル・シャダイであるイエス様が、わたしたちの思いを超えて、最も良い計画を立ててくださっているのです。

そして、このイエス様というエル・シャダイ、全能の神が、わたしたちといつも、いつまでも共に居てくださる。これがエル・シャダイ、全能の神様のお約束です。

エル・シャダイ、全能の神が、イエス様となって、いつも、いつまでもわたしたちと共に居てくださるようにと、ずーっと昔から、計画を立ててくださったのです。

エル・シャダイ、全能の神って、どんな方なのでしょうね。計り知れない方ですね。

(芦田高之)

---

[今週の暗唱聖句]      ローマの信徒への手紙 11章33, 36節

ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。

だれが、神の定めを究め尽くし、神の道を理解し尽くせよう。

すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。

栄光が神に永遠にありますように、アーメン。

---

**〈ねらい〉**

主権者であるとは、このお方の力が及ばないものは何もないということです。すべてを支配なさっている神様が共にいてくださることを感謝しましょう。

**〈展開例〉****1. いちばんえらい人は？**

幼稚園(保育園)の中で一番えらい人は誰でしょう。……園長先生ですね。それでは小学校では？……校長先生です。会社では？……社長さんです。お店では？……店長さんです。船では？……船長さんです。

園長先生が、「みんなここに集まりなさい」というと、他の先生も子どもたちも「はい」と言って集まります。

船長さんが「船を出しなさい」と言うと、操縦する人は「はい」と言って船を動かします。船長さんの命令は力があるので、そのとおりにしなければいけません。

**2. 本当に力のある方**

海が嵐になって大きな波がザブンザブンと押し寄せてきたとします。船は沈みそうです。船長さんが海に向かって「海よ、静かになりなさい」と命令したら海はどうなるでしょう。「はい、船長さん、わかりました」と言って、海が静かになるでしょうか。

船の中で一番偉い船長さんでも、海は言うことを聞いてくれません。では、船長さんではなくイエス様ならどうですか。

あるときイエス様の乗っておられた舟が嵐で沈みそうになりました。そのときイエス様は湖に向かって「黙れ、静まれ」とおっしゃいました。すると、急に波がおさまって静かになりました。イエス様ってすごいですね。イエス様はこの世界を造られた神様なので、湖もいうことをきくのです。太陽も月も海も山もみんな神様の命令に従うのです。

こんな力あるイエス様が私たちと一緒にいてくださるって本当にうれしいですね。

**3. ゲーム「船長さんの命令」**

「まず、練習をしましょう」先生が立って命令する。

「船長さんの命令！ 立ちましょう」

→子どもたちが立つ。

「そう。船長さんの命令と言ったときだけ、命令に従ってください」（船長さんの命令と言わないときは従わない）

「座りましょう」（ひっかかって座る子もいる）

「今のは船長さんの命令とっていないので、座ってはだめですよ」

「それでは始めます。はい、みんな立って」

「今、立った子は失格です。船長さんの命令と言ってなかったでしょう」

「船長さんの命令 座って」

「船長さんの命令 右手を上げて」

「船長さんの命令 左手も上げて」

「おろして！」

「船長さんの命令と言ってないから下ろしちゃだめだよ」

※テンポよく進め、上手にひっかける。命令どおりの動作をしながら命令する。（船長さんの命令と言わないときもつられるように先生が動作をする）

動作の例：右足を上げる・回る・手をたたく・頭をかく、目隠しをする・足を広げる・お尻をたたくなど

**4. 「イエスさまがいちばん」を歌って終わる。**

『友よ歌おう』（いのちのこば社）、2番



## 〈ねらい〉

神様が全知全能であること、一方、罪人は神様の力を小さく制限して考える間違いを犯すこと。だから、神様の全知全能の力を信頼することを教える。

## 〈展開例〉

①ローマ11章36節を一緒に読みましょう。

「神から出て、神によって保たれ、神に向かっている」というのはすべてのものですね。すべてですから、どんなものもどんな人も、そうです。今日のお話は、神様の力が世界中に広がっていて、及ばない所がないということです。それも全能の力が広がっています。

最近、経験したすごいことはありますか。テレビで不思議な出来事を見ましたか。みなさん発表してください……。

もう一度、ローマ11章36節の言葉を一緒に読みましょう。

②では、今度は、みなさんがとても大変だった、つらかった、困ったということはありませんか。話せることだけで良いので教えてください……。

子どもカテキズムの答えを一緒に読みましょう……。

③私たちが、困ったり、怪我をした時、悲しい時、苦しい時、神様は力がないのかなあとすることは間違いです。困っている中でも、怪我をした時でも、神様はその力で私たちを支え守っておられます。楽しい時や嬉しい時だけ、神様の力が働いているわけではありません。

これは先生のお話だけでも、先日、教会に突

然、50年ぶりに来たという人がいました。神様は50年間、この人を忍耐強く愛して導かれたんだなあど驚きました。50年来なかったからと言って、神様の力が届かなかったんじゃないかと、ずっと届いていたんだね。

④そして、大事なことは神様は全知全能です。神様にできないことはありません。でも、罪人は、「神様はさすがにこんなことはできないだろう。こんなことはおこらないだろう」と思う間違いをしちゃうんですね。あまりにすごいことは神様に無理なんじゃないかなあって思う。神様は世界を造った方だから何でもできます。それから、一つの間違った考えがあります。神様は人間が助けないと、働けないことがあるんじゃないかと思うことです。でも考えてみてください。人間にできないことを神様はたくさんさいました。人間がいない時に世界を造り始められました。

⑤この世界には、すべてに神様の力が働いています。届かない所はないんですね。

最後に三回目になるけども、もう一度、ローマ11章36節を一緒に読みましょう。

※分級の中で、11章36節の「すべてのもの」を、身の回りの大きな出来事や、人の名前(○○ちゃん、○○教会の皆さん)とかを入れて、順番に読むと良いでしょう。

## 〈お祈り〉

神様の力を小さく考えることなく、全知全能であることを信じさせてください。そのための勇気を与えてください。



## 〈ねらい〉

わたしたちの信じる神様が全能であり主権者であられることを知り、喜ぶことができる。

## 〈展開例〉

(1) 暗唱聖句の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「すべてのもの」って、何？→全世界。全宇宙。その中にあるすべてのもの。

「神から出る」「神によって保たれる」「神に向かう」でどういうこと？→神さまによって造られた。神さまによって保ち、治められている。しかもそれは最もよく賢く力強い（ウ小教理より）。すべての被造物（の存在目的）は、神さまの栄光をあらわすためのもの。

(3) やってみよう。

一学期が終わり夏休みに入る。一学期に学校で習った事柄の中で、神様の造られた世界について、

どんなことを習ったか思い出してみよう。

4年生では、星の動き、住んでいる県についての学習、5年生では、植物や動物の育ち方、全国の特産物や物流の動き、6年生では物の燃え方や溶け方、日本の歴史についてなどを習ったはず（地域によって異なるので、子どもの話をよく聞く。事前に本屋で「一学期の復習ドリル」などを見れば、子どもたちが何を習ったか確認できる）。それらはすべて、神様がお造りになった世界の中の事象であり、神様にご主権がある。学習することは、神様のお造りになった世界を知ること。そして、学級の中でももしかしたらあなただけが、それらを学習したことで神様を讃えることができるのかも。

夏休みにも、神様の造られた自然や世界を讃えて過ごせるように祈ろう。

(4) 歌おう。

「グローリー」（プレイズワールド「ジョイ」9いのちのことば社）

あんしやうせいぐ

暗唱聖句（ローマ11章36節）

月 日 名前

すべてのものは、○ から □ て

○ によって □ たれ、

○ に □ かつているのです。

えいこう

栄光が ○ に えいえん 永遠にありますように。アーメン。

神 出 保 向

(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

神様を信じるとは、「神様に負けを認める」ということでもあります。あなたはわたしより偉大な方です。わたしは小さく無力で、あなたの助けがなければ一秒も生きていけません。わたしの小さな考えではなく、あなたの深遠な御心によってわたしを導いてください。御心をなすことができるようにしてください……と、神様の前でひれ伏して、参ったと降参するのです。それが「神の主権を認める」ということです。

あなたの操縦席を、神様に譲って、運転していただくという感じです。神様はあなたの造り主でもありますから、あなたの取り扱い説明書を、あなた以上にご存知です。あなたがもっともパフォーマンスを発揮できる方法を、あなた以上にご存知です。だから、あなたが自分の力がんばるより、神様に操縦していただいたほうがよいのです。

私たちの小さな考えよりも、神様の考えておられることのほうがいつも素晴らしいものです。私たちは、「〇〇してくれたほうが、絶対私にとっていいことなのに、どうして神様は願いをかなえてくれない?」「〇〇なことが起こらなければ、世界はもっと喜びにあふれていたはずなのに、神様は何を考えているの?」などと、神様に説教をしたくなる時があります。

でも、それは思い上がりです。神は、この世界の造り主でありますから、この世界の取り扱い説

明書を、あなた以上にご存知です。この世界全体がもっとも喜びにあふれる道を、あなた以上にご存知です。

「すべてのものを神様の栄光のために定め、造り、保ち、支配しておられ、神様の力の及ばないところは、宇宙のどこにもない(子どもカテキズム問11)」のですから、神様にできないことはありません。なんでもできる方が、それをしないのは必ず意味があるのです。あなたの祈りがかなえられないことには、必ず意味があるのです。

イザヤ55章8、9節

「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり／わたしの道はあなたたちの道と異なると／主は言われる。天が地を高く超えているように／わたしの道は、あなたたちの道を／わたしの思いは／あなたたちの思いを、高く超えている。」

神様の考えておられることのすべては分かりません。でも、どんな時も間違いないのは、「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。あなたを愛された。」という真実です。この神の愛は疑う必要がないと、イエス様が、ご自分の命をもって証明してくださいました。何が起ころうが大丈夫です。神様は、あなたを愛しておられます。悪いようにはなさいません。さあ、操縦席に座っていただきましょう。

詩編55章23節

「あなたの重荷を主にゆだねよ／主はあなたを支えてくださる。主は従う者を支え／とこしえに動揺しないように計らってください。」



テキスト	創世記 1章1～5節
子どもカテキズム	問12
参考教理問答	ウェストミンスター信仰告白4:1、ウェストミンスター小教理問9、 ウェストミンスター大教理問15～17、ハイデルベルク問26

問12 神さまの創造のお働きとは何ですか。

答 私たちの神さまが、ただ御言葉によって、世界とそこにあるすべてのものを、極めて良いものとして造られたことです。

CRJMのジョン・ソク・ゴー宣教師が提供しているテモテ指導者訓練の「聖書的説教」モジュールを参考に項目を立てました。

### 【KEY1 聖書本文を語る】

[STEP1] 聖書本文を読む。創世記1章1～5節

[STEP2] この個所のテーマは何か？

神が御言葉によって世界を良いものとして創造された。

[STEP3] この個所はテーマをどのように展開しているか？

神は、創造の第一日目に、「光あれ」という御言葉によって光を創造し、それを「良し」とされた。

### 【KEY2 神の福音を語る】

[STEP1] この個所で神は何をされているか？ご自身について何を表しているか？

神は、御言葉において表された御自身の意志を実現する力をお持ちであり、ご意志を反映する良いものとして世界を造られた。

[STEP2] 前後の節／章は、神について何と言っているか？

1章全体が六日間の創造を語る。神は六日間の創造を終えると、造られたすべてのものを「それは極めて良かった」と評価される。

[STEP3] 聖書全体を通しての神の働きに、この個所はどのように関係しているか？

極めて良いものとして造られた世界は、人間の

墮落により、呪われる（参3:17-19）。しかし主は、人間と世界を滅びるままにされず、憐れんでくださり、和解と祝福を約束してくださる。キリストはその約束を実現する方として来られ、救われた者は聖霊の働きによって創造された状態を回復する。終わりの日に実現するのは、創造の回復であり、新しい創造の完成である。

### 【KEY3 子ども達の信仰と生活のために語る】

[STEP1] この個所を最初に聞いた人たちの必要は何だったか？

古代オリエントの多神教社会の中で、自分たちの主こそが唯一の神であり、全世界を創造されたという世界観を持つ必要。

[STEP2] 私たちの教会の子ども達に似たような必要があるか？

学校教育における無神論的進化論的世界観、一般社会における多神教的世界観（神道、仏教、占い、スピリチュアル・ブーム、心霊現象番組・ゲームなど）に囲まれて生きている。

[STEP3] この聖書箇所「その時」から、私たちの教会の「今」へ橋をかける。

私たちが生きる上で最善の道は、キリストと聖霊の働きによって、神が極めて良いものとして創造された状態を回復することである。多神教的・無神論的世界観はいずれも、良い創造を見失わせる。子ども達が良い創造の回復に希望を見出し、創造主と共に生きる喜び・平和へと導かれるように語りたい。（大西良嗣）

テキスト 創世記 1章1～5節  
子どもカテキズム 問12

### 〔単元のねらい〕

子どもカテキズム問12は、父なる神さまのお働きとして、天地創造について教えます。聖書箇所は、六日間の天地創造の第一日目だけが取り上げられていますが、そこにはカテキズムが挙げる事柄（御言葉による創造、天地の創造、良いものとしての創造）が含まれています。

無神論的・多神教的世界観に囲まれて生きている子どもたちに、父なる神さまが世界を創造されたという世界観を伝えながら、キリストの救いが与えてくれる希望の大きさ、その骨太の力強さを見いだしてもらえればと思います。

## 神さまが世界を造られた

### 【天地創造の教理】

世界がまだない時がありました。空もない、地面もない、川も海も山もない時代です。人間も動物も、虫も魚もまだいません。それだけでなく、地球も月も太陽も、宇宙ありません。ただ神様だけがいて、神様が世界を造られました。「初めに、神は天地を創造された」と書いてあるとおりです。

神様は、どんなふうの世界を造られたのでしょうか？ 神様は、御言葉で世界を造られました。神様が、「光あれ」と言われると、光が現れました。光が造られたのです。神様が、「こうなれ」と言われると、すべてその通りになりました。神様の言葉には力があります。今日は、世界が造られた6日間の、1日目のところだけを読みました。神様は御言葉だけで、世界のすべてを造られました。神様は、そんなふうにとてもすごい力を持っていらっしゃるのですね。

神様は、造られた光を見て、何と言われたと思う？ 「よし、これは良い、良いものができた」と言われました。みんなは、良い物を作ろうとしても、うまく作れないことがあるかもしれないね。神様には、そんなことはありません。神様は願っていらっしゃるのとおりのおものを完璧にお造りになることができます。神様は、良いお方ですから、悪いものを造ろうとはなさいません。神様は、神様の願っていらっしゃる通りに、世界を良いもの

としてお造りになることができました。光だけでなく、空も海も、魚も動物も、そして人間も、神様は造られてから「よし、これは良いものができた！」とおっしゃいました。神様は世界を全部造り終えてから、世界を見渡されて、「これは素晴らしい！ 素晴らしく良いものができた！」って、おっしゃったんだよ。

### 【創造主を知らないということ】

科学が発達してきて、世界が本当に素晴らしく良くできていることが、ますますわかって来ました。例えば、月と地球の距離が少しでも遠かったり、近かったりしたならば、地球は生き物が住めない場所になっていたことがわかっています。

けれども、神様が世界を造られたことを知らない人たちは、どうしてそんなに絶妙な位置に月があるのかを知りません。たまたま、偶然、そうだったとしか考えられません。

聖書の時代に、イスラエルの周りに住んでいた人たちも、イスラエルが信じていた真の神様が世界を創造されたことを知りませんでした。ですから、世界の始まりについて、勝手にいろいろなことを創作して、お話を作っていました。

世界を唯一の真の神様が造られたことを知らないで、世界の本当のことはわかりません。人間の本当のこともわかりません。

## 【人間の罪と創造の回復】

神様は、世界を良いものとして造られました。けれども、人間が罪を犯すようになったため、世界はおかしくなってきました。罪人となった人間が、科学による大きな力を持つようになると、環境は破壊されました。原発のような人間の手に余るものまで作り出し、事故によって、土地は呪われ、食べるのできない農作物さえ生み出すようになりました。

神様が造られた世界を回復するためには、人間が造られた時の良い状態に回復される必要があります。イエス様は、そのために来てくださったお方です。

イエス様を救い主と信じた私たちは、聖霊なる神様が私たちの心に働いてくださって、神様が最初に造られた時の良い状態に向かう歩みを始めています。イエス様を信じた私たちは、神様が「素晴らしくよい」と言ってくださる者にだんだんと

変えられているのです。神様が世界を造られた時の素晴らしさを取り戻しているのです。そして、イエス様が世界にもう一度来られる時には、世界の素晴らしさが完全にされます。

神様が世界を素晴らしいものとして造られました。ですから、神様は、人間にとって、どのように生きるのが一番素晴らしいのかも知っておられます。その神様と一緒に歩いていく人生は、とても素晴らしいものです。

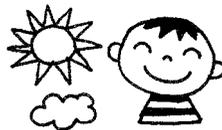
神様が世界を造られたことを知らなければ、人間にとって一番素晴らしい生き方を誰が知っているのかもわかりません。神様が、世界をすばらしいものとして造ってくださったことを知っているというのは、とても幸せなことです。私たちを素晴らしいものとして造ってくださった神様と共に歩いて行きましょう。 (大西良嗣)

---

〔今週の暗唱聖句〕 創世記 1章31節

神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった。

---



**〈ねらい〉**

神様はすべてのものを無からお造りになりました。また、愛をもってこの世界を造ってくださいました。素晴らしい造り主なる神様をほめたたえましょう。

**〈展開例〉****1. 無からの創造**

みんなはお母さんのお料理で、何が一番好きかな？ じゃあ、そのお料理を作るときに、お母さんは何と何を用意するかな？ もし、材料が何にもなかったら、お母さんはお料理を作れるかな？ ……難しいよね。私たちはお料理を作ったり、工作をしたりします。でも、そのためにはそれを作る材料が必要です。

じゃあ、神様は、何と何を使ってこの世界をお造りになったと思いますか？

神様は何にも材料を用いませんでした。神様は何もないところからこの世界をお造りになったのです。すごいですね。そんなことができるお方は、神様ただお一人だけです。

**2. 神様が造られた世界**

(天地創造の紙芝居、または絵を用意する)

- 一日目 光の絵
- 二日目 大空と雲の絵
- 三日目 海と陸、木や草、花や実の絵
- 四日目 太陽、月、星の絵
- 五日目 魚、鳥の絵
- 六日目 動物、虫、人間の絵

神様は一日目に、「光あれ」とおっしゃいました。(ここで、一日目の絵を出す) すると光がありました。神様はこれをごらんになって、「とてもよくできた」とおっしゃいました。(同じようにして六日目まで繰り返す)

**3. 愛による創造**

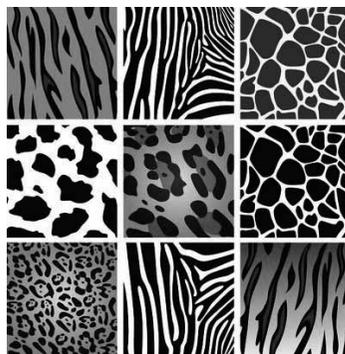
(2で使った絵を見せながら) 神様がお造りになったものは、どれもすべて素晴らしいものばかりでした。神様が愛を込めてお造りになったからです。

神様はこの世界をごらんになって「とてもよくできた」とおっしゃいました。きれいな山や海、よい香りの花やおいしい果物、かわいい動物たち……この世界は神様がお造りになったものであふれています。(美しい貝殻、花、葉、果物などを用意して見せながら話してもよい)

こんな素敵なものをたくさん造ってくださった神様と一緒にほめ讃えましょう。

**4. クイズ……この模様は何かな？**

- ①虎模様、ヒョウ柄、シマウマ模様、牛柄、ワニ柄、蛇柄などの絵を描く。または動物柄の素材を印刷する。(動物柄の折り紙もあります)
- ②模様が描いてある絵を見せながら「これは何の模様かな？」と聞く。正解は〇〇でした。(動物の絵を見せる)



動物の他にてんとう虫、スイカ、メロン、イチゴなどの模様があってもおもしろい。

- ③折り紙で動物を折る。まだ折るのが難しい場合は、模様が描いてある紙をその形に切り抜く。



## 〈ねらい〉

①神様が世界を造り、また御心どおりに造られたこと。②私たち人間も御心を込めて造られたこと。③罪によって分からなくなっているけどもイエス様が助けてくれて分かるようにされていること。この三点を伝える。

## 〈展開例〉

①創世記1章1節を一緒に読みましょう。……今度は目を閉じて覚えましょう。10回言って覚えましょう……。さて、天地のすべてのものを造られたのは神様です。では、天地が造られる前にあったものは何でしょうか。一つのことを除いて、何もありませんでした。天地が造られる前には、神様がおられただけです。神様は、世界の初めに天地をお造りになりました。

②神様は、六日間かけて天地のすべてのものをお造りになりました。だから、すべてのものに神様の思いが込められています。世界のどんなものにもです。このためにこれを、あのためにあれを。そして、この目的のために、人を造った。だから、〇〇ちゃんも神様が目的を持って親を通してお造りになったんですね。必ず神様の思いがあることをこれから先もずっと覚えていてください。

③さて、神様は、上手に造られたのでしょうか。すこし後の部分ですが1章31節を読んでみましょう。「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった。」100%思い通りにできたので、極めて良かったと言われていています。神様が思ったとおりにす

べてのものをちゃんと造った。ちょっと失敗したとか、ちょっと形が崩れちゃったとか、意外に上手にできた、とか、思っているのと違う形でできたものは一つありません。

極めて良かったというのは、100%神様の思い通りにできたということです。綺麗とか綺麗じゃないとか言って私たちが良いか悪いかを決めることじゃないんですね。ここが大切です。神様が思っている通りに造り上げたということです。

④しかし、極めて良かったんですけども、この世界はだんだん悪い人が増えたり悪いことが起こったりするようになりました。どういうことかという、人は罪は罪を犯しました。その罪のために、例えば造られた人間が、神様の思いを離れて、違うことを好き勝手に始めたんです。聖書では、神様の思いから離れることを、罪とか悪という言葉で言い表します。

⑤みんなも神様によって、神様の思いが込められて造られました。でも、罪があって、その神様の思いが自分だけではわからなくなっていますね。それで、イエス様が教えてくれたり助けてくれたりして、私たちに込められた神様の思いを知れるようにしてくれるんですね。

## 〈お祈り〉

私たちを神様が思いを込めて造ってくださりありがとうございます。罪があって神様のことがわかったのに、イエス様に助けてもらって、神様の思いがよく分かり、神様に従って生きることができそうですように。



## 〈ねらい〉

「父なる神さまは世界をすばらしいものとして創造された。そのことを知っているというのは、とても幸せである。」ということを知り、喜ぶことができる。

## 〈展開例〉

(1) 暗唱聖句の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「分からない言葉は？」と発問し、子どもから分からない言葉を質問できるとよい。

「ご覧になる」→偉い人が「見る」。

「極めて」→この上なく、非常に。

(3) やってみよう。

「神さまがお造りになったすべてのもの」って、何？→最初は聖書を見ないで言わせ、紙片一枚に一つずつ書き出す。子どものに書かせてもよい。

出尽くしたら。造られた順に並べる。足りないとき、順序が分からないときは聖書で調べる。

「神は……見てよしとされた」と書いた紙片を並べた紙の間に挿入しながら、何回言われたか数える。毎日一回ずつ言われたと思っている子どもが多いと思うが、実は違うことが発見できると良い。最後に暗唱聖句の言葉が出てくることを確認する。

神さまが世界を造られたのではない、と考えている人たちの意見について、どのようにとらえたらいいのかと質問があれば、話し合いをしてもよい。

極めて良かった世界が墮落し、しかしキリストの贖いによって回復することを伝える。

(4) 歌おう。

「God is love」(カースティ祖父江)

ホームページから楽譜と楽曲のダウンロードができます。[http://ogaki-ch.com/ss\\_text/46](http://ogaki-ch.com/ss_text/46)

あんしやうせい く

暗唱聖句（創世記1章31節）

月 日 名前

○は、お造りになったすべてのものを  
ご覧になった。

□よ。それは極めて□かった。

神 見 良

(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

## イザヤ45章18節

「神である方、天を創造し、地を形づくり、造り上げて、固く据えられた方。混沌として創造されたのではなく、人の住む所として形づくられた方。主は、こう言われる。わたしが主、他にはいない。」

今ある世界はどうして存在しているの？中学生になると、そんなややこしいことも考えはじめるものですよね。私は中学生の頃、こんなことを思っていました。「今見えているこの世界は、ぼくの脳の中にだけ存在するもので、ぼくが死んだらすべてが消えてなくなるのではないか？」同じようなことを考えている人はいないですか？

残念ながら、答えはノーです。この世界は「ぼく」の脳が作り出したものでもなければ、「ぼく」を中心に回ってもいない。神様が、神様の栄光のために造られた、神様を中心に回っているものです。「ぼく」が死んでも、世界は続きます。神様が終わりを与えられる時まで、決して終わることなどない。つまり、小さな「ぼく」には決して計り知れない、広い、遙かな世界であり、それを創造された神様は、いかに偉大な方かということなのです。

そういうわけで、「ぼく」という存在は、世界の片隅の一被造物に過ぎません。でも、卑屈になることはありませんよ。

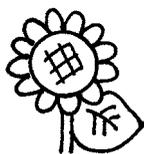
聖書の中に、こういう歌があります。

## 詩編8編4節

「あなたの天を、あなたの指の業を／わたしは仰ぎます。月も、星も、あなたが配置なさったもの。そのあなたが御心に留めてくださるとは／人間は何ものなのでしょう。人の子は何ものなのでしょう／あなたが顧みてくださるとは。」

これは、神様の大きな手の中で生かされているということに気付かされた一人の詩人が、思わず口にしたため息のような言葉です。たぶんこの詩人は満天の星の輝く夜空を見上げている。宇宙の大きさに圧倒される。神の御手は、この全宇宙を創造され、包み込んでおられる。そんな大いなる神が、特別に御心をとめてかえりみてくださるとは、人間とはいったい何者なのか。この私は何ものなのか。どれだけ値打ちがあるというのか。宇宙を治める神の手、その同じ御手によってこの小さな私が支えられている、なんともったいないことだろう。なんとうれしいことだろう。この喜び。生かされていることの喜び。こういう喜びを数えながら生きる人生は豊かです。

それから、このことも覚えておいてください。この世界は、闇に光を与えるという明確な神のご意志によって始められました。だからこの世界、また私たちの存在は、偶然によって始まり偶然によって終わるような、空しいものではありません。始まりから終わりまで、絶えず関わり続けてくださる神のご意志がまっとうされるのです。今日も神は、この世界に「光あれ」と命じ、闇の中に希望を生み出されます。私たちの心に、光を生み出してくださいます。



テキスト ローマの信徒への手紙 15章7～13節

**〈テキストの背景〉**

ローマの信徒への手紙15章1節以下で、パウロは教会における「強い」立場の人々のわきまを論じています。それは弱い立場にある人々の弱さを担うということです。パウロはまた、そのことはキリストのへりくだりにならぬ、みずからへりくだることによってこそなし得るのだということもあきらかにしています。

さらに言えば、この勧めの背景にはこの手紙の14章から論じられてきたローマ教会におけるひとつの対立—食物をめぐる考えかたの対立—があったのです。一方では、何でも自由に食べることのできる多数派の人々がありました。しかしもう一方には、なお（狭い考えにとらわれて）野菜しか食べない少数の人々もありました。多数派の人々、すなわち「強い」人々は、この少数の「弱い」人々を裁くのではなく、彼らを理解し、彼らに寄り添うべきであったのです。

15章7節以下で、パウロはふたたびたがいに相手を受け入れ合うべきことを勧告しています。ただし、ここは食物をめぐる見解ということよりもさらに広い視野で—すなわちユダヤ人と異邦人とがキリストの教会にあってひとつとなって生きるということにまで拡大して語られています。

ローマの教会はユダヤ人（すなわち「割礼ある者たち」）と異邦人とかからなる混成教会でした。そのことからすれば、この教会にとっては（食物の問題以上に）ユダヤ人信徒たちと異邦人信徒たちとの一致ということこそが、より根本的な問題であったにちがひありません。そして使徒パウロは、自分はユダヤ人でありながら異邦人伝道に召された者として、文字通り両者の一致を象徴する存在であったのです。

**〈キリストにある一致と平和〉**

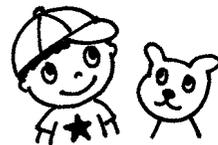
ユダヤ人信徒たちと異邦人信徒たちの一致は、単に人間的な努力によってもたらされるようなも

のではありません。単なる寛容や同情によって実現するようなものでもありません。聖徒らがそれぞれ異なった背景を持ち、異なった習慣や考え方を抱いていながら、なおお互いを受け入れ合い、一致を実現することができるのであれば、それは人間的な一致によることではありません。

それはキリストにある一致です。「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律ずくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を減ばされました」（エフェソ2:14-16）。

イエス・キリストは何でも食べる者たちをも憐れんでくださいました。肉食主義者たちをも愛してくださいました。ユダヤ人のためにも死んでくださいました。異邦人のためにも尊い血潮を流してくださいました。このお方においてユダヤ人と異邦人、強い者と弱い者といった隔ての壁は取り壊されるのです。教会に生きるすべての者たちを受け入れてくださったキリストにおいて、聖徒らもまたお互いを兄弟として受け入れ合うことができ、それによって平和を実現することができるのです。

教会の一致と平和は、人間的な手だてによる一致ではありません。それはキリストの贖いのみわざを土台とする一致であり、贖いのキリストを信じる信仰の自由にもとづいて実現される平和なのです。（木下裕也）



**(単元のねらい)**

敗戦記念日を覚え、8月のひとつの主日を平和を学ぶためにあてている。この聖書箇所でパウロが語り示しているのは、教会の中で信徒たちが平和に生きていくための原則（強い者たちがキリストにあってへりくだり、弱い者たちの弱さを担う）であるが、もちろんこれはこの世のあらゆる場所で、平和を創り出すための原則として妥当するものである。イエス・キリストにならって、わたしたちも平和を創り出す者になりたい。

**イエスさまにならって**

この世には強い人と弱い人がいます。そして強い人と弱い人が仲良く、おたがいの命を生かし合って生きている世界こそ、平和な世界です。

預言者イザヤは、人間が神さまにあって平和に生きる世界をこのように語りました。

「狼は小羊と共に宿り／豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち／小さい子供がそれらを導く。牛も熊も共に草をはみ／その子らは共に伏し／獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ／幼子は蝮の巣に手を入れる」（イザヤ書11章6－8節）。

「狼」や「豹」や「熊」や「獅子」は強い動物です。「小羊」や「子山羊」は弱い生き物です。小さな赤ちゃんも弱いですね。ここにあるように、本当に平和な世界は、強い生き物によって弱い生き物が殺されたり、傷つけられたり、いじめられたりということがありません。「わたしの聖なる山においては／何ものも害を加えず、減ぼすこともない」（9節）。そこではかえって、弱い者を強い者が守ります。そのようにしておたがいの命が尊ばれ、生かされるのです。

イエスさまは「平和を実現する人々は、幸いである」（マタイ5:9）とおっしゃいました。わたしたちもイザヤが語ったような平和な世界を実現する、幸いな人になりたいのです。

教会の中にも強い人と弱い人がいます。そして教会は、強い人も弱い人もともに助け合い、

生かし合って生きている場所です。パウロはローマの教会の人々にこのように勧めています。「キリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい」（15:7）。

この世では強い人が弱い人をおしのけたり、自分の思うままに支配したりということがあります。そのような場所では、人は平和に生きることはできません。弱い人の命が大事にされず、弱い人々が苦しみ、傷つくようなことが起こると、ほんとうに悲しい思いになりますね。

イエスさまを信じる人々はそうではありません。イエスさまをかしらとする教会では、強い人も弱い人も、おたがいに受け入れ合って生きています。お互いを愛し、尊重して生きています。教会にこそ、ほんとうの平和があるのです。

パウロはここで、教会につらなる人々が（強い人も弱い人も）そのような平和に生きるための、強い人がどのようにでなければならないかを教えています。強い人は、弱い人のところにまでへりくだらなければなりません。低くならなければなりません。そして、弱い人の弱さを担わなければなりません。「わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません」（15:1）。

強い人が自分も弱い人のようになってへりくだり、弱い人の弱さを担う。それは、実はむしろ正しいことです。なぜなら人はみな強くありたいと願

い、自分の強さを自慢し、ほかの人の弱さを笑い、自分よりも弱い人を支配しようとする、そのような思いをもっているからです。

けれども強い人が身を低くして弱い人を背負ってあげること、自分の強さを弱い人を守るために用いること、これこそが平和を創り出す道です。そして、わたしたちはそのように生きることができるのです。平和の君であられるイエスさまにつながり、イエスさまにならうことによってです。

イエスさまはわたしたちのだれをも、等しく受け入れてくださっています。へりくだってわたしたちに仕えてくださいます。このイエスさまにあって、わたしたちもおたがいに愛し合い、仕え合うことができるのです。そこには強い人と弱い人の区別はないのです。みなが神さまの子どもなのです。

8月15日は敗戦記念日です。日本の国がかつて戦争の罪を犯したことを悔い改め、平和を祈り求める日です。戦争は強い者が剣によって弱い者を打ち、滅ぼすことです。そこには平和はありません。強い人と弱い人とがともに生きる世界、どんなに弱く小さな命も重んじられる世界を創り出すことを、神さまはわたしたちに求めておられます。

皆さんもイエスさまにならって、平和を創り出す人になってください。自分自身も弱い人のようになって、弱い人々に寄り添い、弱い人々のために祈り、弱い人々を助ける。そのような人こそ、平和を実現する人です。イエスさまはご自身の恵みによって、わたしたちをもそのような人にしてくださるのです。 (木下裕也)

---

[今週の暗唱聖句]

マタイによる福音書 5章9節

平和を実現する人々は、幸いである、  
その人たちは神の子と呼ばれる。

---



**〈ねらい〉**

お友達を仲間はずれにしたり、ゆるせなかったりする心が争いを生む。イエス様につながっていると、私たちにイエス様の平和がやってくる。

**〈展開例〉****1. けんかの原因は何？**

お友達やお姉さん、またはお兄さんとけんかをしたことがあると思います。どんなことからけんかになったのかな？

- ・おもちゃを取られた。貸してくれなかった。
- ・嫌なことをされた（たたかれた）
- ・仲間はずれにされた。

他にもいろんな原因があると思います。

そのときの気持ちを思い出してみよう。

お友達や兄弟に腹が立ってムカムカする気持ち。

いらいらする気持ち。たたきたくなる気持ち。

泣きたくなる気持ち……

けんかをして、ああ、いい気持ち、幸せだなど思う人はあまりいないよね。なのに、どうしてけんかをしてしまうのかな。

**2. けんかの元は心の中に**

それは、私たちの心の中にけんかの種があるからです。自分の思い通りにしたい、お友達よりも自分の方が正しいんだ、という心です。

この種はとても困った種です。嫌なことがある

と、すぐに目を出して、だんだん大きくなって暴れます。これが大きくなって、国と国がけんかを始めると戦争が起こります。

**3. イエス様がくださる平和**

どうしたらこの種をなくすことができるでしょう。それは、私たちにはできません。イエス様だけがこの種を壊すことができになります。

イエス様につながっていると、不思議なことが起こります。腹を立てていた人がやさしい気持ちになって、お友達を許せるようになります。いじわるをしていた人の心がやさしい心に変えられます。イエス様の愛がやってくるからです。イエス様に愛されている人はお友達を愛することができる人に変えられるのです。

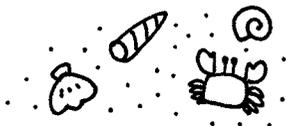
**4. ぬりえをしよう**

平和のシンボルである鳩のぬりえをしましょう。（次ページを参照）

**《先生への一口メモ》**

○どうして鳩が平和の象徴となったのか

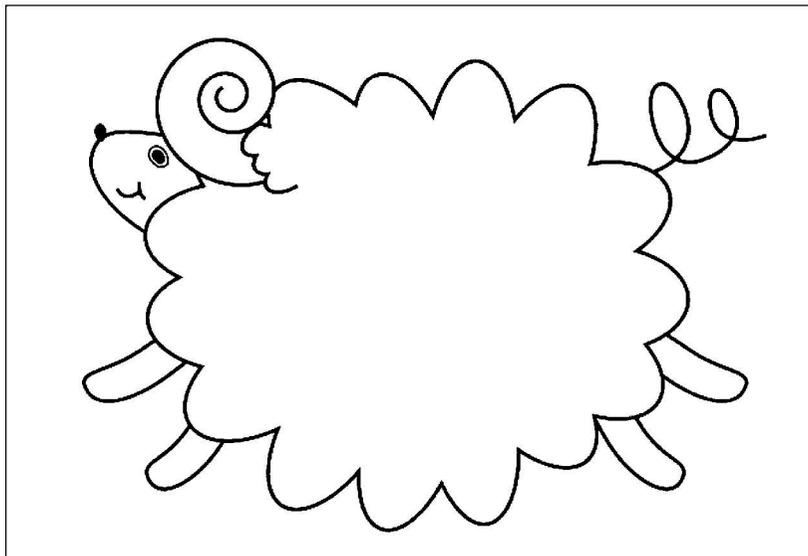
洪水の後、ノアが鳩を放つと、鳩はくちばしにオリーブの葉をくわえて戻って来ました。神の祝福と新しい命を表す葉を見て、ノアは喜びと感謝に溢れたことでしょう。鳩は、神と人間の間の永遠の平和と、神の愛と希望を象徴しています。



ぬりえ



はり絵



**〈ねらい〉**

自分たちの強さ、良い所を認め合い、それを弱い人たちのために使うことが、主の御心であることを伝える。

**〈展開例〉**

(分級の中で話し合うことは、大きな紙に書きとめながら進めるとよい。)

ローマ15章7節を一緒に読みましょう。私たちはどうしなさいと、書いてありますか。……(互いに相手を受け入れる)……それは平和を創り出すために大切です。では、相手を受け入れるとは、例えばどういうことですか。学校や家や塾とかで。……相手の話を聞いて上げたり、わかってあげたり、相手の気持ちになってたり、優しくしたりすることですね。そうすると多くの友だちと仲良くなりますね。

(上記の意見が生徒から出なければこちらを先にきいてもよい。)

では、相手を受け入れないとは、どういうことでしょうか。……例えば、自分が受け入れられないことを考えてみてもいいでしょう。……自分の話を聞いてもらえない、誤解ばかりされる、攻撃的になる、仲間はずれにされる。このように相手を受け入れなければ、けんかや悪い関係が始まります。これは平和でしょうか……平和ではありません。相手を受け入れて、平和を築くことが大切です。

さて、神様は、みんなと仲良くできるようにするために、賜物(よいプレゼント)をくださっています。一人一人強かったり得意だったりすることがあるでしょ。力が強い、喋るのが上手、勉強ができる、友だちの多いなどなど。それは全部、神様からの賜物です。神様が、「○○ちゃんにこういういいところを与えよう」と決めて○○ちゃんは生まれてきました。みんなそうです。では、お互いに強い所やいいところをあげてみましょう……。

神様は皆さんに与えた良いところの使い方も決めました。人の強さや良い所の使い方は、弱い人を支えたり、守ったりすることです。力の強い人は力の弱い人を守る。知識のたくさんある人は、知識がたくさんはない人を助ける。我慢強い人は、我慢強くない人のために我慢する。イエス様ならどうするか考えてみましょう。同じことをするんですね。みんなの周りで弱い人を守るとは、どうということか話し合ってみよう。

最初に、互いに相手を受け入れることを話しました。相手のいいところを受け入れるのは教会に来てない人にもできます。でも、相手の弱い所や未熟な所を受け入れるのは、神様が平和のために受け入れなさいといっているから、私たちはするので。

多くの人は自分の強い所や良い所の使い方を間違えて、自分のために、自分を守ったり強く見せたりするために使います。自分の強さやいいところは、相手を負かしたり傷つけたりするために用いられ、神様の御心とは違う使い方になってしまいます。1対1のけんかもそうでしょう。大きくなると2対3とか複数になり、もっと大きくなるとクラス同士のけんかになります。もっと大きくなると国同士の戦争になるんですね。実は、先生もみんなもこういう失敗はしてしまいますから、いつもイエス様に祈って悔い改めて、自分の強い所や良い所を正しく仕えるようにイエス様に教えてもらいましょう。イエス様はどうなさるかを思い出せばいいと思います。

だから、今日、大切なことは、平和を創り出すために、神様に従って、みんなの強い所や良い所は、そうでない人を支えたり、守ったりしていきましょう。

**〈お祈り〉**

神様、私たちの強さを弱い人のために使うことを教えてください、ありがとうございます。神様の言われるとおりに使うことができますように。

## 〈ねらい〉

平和について考え、平和を実現することができるように、祈ることができる。

## 〈展開例〉

(1) 暗唱聖句の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「平和」って、何？→戦争がないこと。争いがないこと。いじめや差別がないこと。心配事がなく穏やかなこと、みんなが仲がいいこと。

「平和を実現する」ってどういうこと？→戦争がない、争いがない、いじめや差別がない、みんなが仲がいい、心配事がなく穏やかな生活を実現すること？

(3) やってみよう。

【A】（意見交換が十分できる場合）そのためにはどうすればいいか話し合ってみよう。

具体的に自分の身近な問題で、神さまを信じる子どもとして自分がいかに行動すべきかの指針がもてるようなら、その考えを支持し、神さまの祝福を祈ろう。

【B】（話し合いができない場合）聖書の「平和」という言葉を見つけよう。いっしょに並んでいる言葉や反対の言葉を見つけてみよう。「平和」は「正義」や「真実」「善」「豊か」「回復」などの言葉とと共に語られる。「平和がない」とときには「恐怖」や「偽り」「叫び」などが見られる。ということ子どもが発見できるとよい。そして、「平和」は神さまがくださるものであり、イエス様は「平和の王」と呼ばれる。神さまがくださる「平和」を、「実現する人」として自分が用いられるように祈ろう。

(4) 歌おう。

「神よ、たまえ平和を Dona nobis pacem 輪唱」  
（讃美歌第二編203 日本基督教団出版局）

あんしやうせい く

暗唱聖句（マタイ5章9節）

月 日 名前

を実現する  々は幸いである。

その  たちは、○の  と呼ばれる。

平和人神子



(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

平和を実現せよ、それがイエス様の示される道です。面白いのは、「平和を守る」人は幸いであるとは言われていないことです。守るではなく実現する。造り出すのです。平和とはそこにあるものではなく、私たちが造り出さねばならないものだからです。もっといえば、平和がある時などこの地上にはありません。私たちは、「日本は平和だ」などとのん気に言っています。確かに戦争をしていないという意味では、平和です。でも、イエス様が望んでおられる平和は、そんなものではないのです。

例えば、いじめという問題を考えてみましょう。皆さんの中に、いじめられた経験のある人はいますか。あるいは、いじめた経験をもつ人はいますか。まったく何も係わり合いがないという人はいないでしょう。なぜなら、いじめというのは、必ずどこにでもあるからです。人間が集まれば、どんな形であれ、必ず、そこにいじめが発生します。人間は、弱い者をいじめてうさばらしをする、惨めな動物です。あるいは人間は、ねたみます。自分を守るために、自分の利益のために人を犠牲にします。人を恐れるから、自分が傷つけられる前におとしめてやろうとします。そういう風にして「平和」はいつもこわされるのです。聖書に示されているような、「狼は子羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す……」(イザヤ11:6-8) というような、完全な平和な世界はどこにもありません。人はそれを壊すように動く生き物だからです。人間が罪人であるとはそういうことです。そして、人間がそのようなものである限り、争いが止むわけもありません。

このままではいけません。弱い者は強い者にいじめられるから、さらに弱い者をいじめます。そうやっていじめられた人は、自分を殺すか、他人を殺すかしか考えることができなくなって、憎しみと悲しみばかりが広がります。誰かが、止めねばなりません。

この憎しみの連鎖を止めてくださったのが、イエス様なのです。イエス様は、自分を十字架にかけた者たちのために祈り、自分を裏切った者たちの救いのために血を流されました。

イエス様は、そのような人々に、「恨めしや」などと言ったのでしょうか。「お前を赦さん、謝罪せよ」と言われたのでしょうか。そうではなかったですね。ただ無条件に愛してくださったのです。「あなたに平和があるように。わたしはあなたがこの上なく大切だ。」と、無条件に手を差し伸べて、抱きしめてくださるのです。十字架の傷の残る手で……。

私たちには誰にも、この愛が必要です。いじめてきた者も、いじめられてきた者も、みんなこの十字架の愛で、心底から癒されることが必要なのです。いじている者も、本当は誰かに、あるいはこの社会に、いじめられているのですから。

そんなイエス様の愛に癒され、清められることで、はじめて私たちは、人を愛することを始めることができるのです。その時イエス様は、私たちに遣わされます。今、誰かから大切にされることを必要としている隣人のもとへ、不安と恐れに満ちて、人を憎むことしか知らない人のもとへ、遣わしてくださるのです。

今、愛を見失っている人々に、あなたは大切だと、あなたが伝えなさい。平和を、あなたが造り出しなさい。それが、イエス様からの使命です。



テキスト ローマの信徒への手紙 8章28節  
子どもカテキズム 問13

問13 神さまの摂理のお働きとは何ですか。

答 今、私たちに働く、神さまの善いお力のことです。

神さまのお許しがなければ髪の毛一本も落ちることができないほどに、

神さまは私たちの父として私たちを守ってくださいます。

ですから、健康も病気も、嬉しいことも悲しいことも、

すべてのことが私たちの役に立つよう働くのです。

契約の子たち、そして地域の子たち。彼らは何故、教会に来るのでしょうか。親に連れられて、また、幼稚園や学校の関係で、あるいは、友達に誘われて来ている子たちもいます。しかし、それは地上の視点、水平の視野で見たときの説明でしかありません。聖書は、神さまの視点、天上からの垂直の視点で、その理由を説き明かしています。父なる神は、「わたしの計画に従って召したからなのだよ、わたしの愛する子よ」と、告げてくださいます。

摂理とは、神さまの完璧な救いのご計画にもとづいて、今、私たちに働く神の善き意思の力のことです。私たちを一方向的に愛しておられる神の愛が、子どもに届くとき、神を愛する者とされます。教会に来ている子どもたちは、ひとりの例外もなく、神さまに愛されている子らです。したがって、私たちの奉仕とは、子どもたちを、神を愛する子として育むこととなるはずで

す。神の愛は、幼ければ幼いだけまっすぐに受け入れられて行きます。ただしその成長にともない、自分自身と何よりも彼らの知る「世界」のなかに、神の愛の力、善い力だけではなく、悲しいこと、苦しいこと、つらいこと、悪いことが起こってくるその現実を知るようになります。そのような時こそ、摂理の信仰を深く考えることが求められます。その理由は、アダムと共にわたしたち自身もまた自らの罪によって神の善き創造の秩序を破壊しているからです。摂理を学ぶことは、決して「い

いかげん」な信仰生活を是認することにはなりません。むしろ、御言葉に背く罪によって、神の救いの秩序を混乱に陥らせないように、自分自身の罪と戦い真剣に信仰を生きて行くことへと促すはずで

す。まず、教師自身が真剣に神の御前に出たいものです。創世記のヨセフ物語は、おそろしいまでにどろどろとした人間の悪ですら、神の摂理は、見事に乗り越え、むしろそれを「逆用」し、善に変えられる姿を描き出します。ヨセフをエジプトの総理大臣にすえることによって、イスラエルを救う道を切り開かれたわけ

です。英語で摂理をプロビデンスと言います。「前を見る・あらかじめ見る」という意味です。神は、私どもの将来を見ておられます。しかもその将来とは、神の平和に満たされた人生にはほかなりません。（エレミヤ29：11！）大震災で、家族や財産を失う……。悲しいこと、つらいこと、あってはならないようなことが起こります。これが現実です。しかし、究極の現実

テキスト ローマの信徒への手紙 8章28節  
子どもカテキズム 問13

### 〔単元のねらい〕

創造者にして今、生きて働いておられる神さま。しかも、御子を十字架にお与えくださった主イエス・キリストの父なる神さま。この神さまが、いついかなるときも、愛の御手を差し伸べておられること、神さまの善い意思の力が、子どもたちをしっかりと捉えて離さないことを証しましょう。摂理の信仰、それは、子どもたちをはじめ多くの人々を、信仰へのあこがれを喚起する力に満ち満ちています。説教者自身が、この神の摂理の中で、現実の悲しみや苦しみ、挫折や痛みを抱えつつも、安心して明るく勇気をもって生きている姿を説教において示すことができるように聖霊のお働きを求めましょう。

## 何があってもへこたれない信仰

いつも暗唱聖句を唱えています。毎週、大切な御言葉を覚えたいと思います。今朝の暗唱聖句は特別に大切だと思えます。なにより、先生がキリスト者になって、すぐに覚えたとてもすばらしい御言葉なのです。

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています」。

今朝も、僕たち私たちは、子どもの教会に来ました。どうやって来ましたか？「歩いて、自転車に乗って、車に乗って……」ですね。今、質問したのは、教会に来る方法のことでした。それなら、何故、教会に来るようになったのですか。「お母さんがこの教会の会員だから。うちは、みんな、この教会の会員だから」。そんなお友達が多いですね。また、「友達に誘われたから。学校で、行くように勧められているから」。そんなお友達もいます。本当に、嬉しく思います。

確かに、皆さんがそう答えたのは、間違いではありません。そのとおりでしょう。ところが、聖書には、もっとすばらしいことが書いてあります。なぜ、僕たち私たちが子どもの教会に来るようになったのか、ちゃんと書いてあります。今日の暗唱聖句に書いてあります。

つまり、神さまのご計画に従って、呼ばれたからです。僕たち私たちは、今もう、心の中に神さ

まを愛する思いがあるでしょうか？ どうして、神さまを、イエスさまを好きになったのでしょうか。それは、先ず、天のお父さまが、僕たち私たちを愛してくださったからです。順序を間違えないでくださいね。あなたが、神さまを愛したから、神さまも愛してくださるなんて、聖書にはまったくかいてありません。神さまは、僕たち私たちをそのまま、最初からイエスさまのいのちを十字架にあたえてくださるまで愛していてくださるのです。そのことを、教会で学んだ僕たち私たちだから、神さまのことが好きになったのです。イエスさまを愛することができたのです。そして、それは、僕たち私たちが神さまの子どもになるようにと、神さまが前もって、ちゃんと準備して、計画してくださったおかげです。

それだけではありません。「神さまを愛する人たち」、つまり僕たち私たちには、神さまがいつもいっしょにいて守ってくださるのです。御言葉に、「万事が益となるように共に働く」とあります。それは、今日の子どもカテキズムにこうあるとおりです。「健康も病気も、嬉しいことも悲しいことも、すべてのことが 私たちの役に立つよう働くのです」。すべてのことが、僕たち私たちを祝福するように、回って行くわけです。

あなたは病気になったことがあるでしょう。風

邪をひいて熱が出て、お腹がいたくなって食欲がなくなって……。つらかったことを覚えていませんか。「早く風邪を治してください」とお祈りしたでしょう。友達とけんかをしてしまったり、悪口を言われたり、学校で涙を流しそうになったことはありませんか。「神さま、助けてください……」とお祈りしたでしょう。先生も何度もそのようなお祈りをしてきました。大人になるともっと大変なことがあります。話すとながくなるので、ここでは、できません。「神さまがいらっしゃるなら、なんでこんなことになってしまったんだろう」「神さまは、こんなに苦しむことを、ご存じだったのなら、なぜ、あのとき、先生をあの道に進ませないようにしてくださらなかったのだろう……」。そんな思いが心にあふれてしまったこともないわけではありません。

でも、先生は今、確信しています。本当に、聖書のとおりにだなど。つまり、すべてのことが働いて益になるということです。益とは、善いことです。役に立つということです。無駄ではないということです。

そこで大切なことが一つだけあります。信じることです。神さまは、摂理の力をもって僕たち私たちのことを守ってください、すべてのことが必ず役に立つと信じることです。そのとき、神さまのすばらしさが、その人を通して現れて来ます。自分自身が、「そうだ、苦しい目にあっただけでも、悲しいことがあったけれども、神さまはすばらしいお方だと分かりました。わたしを愛してくださったのだと分かりました。わたしの信仰と神さまへの愛が深まって、これまでよりもっと感謝できるようになりました。心が折れそうになっても、立ち上がれるようになりました……」。そんな神さまへの愛と信頼が強くなって行くのです。

創世記にヨセフさんのお話があります。ヨセフは、お兄さんたちの妬みと憎しみを買って、殺されそうになります(38章以下)。恐ろしい心ですね。まっくろに汚れてしまった心です。彼らは、ヨセフを穴に放り込んでしまいました。そして、このヨセフは、ミディアン人の商人に奴隷として売られ、エジプトに連れて行かれました。ヨセフの人生は、めちゃくちゃになってしまったように思えました。ところが、ヨセフは、神さまがいつもいっしょにいてくださったおかげで、何度も苦しい目に遭いながらも、とうとう、エジプトの総理大臣になります。

その頃、イスラエルでは大飢饉が起っていました。そこで父ヤコブとその家族は、ヨセフを頼って豊かなエジプトに逃れて行くのです。こうして、イスラエルの人々は、ヨセフのおかげで、飢えて死ぬこともなく、エジプトでその数を増やしていくことになりました。

確かに、お兄さんたちは、人間として最低のことをしました。しかし、神さまは、彼らの悪だくみさえ、善に変えて、神さまの栄光をあらわし、つまり、イスラエルの人々のいのちを救って、祝福されたのです。

生きて行くということは、楽しいこと、嬉しいこと、すばらしいことばかりがあるわけではありません。病気になったり、事故に遭ったり、失敗したり、挫折したり……。でも、大丈夫です。神さまは僕たち私たちを愛しておられるからです。神さまを信じる人、信じ続ける人には、神さまの愛の力が必ず働いて、神さまの栄光があらわされ、僕たち私たちは喜びと感謝のうちに、力強く生きて行くことができるようになります。摂理の神さまに心から感謝いたします。(相馬伸郎)

---

[今週の暗唱聖句]      ローマの信徒への手紙 8章28節

神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、  
万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

---



**〈ねらい〉**

私たちの目に見えるところは一部分だが、神様はすべてを知っておられる。すべてを働かせて益としてくださる神様が共におられることを教えたい。

**〈展開例〉****1. どうしてこんなことが起こるの？**

病気や事故、地震など、ある日突然、悲しいことや辛いことが起こります。そんな時、「神様、どうしてなのですか」と聞きたくになります。

「それは、あなたが悪いことをしたからだ」という人もいます。「あなたのお母さんやお父さんが悪いことをしたからだ」という人もいます。またある人は、「神様は意地悪な方だから、こんなひどい目にあわせるんだ」と言います。

みんなはどう思いますか？ 神様は意地悪なお方なのでしょうか。

**2. 私たちには一部分しか見えない**

（子どもがまだ見たことのないジグソーパズルを用意する。完成させたジグソーパズルからいくつかのピースを取り外しておく。いくつかの外したピースだけを見せながら）

ここにあるいくつかのピースだけを見て、このジグソーパズルが完成したらどんな絵になるかわかるかな？ これだけのピースでは、最後にどんな絵になるのか、わからないよね。

じゃあ、このピースをはめて絵を完成させてみましょう。（ピースをはめる）

ほら、こんな素敵な絵ができました。

私たちが目に見えている一つひとつの出来事は、このジグソーパズルの小さなピースのような

ものです。

私たちには小さな部分だけしか見えていないので、どんな絵が出来上がるのかわからないのです。どんな絵が完成するのかを知っておられるのは神様だけです。

**3. すべてを益としてくださる**

完成したらどんな絵になるのかわからなかったら、パズルを組み立てるのは、とても難しいよね。でも、安心してください。組み合わせさせてくださるのは神様だからです

神様には、「あっ、これじゃない、間違った」ということはありません。どんな順番でピースを並べていけばよいのかもよくご存知です。

たとえどんなに小さなピースでも、それがなければ絵を完成させることはできません。どんな小さなことでも、また、つらい出来事でも、神様のみ手の中にあることを覚えましょう。

神様はすべてのことを働かせて、私たちに一番良いことをしてくださるお方です。

**4. ジグソーパズルで遊ぼう**

幼児でもできるジグソーパズルと一緒に遊ぶ。（時間内で終わるようなもの）



**〈ねらい〉**

神様は創造後も働き、世界を支えておられること。そして、私たちに起こるすべてのことは益となることを教える。

**〈展開例〉**

神様は世界の全てのものをお造りになりました。今、神様は何をしているのでしょうか。神様は、好きなことができる方ですから、たとえ、何もしない、寝ている、世界をほったらかして遊んでいる、そうであっても人間は文句は言えませんよ。神様ですからね。

でも、世界を造られた神様は、世界や人を放っておく方ではありません。いつも、力強く私たちを守っている方です。私が神様を忘れていても、神様は私たちのことを忘れません。いつも考えてくださっています。私たちが寝ていても、神様は眠らず私たちを守ってくださっています。（詩121:4、「見よ、イスラエルを見守る方はまどろむことなく、眠ることもない。」）

皆さんは、学校の授業で絵を描いたり、工作をしたりして作品を造りますね。最近作ったものを教えてください。……一生懸命造りましたか。……それでは、それはどこに置いてありますか……。今、この時、どうなっているか知っていますか……。もしかしたら、知らないうちに置き場所が変わっていたり、壊れたり倒れたりしているかもしれませんよ。実は、作品は神様にとっては私たちのことです。

みんなは作品を一生懸命つくったと思います。さて、作り終わったら、どうしますか。作品のことを忘れて、放って置いたりしてしまいます。別に悪いことはありませんが、人間は一度にいろんなことはできないわけですね。でも、神様は一度に無限のことをなさることができるので、どこにいる人のことでもいつでも守ってくださって

います。

あと、注意しておくことがあります。今は、大自然の仕組みがすごく分かってきているけども、神様が世界を造るところまでやって、時計仕掛けのようにあとは自然の力に任せて自分は何もしないというのは間違えです。神様は、今もなお世界を支え続けておられます。

さて、今も神様が世界を支えているのに、ひどいことや悲しいことが起こる理由は何だろう、と不思議に思う人がいるでしょう。その理由は神様にしかわからないことです。神様はすべてのことを人に教えてはいません。なんで起こったのかはわからなくても、起こったこと役に立つことを神様は教えています。神はすべてのことが救いのための役立つと教えています。

ローマ8章28節と一緒に読みましょう。万事とはなんでしょうか……。

神様は私たちからすべての問題や失敗をとりのぞくわけではなく、そういうことを通して神様をすることがもっとできるようになり、もっと神様に従えるようにされていくんです。

最近、困ったことや失敗したことはありますか？ その時は悲しいけど、その事があってよかったと後になって思ったことはありませんか……。先生はあります。（教案誌 No.40、p.74他、小学科上級展開例を参照。）けれども、それは神様はますます信仰に生きられるためにしてくださったことだと思っています。神様は今も生きて働かれていますね。

**〈お祈り〉**

神様、私たちを守ってください、今もこれからも守ってください感謝します。いろんなことが私たちに起こっても神様が私たちに必要なことをしてくださっていることを信じさせてください。

〈ねらい〉

神さまのご摂理により、すべてのことが共に働いて益になることを知り、喜ぶことができる。

ではなく、互いに関わり合って仕事をする。

「益」って、何？→善いこと。役に立つこと。無駄ではないこと。

〈展開例〉

(1) 暗唱聖句の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「召される」って、何？→身分の高い人からそば近くに呼び寄せられる。招かれる。

「①神を愛する者たち」＝「②ご計画に従って召された者たち」である。「①」「②」をそれぞれ丸で囲んで「＝」で結び、視覚的に理解を助けるとうい。

「神さまのご計画」って何？→神さまが永遠の昔から決めておられる聖いご計画。これを摂理と呼ぶ。（板書すること）

「万事」って、何？→すべてのこと。

「共に働く」って、どういうこと？→ばらばら

(3) やってみよう。

「すべてのことがばらばらではなく、互いに関わり合って働き、ひとつも無駄ではなく、役に立っている。神さまってすばらしい！」と思ったことがあるか話し合う。子どもから出ない場合、教師の経験や、子どもについて教師が気づいている経験を話してあげてもよい。子どもが気づいていないだけで、そのような経験はたくさんある。神さまのご摂理に感謝できる毎日であるように祈る。

(4) 歌おう。

「神さまをさんびしよう」（二宮忍）

ホームページから楽譜と楽曲のダウンロードができます。[http://ogaki-ch.com/ss\\_text/46](http://ogaki-ch.com/ss_text/46)

あんしやうせい く

暗唱聖句（ローマ8章28節）

月 日 名前

○を愛する者たち、つまりご   に従って

召された者たちには、万事が

益となるように  に働くということを、

わたしたちは  っています。

神 計 画 共 知

（中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。）

「神の全能の力、窮めがたい知恵、無限の善は、その摂理の中によく現れ、最初の墮落やその他すべての御使いと人間たちの一切の罪にまでおよんでおり、しかも単なる許容によるものではなくて、多様な配剤において、神ご自身のきよい目的のための、最も賢い力ある制限や、その他の秩序づけと統治がそれに伴っている。しかもなおその場合の罪性はただ被造物からだけ出て、神から出るのではない。最もきよく正しくいます神は、罪の作者でも是認者でもないし、またありえない。」（ウ信仰告白5章4節）

「一切は混乱し混沌と化したように見られても、その時に天上は常に静穏で晴れ晴れとしている。それゆえ、世界の物事が混乱して我々の判断が奪われる時にも、神は義と知恵の純粹の光によってこの激動を最も良く整えられた秩序に收拾し、正しき目的に至らせたもうと確信すべきである。」（カルヴァン『綱要』第1編17:1）

どんなにつらいことも苦しいことも、喜びへと通じさせてくださるのが、あるいはどんなに人間が悪を働いても、すべてを導いて善に変えていかれるのが、私たちの神様だと、教えられましたね。そんな主の「摂理」を信じることができるのは、信仰者の「最高の幸い」だって、カルヴァンという先生は言いました。

みんなはこの幸いを実感したことはありますか？ ここで分かち合いましょう。（可能であれば、教師自らの、あるいは誰かから伝え聞いた証しを示してあげてください。）

人間には、神様の考えておられることのすべては分かりません。どうしてこんなことが起こるのか？ と言いたくなる様な出来事がしばしば起こります。「どうしてアダムとエバは墮落したのか？」 誰もが聞きたい問いですね。「神様は人間を命令だけに従うロボットとして創られなかった、自由な存在に創ってくださった。でも人間はその自由を間違って使って、墮落の道を選んできました。」これは聖書から導き出される模範解答です。でもこれを聞いても、先生は全然納得できません。みんなはどうか？

「どうして？ なぜ神様はこんなことを……」という問いは、人間が永遠に問い続けるものでしょう。でも、神様の考えておられることをすべて知りたいと願うのは傲慢なことですし、そんなことは不可能です。また必要ありません。むしろ大切なことは、どんな出来事が起ころうとも、それはすべて神様の「全能の力、窮めがたい知恵、無限の善」によって定められたものであって、すべては「きよい目的」の実現のために用いられると“信じる”ことです。

神様は、人間の犯したどんな反逆も過ちも悪も、また私たちが味わねばならないあらゆる悲惨な出来事も、すべてを善に変えて用いてくださる方です。イエス様を十字架にかけてしまったのは人間の最大の罪ですが、神様はその罪さえも用いて、私たちの救いを実現してくださった方です（使徒2:23-24、4:27-28）。大いなる神の御手に人生を委ねて、平安の中でありましましょう。

（本原稿は、2010年9月5日「摂理の主の勝利」における、筆者記述の小学科上級の分級展開例を一部改変して使用しました。ご容赦ください。）

神の子ども



テキスト                    マタイによる福音書 6章25～34節  
子どもカテキズム 問14

問14 運が悪いと言ったり、占いを気にしたり、たたりを気にすることはできますか。

答 私たちにはできません。神さまより大きく強いものはないからです。

父なる神さまは私たちを愛してくださるのです。

ですから、たとえひとりぼっちでいてもこわくはありません。

そんなとき、私たちは、「天のお父さま」とお名前をお呼びします。

お祈りすると、神さまがいっしょにいてくださることがわかるのです。

本日のカテキズムは、多くのカテキズムの中でも、ひととき異彩を放つ問答だと思えます。子どもたちのために、しかも日本に生きる人々のために編んだものですから、このようになりました。

摂理の信仰を身につけることによって、偶像崇拜や異教のさまざまな風習、習俗そしてなによりも子どもたちの心のなかにも土足で入り込む「占い」、それらを拒否しなければなりません。このような環境の中で、キリスト教信仰は証されます。それは、反対に言えば、日本に生きる人々にこそ、福音が必要であること、とりわけ摂理の信仰の尊さを思えます。

日本人の宗教観の根本にあるもの、それは、一言で言えば、「たたり」の恐怖への対応であると、わたしは考えます。神道の根っこにあるものは、大自然にはたらく諸霊をどのようになだめ、鎮め、自分たちの世界に災いをもたらさないようにするかということです。「さわらぬ神にたたりなし」とのことわざが、まさにその本質を明らかにしています。

そして、このような宗教観は、人類に普遍的に共通しています。大自然の猛威の中で、か弱い存在でしかない人間存在の不安、これが、人間を宗教的行為へと駆り立てます。つまり、宗教的行為、礼拝、祈禱などは、生きる上での恐怖感からの逃避、もしくは克服の道なのです。

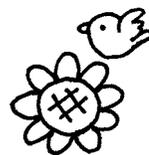
新約聖書において、いったい主イエスは何回、「恐れるな」「恐れることはない」と語られたこと

でしょうか。それは、まさに、人々が不安にかられて生活していたからにはほかなりません。

人はまた、何故、占いを気にするのでしょうか。明日への不安があるからです。日本人が、「運が悪い」としばしば嘆くことも、人生は、自分の力ではどうすることもできない非人格的な力によって左右されること、因果応報などの思想にもとづく無力感に打ちひしがれているからだと思えます。日本人は、生きておられる愛の神、創造者にして摂理の神、主イエス・キリストの父なる神を知らないからです。

主イエスはそのような恐れの後背に、人間の罪、不信仰があることを見ておられました。だからこそ、「恐れるな、神を、父なる神を信じなさい」と命じ、信仰へと招かれるのです。

カテキズムは、「天のお父さま」とお呼びすること、祈りの手段を用いることを求めます。それは、私どもの眼差しを、神に注ぎなさいとの呼び掛けです。私どもには父なる神が天におられ、聖霊によって毎時、毎秒、私どもの傍らに共におられます。その幸いを、共に確かめる場が礼拝式です。 (相馬伸郎)



テキスト マタイによる福音書 6章25～34節  
子どもカテキズム 問14

### 〔単元のねらい〕

日本の子どもたちもまた、すでに、幼くして運命論、宿命論に縛られ、占いにしばられ、偶像の神々のたたりなどに恐怖の念を植えつけられています。分級では、個別の課題にじっくりと対応していただければと思います。説教においては、神さまが天のお父さまでいらっしゃる、共にいてくださることが、心に届けられれば、それで十分かと思います。

## 大丈夫！天のお父さまがいらっしゃる

「大丈夫だよ。心配することはないから」。明日のことが不安で、つらくなってしまったとき、誰かがそんな言葉をかけてくれたら、ホッとするとおもいます。

昔、小学生のとき、一度だけ、転校したことがあります。あれは、4年生のときでした。ものすごく、不安でした。慣れてきたと思ったら、ひとりの友達に意地悪をされました。日曜日の夜、テレビで「サザエさん」が終わってしまうと、「ああ、明日はまた学校か。いやだな」、そんな思いに沈んだことを覚えています。

僕たち私たちは、いつでもどんなときでも、明るく元気に楽しく過ごせるといふわけではないと思うのです。涙を流したり、不安にかられて怖くなったたり、明日が来なければいいのと思ってしまうたり、そんなときがあると思います。

ある人がこんなことを言っているのを聞いたことがあります。聖書のなかで、神さまが一番多く語られた言葉は、何か。それは、「恐れるな」という言葉だということです。365回あるとも言うのです。直接に、この言葉が出ていなくても、同じ意味の言葉がそれほどまでに多いというわけです。365回という、一年は、365日です。ということは、神さまは、僕たち私たちに毎日、「恐がらなくてもいいですよ。心配してはいけません。なぜなら、いつも、どんなところにも、私はあなたと共にいるからです。わたしは、あなたの父。

あなたを守っているからです」と、語り続けていてくださるといふことだと思うのです。

今日の子どもカテキズムにこうありました。「運が悪いと言ったり、占いを気にしたり、たたりを気にすることはできますか」。皆さんは、どうですか。答には、こうあります。「私たちにはできません」。アーメンでしょうか。同じように答えられますか。

今朝、ここにいる皆が、「運が悪いと言ったり、考えたり、占いを気にして、頼ったり心配したり、たたりを気にして、こわがったりしません！」と心から言えるようになって欲しいと思います。

確かに、人が生きる時、誰でも明日のことが心配になります。当たり前と言えば当たり前のことです。最初に、先生のことをお話しました。たとえば、中学生のお友達なら、明日、期末テストがあるとか、宿題があるとかだったら、「そんなのどうでもいいや」というわけには行かないでしょう。誰だって明日何が起こるか分かりませんから、なるべく、事故もなく、失敗もなく、楽しい一日で終われるようにと考えると思います。

そんな人間の心の思いが、占いを生んだのです。でも、考えてみるとすぐに分かります。占いをする人、占い師の人も、自分が明日どうなるのか、分かりません。自分のことも占えないのに、人の将来のことをあれこれ言うのは、本当は、でたら

めです。ただ、大人になると、こんな性格の人は、こんな好き嫌いを持っている人は、多くの場合、こんな行動をとる、そうすると、たいていこんな結果になる、それくらいのことは、分かってきます。占いというのは、結局、そんな程度のことです。それなのに、占いの言うことを、まじめに考えて、気にしたり、頼ったりすることは、愚かなことです。

イエスさまを信じている人は、今日も、明日も、これからもずっとイエスさまと一緒にいてくださいます。天のお父さまがいついかなるときも、いっしょにいてくださるので、安心なのです。どうぞ、占いなんか、絶対に気にしないでください。雑誌やテレビでやっているのを興味半分に読んだり観たりしないでください。神さまが悲しまれることです。

イエスさまは、教えてくださいました。「空の鳥をよく見なさい。自分で畑に種もまきません。そして、刈り入れをすることもありません。まして、倉に納めて、ためておくこともしません。しかし、あなたがたの天のお父さまは、そんな鳥たちを養っておられるでしょう。あなたは、鳥よりはるかに神さまに大切にされているのですよ」。

ところが人間は、自分のいのちを、まるで自分がつくりだし、自分が保っているかのようにまったく思い違いをしやすいのです。

僕たち私たちは、今、「生きている」でしょう。それは、間違いありません。確かなことです。でも、実は、それは、正確な言い方ではまったくないのです。正しく言いなおします。僕たち私たちは、「生かされている」のです。もちろん、神さまによって生かされているということです。神さ

まのいのちを受けて、神さまの養いを受けて、生かされているのです。人間だけではありません。生きとし生けるすべてのものは、神さまによって生かされているのです。そして、それは、何よりも、大切なことは、今、神さまが生きていらっしゃるから、生かされているということなのです。

もちろん、人間は、種をまいて、刈り入れをして、倉に納めます。それが悪いことではありません。とても、大切なことです。ただ、イエスさまは、それによって、神さまに守られていることを忘れて、自分で自分を守らないといけないと、間違っ

て考えてはなりませんよと教えておられるのです。

この神さまは、すべてのものをご自身の栄光を現わすために創造されました。そして、今、この神さまがすべてを保っておられます。そして、イエスさまを信じて神さまの子どもとされている僕たち私たちのことを、まさに、天のお父さまは、守り続け、養い続けてくださいます。ですから、僕たち私たちには、もう、こわいものはありません。天のお父さまより、大きな強い力を持つものは、世界のどこにもいません。

この礼拝式で、天のお父さまは、ここに、いっしょにいてくださることがわかります。教会から家に戻るときにも、天のお父さまは、いっしょです。安心して、ここから出発しましょう。

そして、もしも、不安や心配で、心が暗くなっているお友達がいたら、イエスさまのことを伝えてあげてください。「大丈夫だよ。心配することはないから。神さまがいらっしゃるよ。天のお父さまは、守ってくださるよ」と。 (相馬伸郎)

---

[今週の暗唱聖句]      マタイによる福音書 6章34節

だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。

その日の苦勞は、その日だけで十分である。

---



**〈ねらい〉**

どんなときでもイエス様が共にいてくださるから、私たちは、安心して歩むことができることを教えたい。

**〈展開例〉****1. どっちへ行けばいいの？**

道路を工事しているところで、「はい、こっちですよ」と棒や旗を振っている人を見たことがありますか。道路工事中は、大きな穴があいていたり、道が片方しか通れないようになっています。どちらに行ったらいいのかを教えてくださいの人がいなかったら、どうなるでしょう。穴に落ちたり、車と車がぶつかってしまいます。だから「はい、止まってください」とか「こちらの方へ行ってください」と棒を振って教えてくださいの人が必要なんです。

**2. 道を教えてくれる聖書**

神様は、私たちがどっちの方向に進めばいいのかを教えるために、聖書をくださいました。聖書には神様の言葉が書かれています。どっちへ行ったらよいか迷っているとき、神様は、どっちへ行けばいいのか、何をすればいいのかを、聖書をとおして教えてください。

**3. 間違ったことを教える人たち**

工事中の道路で道を教えてくれる人が、もしも悪い人だったら、わざと穴に落ちるようにと、間違った方向を教えるかもしれません。

私たちが困ったときに、聖書ではなく、占いやおまじないに頼るとしたら、同じことが起こってしまいます。占いをする人は、これから何が起こるか本当は全然知らないのに、「それはしてはいけません」とか「こうしたらいいですよ」などと、適当なことを言います。その人たちは神様を信じていないので、神様の道とは反対の道を教えるのです。

**4. 道であるイエス様**

イエス様は「わたしは道である」とおっしゃいました。心配なとき、こわいとき、泣きたくなるとき、イエス様が一緒にいてくださいます。イエス様が道なのですから、イエス様に従っていけば安心です。イエス様はいつも「大丈夫だよ。わたしが側にいるよ」と言ってくださいます。

**5. カードで道をつなごう**

準備：カードの絵(次ページ)を枚数分、拡大(150～200%)コピーして色を塗り、両面テープで厚紙に貼りハサミで切る。(49枚)

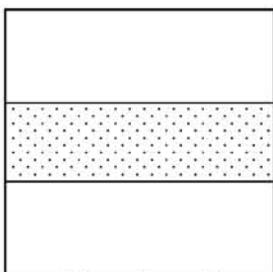
色をぬった画像のファイルをダウンロードして使ってもよい。

遊び方：カードをよくきり7枚ずつ配る。1枚だけ絵を表にして場におき、残りは裏にしてその横におく。

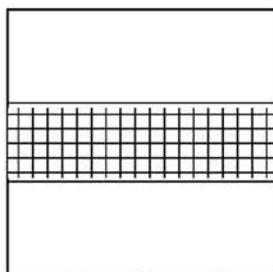
- ・場に出ているカードと同じ色の道のカードがあったら場のカードにつなげて(進行方向のみ可)出す。(一部分が同じ色ならつなげるので出せる)
- ・出すカードがなかったら場から1枚だけめくる。それがつなげられるカードならすぐに出す。(出せなかったらそのままらう)
- ・オオカミ、石、へび、穴の障害物のカードはいつ出してもよい。そのカードを出すまで通行止めとなり、次の人はイエス様のカードしか出せない。持っていない場合はイエス様のカードが出るまでめくって出す。(イエス様のカードは障害物の次しか出せない。障害物もイエス様も2枚つなげて出すことはできない)
- ・イエス様を出した次の人は障害物の一つ前の道のカードにつながるカードを出す。早くカードがなくなった人の勝ち。(広い場所で遊ぶ。道が交差してもそのままつなげていく)



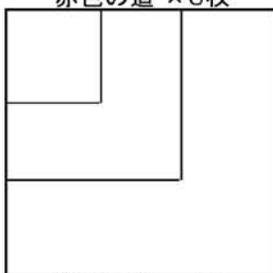
赤色の道 × 6枚



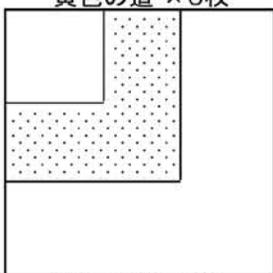
黄色の道 × 6枚



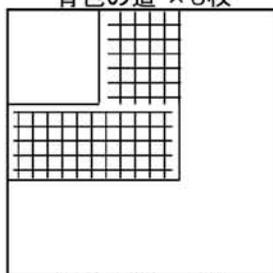
青色の道 × 6枚



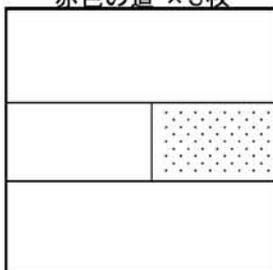
赤色の道 × 3枚



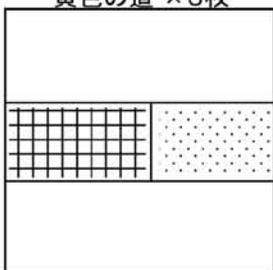
黄色の道 × 3枚



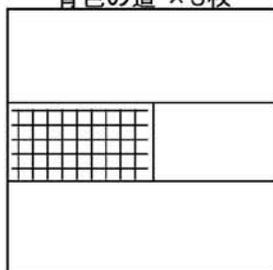
青色の道 × 3枚



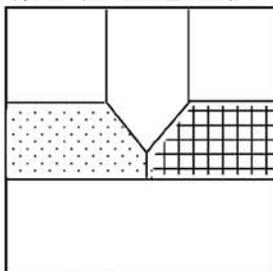
赤色と黄色の道 × 3枚



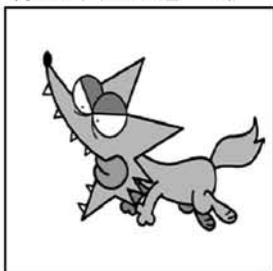
青色と黄色の道 × 3枚



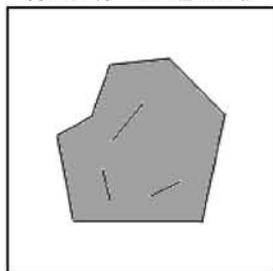
青色と赤色の道 × 3枚



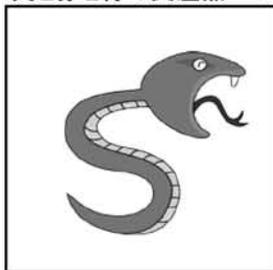
黄と赤と青の交差点 × 5枚



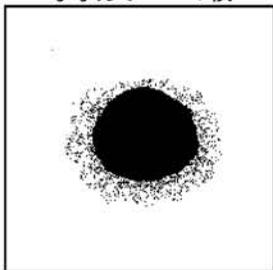
オオカミ × 1枚



石 × 1枚



へび × 1枚



穴 × 1枚



イエス様 × 4枚

※色つきの画像は次のアドレスからダウンロードしてください。(エクセルファイル)

[http://ogaki-ch.com/ss\\_text/46](http://ogaki-ch.com/ss_text/46)

**〈ねらい〉**

占い、たたりなど、実は根拠のない不吉な言われに振り回される弱さがあるが、それらは神様の前には意味がなく、神様が一番強い力をもって守っていることを知る。

**〈展開例〉**

先週も話したけども、神様は世界を創造した後、神様は何をしているんでしょうか。……何もせず眠っている方ではなく、今も神様は私たちを守っています。

そして、神様の力が一番大きな力ですね。

人間の力は神様からみたら、ちっぽけです。大自然を作った力とは比べものになりません。それに、神様はこれから未来に起こることも知っています。この分級が終わった後、〇〇ちゃんがどこへいくのか、そこで何をするか、神様は全部知っておられます。

でも、神様の力が一番だということを忘れやすくなる時があります。例えば、占いですね。占いにはどんなものがありますか。……これこれをするといふことがおこる、といったものです。

先生は小学生のころ、黒猫を見たら目をつぶって10歩下がらないと不吉がことが起こると、言われ、毎日たいへんでした。言うとおりにやっても目を開けて猫がまだいたら、またやらないといけない。そして見ないように通り過ぎる。自転車に乗っている時は危なかったね。何ヶ月か経って面倒くさくなりやめました。この分級展開例の準備中、そういえば悔い改めてなかったことを思い出したので、悔い改めました。「神様じゃない変な力に支配されていたことをお赦してください。神様の力が一番だということを忘れていました。お赦してください。アーメン」

今頃になって、なんであんなことしたんだろう、

と思いました。何でだと思えますか……？ もしクラスのみんなやってる中で、自分だけしていなかったら、不吉だの何だのと言われるでしょうね。きっと先生もそうだったのかもしれない。少しでも自分に悪いことが起こらないように、と思って、少しでも悪いことが起こらないようにと、いろんなことをしてしまったんだと思います。じゃあ、神様はなんて言ってるんでしょう。どうやって助けてくれるんでしょうか……。

神様じゃない力に頼ろうとすることを罪といいます。罪を完全にほろぼした業はなんんでしょうか。イエス様の十字架ですね。あの十字架は、悪いことを全部打ち負かす力を持っています。私たちには、天のお父様が用意してくれた十字架の力がある！この力を本当に知る時に僕たちはきっと驚くだろう。本当にすごいんだってね。

みんなが、実は不吉なことを聞いたりして心配や不安があれば、イエス様の十字架に頼ろう。イエス様は悪いものを全部背負ってくれました。その証拠として復活なさいました。天のお父様は、その力をイエス様の十字架において表してくださったんです。いろんな不吉なことを言われても、たたりがあるぞとか言われても、神様の力にまさるものはありません。だから、私たちはイエス様の十字架に頼って、天のお父様、今日も私たちを助けてくださいと祈ろうね。昔の人、アブラハムもダビデもそうやって生きてきました。そして、イエス様もそうです。悪魔の頭だとか言われましたが、そんなことを気にせず、天のお父様を信頼し続けたのです。

**〈お祈り〉**

不吉なことを言われても、天のお父様が私たちの信仰をしっかり守ってくださいますように。

## 〈ねらい〉

天のお父様である神さまが共にいてくださるので大丈夫だということを知り、安心することができる。

## 〈展開例〉

(1) 暗唱聖句（説教展開例のものを変更）の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「異邦人」→神さまを知らない人たち。

「切に求める」→ものすごく欲しがる。

「必要」→なくてはならないこと。

「ご存じ」→知っておられる。

「それはみな」「これらのものがみな」って、どれら？→食べるもの、飲むもの、着るもの。

(3) やってみよう。

考えてみよう。異邦人がそれらを切に求めているというのは、どういうことだろう？ 現代にお

いては、グルメだったり、ファッションだったり、高学歴高収入だったりする。もっと切実に、就労不安だったり、リストラだったり、ニートだったり、経済格差だったり、少子高齢化問題だったりする。子どもたちも就活や婚活という言葉を知っていて、そのために学校で一生懸命勉強しなければいけないと思っているかも知れない。また、社会性やコミュニケーション能力を重視される社会で、KYにならず、ハバにされずに、みんなと仲よく横並びで生きていかねばならないと思っているかも知れない。

そういったことを丁寧に聞き出して、生きていくために必要なものが何かを神さまはご存じで、必要なものはすべて神さまが与えてくださるのだから、心配はいらない、と伝えたい。

(4) 歌おう。

「心配しない」（プレイズワールド21「勇気を出して」9 いのちのこば社）

あんしようにせいく

暗唱聖句（マタイ6章32節）

月 日 名前

それはみな、<sup>い ほう</sup>異邦  が切に求めているものだ。

あなたがたの  の  は、

これらのものがみなあなたがたに

なことをご<sup>ぞん</sup>存じである。

人 天 父 必 要

(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

私は中学生のころ、毎日が不安で仕方ありませんでした。友達がだれもいなくなつて、学校に行くのが本当に苦しい時がありました。自分の将来がまるで見えませんでした。夢ももてなかった。まずは高校に入らなくちゃと思つても、思うように成績もあがらず、落ち込むばかり。当時は、ノズトラダムスの大予言なんてのがあって、1999年に世界は滅びるって、けっこう本気で信じていました。本当にそうならいいのになあとも思ひながら……。

毎日、新聞に掲載されている占いを見なくては、一日を始めることはできませんでした。◎の日は安心だし、×の日は細心の注意をして、目立たぬよう、騒がぬようにひっそりと過ごしました。でも、高校受験の時です。緊張して眠れずに、最悪のコンディションで朝を迎えました。すがるような思いで新聞の占いコーナーを見ると、なんと×がついてる……。目の前が真っ暗になりました。……でも結果はといえば、今までで最高の出来で、余裕で合格できました。私の中で、何かが溶けたような思いでした。

それから何年か経って、私はイエス・キリストを信じるようになりました。

イエス様を信じるようになって、私のヘタレな性質はそうそう変わるものではありません。今でも不安が多いです。「恐れるな」ってイエス様はたくさん声をかけてくださるけど、……やっぱり恐れてしまう。ほんとに不信仰だなど、自分でも反省します。

でも、もう私は、占いをしてもらいたいとは思いません。イエス様を信じているからです。

イエス様は「明日のことまで思い煩うな」と言われました。確かにそうすべきです。頭では分かっています。でもやっぱり私は、明日が来るのが怖いという思いに、まだ縛られています。ほんとに、不信仰です。

でも、それでも今の私は、明日が来てほしいと思います。どんな明日になろうとも。たとえ、病気が与えられようと。すべてが奪われようと。きつとそんなことが起こったら、うろたえて、泣いてばかりになってしまうヘタレです。でも、それでも私は、どんな明日であっても来てほしいと願っています。

イエス様を信じているからです。イエス様との出会いを与えてくださった、全能の父なる神様を信じているからです。

#### イザヤ書46章3、4節

「あなたたちは生まれた時から負われ／胎を出した時から担われてきた。同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで／白髪になるまで、背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す。」

神様は、私が生まれる前から背負い、クリスチャンになる前からずっと愛してくださいました。あんなにつらかった日々も、私の知らない間に背負ってくださって、いっしょに歩いてくださいました。そして今日も、このしょうもない私を、生かしてくださっています。たくさん喜びを与えてくださっています。

この方が、よろめく私を最後まで背負い通してくださいって、昨日より素晴らしい明日へと導いてくださいます。だから私は、明日のことを思い煩ってしまう不信仰な人間ですが、明日が来てほしいと思います。

テキスト 創世記 1章27節、2章7節

子どもカテキズム 問15

参考教理問答 ウェストミンスター信仰告白4:2、ウェストミンスター小教理問10

問15 神さまは人間をどのように創造されましたか。

答 神さまは、人間を神さまのかたち似せて、男の人と女の人として造られました。土のちりから造り、神さまのいのちを吹き入れてくださいました。こうして、人間はただの動物ではなく、神さまとの交わりを持つものとされました。ですから、人間にとって生きることは、神さまを礼拝すること、お友だちを愛することです。

○子どもカテキズム問15に表明された教理を、生徒の信仰告白を励ます説教として届けたい。

#### 〈教理についての黙想〉

○子どもカテキズム問15は、人間創造に関する二つの聖書箇所から、「神の似像（創世記1:26, 27）」と「命の息（創世記2:7）」を併記し、そこに人間の存在意義「神との交わりを持つ者」を根拠づけ、「神を礼拝し、友を愛する」という道徳律法へと方向づける。

○ウ告白4章2節は、「神のかたち」を「理性ある不死の魂を持つ御自分のかたち」と言い換え、人間の本性を「知識と義と聖とを授けた者」「心の中に記された神の律法と、その律法を果たすことのできる力を持つ者」「変わり得る彼ら自身の意志の自由に委ねられていたため、違反の可能性のある者」と詳細に表明する。

#### 〈神の似像についての黙想〉

○創造物語前編（創世記1:1-2:3）にあって、人間創造とその目的に関する記述（1:26-30）は、六日にわたる創造の御業の最終仕上げ（1:31）に位置する。「神の似像」は、神の自問自答と熟慮による人間創造の動機（1:26）、またその実行（1:27）において、全人類の創造された状態を決定づけるものである。人間が真実に人間である（神そっくりである）こと存在根拠、また人間が本来の使命を遂行する（地に満ちて地を治める）ための可能根拠、これこそ「神の似像」である。

#### 〈命の息についての黙想〉

○創造物語後編（創世記2:4-25）は、人の創造、

命の契約、女の創造、結婚の恩恵について記述する。土の塵で形造られた人の生物学的生命（2:7前半）に対して、「命の息」は人に神学的生命（2:7後半）を付与する動因であり、神に対する人の応答（2:19-20, 23）を可能ならしめるものである。人は男も女も、命の契約における神との交わりにおいて命を授けられ保たれる。その文脈において、男と女は結び合わされ一体となって神に仕える恵みを与えられる。神が結び合わせてくださったもの（マルコ10:9）は、決して引き離すことができない。息のあったパートナーは、命の息によって結ばれている神と人との絆をも例証する。

#### 〈人間発達についての連想〉

○人は、それぞれ体型も能力も性格も異なる。一人ひとりが他の誰とも異なる独自の存在としての「個性（individuality）」を持つ。その存在の独自性を互いに認め合う「個性尊重」が一般に重んじられる。「個人差」は、性差・年齢差・地域差などの「集団差」と対比される。

○個性は「パーソナリティ（personality）」とも表現される。人は生活の様々な局面で、そこに適応したペルソナ（仮面）を被って生きている。その人を外側から見たときの様々な行動の奥底に、一貫して流れるものがある。他方、仮面の内側の本人にすれば、過去の自分と現在の自分との整合性や、現在の自分と将来の自分との連続性を感じながら生きている。外から見た「その人らしさ」、内から見た「自分らしさ」、その統合こそ適応課題である。 （二宮 創）

テキスト 創世記 1章27節、2章7節  
子どもカテキズム 問15

### 〔単元のねらい〕

子どもカテキズム問15に表明されている教理を、人間創造に関する聖書全体の教理として、また霊的な生命力と成長力の源である御言葉の教えとして提供する。自他の内面に気付き、仲間をつくる社会性、その発達を遂げてゆく児童を励ますため、特に日曜学校の礼拝へ通う生徒の葛藤を受けとめ正しい自己理解へと導くため、更に神の子供の信仰を芽吹かせ告白を花咲かせるため、十分に耕された良い畑に御言葉の種を蒔き聖霊の水を注ぐような説教をめざしたい。

## キリストそっくりの君

「きみのともだちはだあれ？」そう聞かれたら、誰を思い浮かべますか。嬉しそうにしてる君は、すぐに友だちの顔が思い浮かんだのでしょうか。悲しそうにしてる君は、なかなか友だちの顔が思い浮かばないのでしょうか。困ってそうな君はおそらく、自分は友だちだと思っているけど、相手はそう思っているだろうか、自信が持てないのでしょう。困ったり、悲しくなったり、嬉しくなったり。それが、友だちを思うことなのだと思います。

「きみはどんなともだちがほしい?」。そう聞かれたら、どんな人のことを思い浮かべますか。近くに住んでる人、素敵な玩具を持っている人、一緒に遊んでくれる人のことでしょうか。それとも、大切なものが同じ人、秘密のことを話せる人、困ったときに助け合える人のことでしょうか。あるいは、同じ趣味について熱く語れる人、自分にはない才能がある人、自分とは違う考え方をする人のことでしょうか。いま思っている友だちも、君のことを友だちだと思ってくれている。そう信じるなら、きっと本当にその通りになるでしょう。一緒にいて互いに豊かな気持ちになれる、そんな大切な友だちになれると思います。

「ねえ、こんどのにちようび、うちにあそびにこない?」。大切な友だちにそう誘われたら、どう答えますか。言葉につまった君の心には、きっといろんな思いがあるのでしょうか。せっかく

誘ってくれたのだから、どうしても遊びに行きたい。でも日曜日の朝には教会へ行くって言ったら、どう思われるだろうか。これからも友だちでいてくれるだろうか。教会と友だちとを天秤にかけてると思われたらどうでしょうか。みるみる悲しい顔になった君の心は、痛み始めているのでしょうか。どうして日曜日のたびに教会へ行かなきゃならないんだろう。せっかく仲良くなれたのに、また友だちをなくしてしまうかもしれない。教会には黙って、遊びに行こうか。それとも、友だちには上手に断ろうか。いつまで悩まなきゃならないんだろう。いったいクリスチャンって何なんだろう。いったい自分は何者なんだろう。そのことが君の中ではつきりしないかぎり、君の心の痛みは、いつまでも無くならないと思います。

「きみは、いったいだあれ?」。そう問われたら、どう答えますか。「わたしは〇〇××です」と自分の名前を答える君に、考えてほしいのです。名前は生まれてから何時間か経って、あるいは数日あとに、付けてもらったものですよね。では、「名前がまだないときの君は、いったいだあれ?」、そう問われたら、どう答えますか。「お父さんとお母さんの子です」。そう答える君に、考えてほしいのです。君が誰なのかを決めるのは、お父さんとお母さんなのだとしたら、君のお父さんとお母さんにも、「あなたは誰ですか」、「名前がないときのあなたは誰ですか」と問わねばなりません。

そしてきっと、君のお父さんもお母さんも、君と同じ答えをするしかないでしょう。「君が誰なのか」の答えは、お父さんとお母さんにも分からないでしょう。それとも、苦しまぎれに「わたしは人間です」と答えるかもしれません。そこで考えてほしいのです。君が君であると言える人間とは、どんな人間ですか。誰が見てもまさしく君だと分かる君とは、どんな君ですか。君自身がまさしく自分だと思える自分とは、いったいどんな自分ですか。その答えが見つからないかぎり、君だけではなく、あらゆる人間の心の痛みは、いつまでも消えないのだと思います。

今日、君たちと一緒に考えたいことは、「人間とはいったい何者なのか」ということです。そのことが分かれば、「君はいったい誰なのか」という問いに答えることが出来るでしょう。そして、「クリスチャンとは（キリストの者とは）いったい何者なのか」という問いの答えも、見えてくるでしょう。君の心の痛みは消えて、大切な友だちを失わずにすむでしょう。

「名前がない頃の君はいったい誰ですか?」「お父さんとお母さんの子です!」。この問答を遡ってゆくと、最後に一人の人の行き当たります。「わたしはお父さんとお母さんの子です!」と答えることができない人に行き当たります。聖書はその人のことを、こう紹介します。

「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女とに創造された。神は彼らを祝福して言われた。『産めよ、増えよ、地に満ちて、地を従わせよ』(創世記1:27,28)」。全人類の最初の人、天地の主なる神によって造られた人、神そっくりの像として造られた男と女、それが人間でありました。ある国の王そっくりの像が、その国を治める王の力を表わすように、全地の主なる神そっくりの像に造られた人間は、全地を治める神の力を授けられ、遣わされた大使なのです。

「主なる神は、土（アダマ）の塵で、人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった」(創世記2:7)。土からできたアダムは、命の息を吹き込まれて生きました。神と息を合わせ、良きパートナーとなって生まれました。ところが最初の人アダムは、神のパートナーであることをやめてしまいました。神の言葉を捨て、神の霊を失い、死ぬ者となりました。彼の子孫である全人類は、神から遣わされた大使であることを忘れ、自分が神のように振る舞うようになりました。こうして、神そっくりの像は歪み、壊れてしまいました。そこで神なる主は、もう一人のアダムを地上にお遣わしになります。全き方・聖なる方・神そっくりの方として来られた、第二のアダムであるキリストです。この方に結ばれる者・キリストの者・クリスチャンは、キリストそっくりに造り変えられ、神そっくりの人に造り上げられるのです。

人間は、神そっくりの像として造られた者です。君も僕も、最初の人アダムの子孫、そして壊れた神の像です。最後の人キリストに結ばれて、神そっくりに造り変えていただける者です。「私たちは、土からできたその人（アダム）の似姿（かたち）となっているように、天に属するその人（キリスト）の似姿（イメージ）にもなるのです」(一コリント15:49)。

日曜日に教会へ行くのは、キリストに結ばれて、神そっくりに造り変えていただくためです。礼拝に出席するのは、神の言葉を聞き、神の霊を注がれ、本当に生きようになるためです。そんな君こそ、君だと言える姿です。誰が見ても、まさしく君だと分かる姿です。君自身が、まさしく自分だと思える姿です。キリストそっくりの君のことを、大切な友だちはもっと好きになってくれるはずです。だから勇気をもって友だちを誘いましょう。「今度の日曜日、教会の礼拝へ、一緒に行こうよ」。

(二宮 創)

---

[今週の暗唱聖句] コリントの信徒への手紙一 15章49節

わたしたちは、土からできたその人（アダム）の似姿となっているように、  
天に属するその人（キリスト）の似姿にもなるのです。

---

**〈ねらい〉**

一人ひとりが神様によって造られた特別な存在であることを知る。

**〈展開例〉****1. 人間だけに与えられた話す力**

お家で猫や犬を飼っている人はいますか？

犬や猫の鳴き方にはいろいろな鳴き方があるんですよ。たとえばある猫なんかは、お腹がすいたよというときは、甘えて「ニャーン、ニャーン」と鳴きます。おいしそうなお魚を見たときにはもっと大きく長く「ニャ〜ン」と、どうしてくれないのよと怒ったように鳴きます。キャリーに入れられて病院に連れて行かれるときは、不安そうに高い声で「ニャー、ニャー」と鳴きます。猫にも猫語があるのかもしれないね。

でも、猫や犬が本を読んでいたたり、お手紙を書いたりしているのを見たことがありますか。猫も犬も、鳴くことはできても、人間のように言葉を自由に使ってお話しすることはできません。人間だけが他の動物と違って、自由にお話しすることができるのです。

**2. 特別な人間**

どうしてそんなふう人間だけが自由に話ができるように造られたのでしょうか。それは、神様とお話しするためです。犬や猫がエサを食べる時、お祈りしてから食べますか？ 動物がお祈りするのを見たことがありますか。手を合わせてお祈りする格好を教えることはできても、動物はお祈りすることができません。

神様は、神様にお祈りしたり礼拝したりする特別なものとして人間をお造りになりました。神様に似たものとして、神様と人を愛する者として造られているのです。

**3. みんな特別**

私たちの顔は兄弟でも一人ひとり、違った顔をしています。神様は、人間を一人ずつ、世界でたった一人の、特別な人間として造られました。神様にとって一人ひとりが、代わりのいない、特別な人間です。工作が上手な子も得意でない子も、足が速い子も遅い子も、本が上手に読める子も読めない子も、病気の子も元気な子も、一人ひとりが特別なのです。

自分が失敗したり、お友達と比べてうまくできなかったりすると、自分はだめだなあと落ち込んでしまいますね。でもどの子も特別な人として神様に愛されているのです。

**4. 小麦粉粘土でアダムとエバを作る**

〈材料〉小麦粉500g・水150cc サラダ油25cc・塩（防腐剤として）小さじ6程度・着色剤として食紅（赤・黄）、コーヒーまたはココア

〈小麦粉粘土の作り方〉

- ①小麦粉と塩を混ぜる。体用と髪用に二つの塊に分ける。それぞれに耳かき1杯ほどの着色剤を入れる。  
(体は赤+黄、髪はコーヒーかココア)
- ②水をちょっとずつ入れる。水を入れるとさっと色が変わるので、子どもと一緒にやってみせてあげるとよい。
- ③パン生地を作るみたいにコネコネしてちょうどうどよい固さになれば出来上がり。ビニール袋に入れて外側からモミモミすると手を汚さずに作れます。

○この粘土でアダムとエバを作りましょう。



## 〈ねらい〉

神のかたちとは、神様の思いを私たちが表すことであることを知らせる。そのために、神の言葉を良く聞いて行なうことを教える。

## 〈展開例〉

一緒に創世記1章27節と、2章7節を読みましょ  
う……。

神様は人間をお造りになりました。そして、神のかたちにかたどって造られたとあります。大人でも知らない人が多いけども、神様は神のかたちにかたどって私たちをお造りになったんだね。

さて、神様のかたちはみんなにありますね。では、みなさん、〇〇ちゃんをよく見ましょ。どんなところが神様のかたちか、順番に言いましょ。先生にもあるでしょうか。みなさん教えてください。(どんな意見でも積極的に理解する。)

いろんな言い方ができると思います。顔の形や手が二つ足が二つということも間違いじゃないけど、それが一番大切なことではありません。さあ、何でしょうか。

神様のかたちの、「神様」を「みんな」とか「〇〇ちゃん」に変えてみましょう。学校で自分の似顔絵を書くことはあるでしょ。それで、できあがったみんなの絵をみて、あれは〇〇ちゃんの絵だと、すぐわかったことはありませんか？ 自分が自分自身の顔を描こうと思って、そのように書いたからだね(分級の時に書いてもらおうと分かりやすい)。

じゃあ、ゲームで自分の思い通りに動くキャラクターをつかったことのある人はいますか？ 自分の思っているように、そのキャラクターが動いたり喋ったりするのなら、自分のかたちが表れてるわけです。今度はロボットです。もし自分の思い

通りに動くようにロボットを造れば、そのロボットは自分のかたちを表してます。もし、造り手の自分の言うことを聞かない行動をとりはじめたら、「異常あり」、故障です。

神様は私たちを神様のかたちにかたどって造りました。その形とは、造ってくださった神様の言うことを聞き、神様に従うという形です。私たちは喜んで神様を愛し、神様の言葉(聖書)を聞いて、行なうように造られました。そうすることが嬉しい、大切だ、と思うように造られているんですね。神様の言葉を聞き、従っている姿を他の人が見れば「あの人は神様を大事にしている人だ」と思うでしょう。これは、神様のかたちに気付いたからです。

さっき、みんなに、おたがいに、どんなところが神様のかたちだろうかって考えました。それは神様を大切にしてお祈りすることです。聖書を読むこと、祈ること、礼拝に出ること、そして人を愛することを弱い人、困っている人を助けること、そういうことを神様が喜ばれるためにすることが、神様のかたちなんですね。顔が一つ手が二つ足が二つ、それは神様に従うために与えられたものなんです。

もし、神様の言葉を聞かなくなり勝手な行動をとれば、それは故障です。この故障は罪のことです。この罪はみんなあるんだけど、イエス様が直して下さいますから、いつもイエス様に助けてもらいながら神様の言葉を良く聞き行っていくましょ。

## 〈お祈り〉

神様のかたちについて教えてくださいありがとうございます。私たちが、神様の思いに心から従って生活することができますように。



〈ねらい〉

人が神にかたどって創造されたことを知り、喜ぶことができる。

〈展開例〉

(1) 暗唱聖句（説教展開例のものを変更）の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「かたどる」って、何？→象る。形取るの意。ある物の形をまねて、そのような形に作る。

「神にかたどる」ってどういうこと？大切なことなので二度書きました。どんなところが神さまに似ているのだろうか？もちろん神さまに形はないので形は似てない。人は神さまと違って無限でも永遠でも不変でもない。でも、無限や永遠や不変を想うことができる。そして人は、神さまがお造りになった世界を管理せよという使命を与えられた。

(3) やってみよう。

考えてみよう。人は神さまにかたどられたものとして。神さまが造られた世界をちゃんと管理しているだろうか？→自然破壊や原発や戦争の話などが出るとよい。「環境」「エコ」などのキーワードを出すと子どもたちは乗って来る。大気汚染、酸性雨、水質汚濁、地球温暖化、絶滅危惧種など、人間が世界を正しく管理できていない現実を、子どもたちも知っている。人間さえいなくなれば自然界は正しくまわっていくと信じている大人たちも多く、小学校高学年はそういった情報を耳にしている。

自らを神として世界を危機に陥れている人間が、キリストの贖いによって救われ、神さまからの大使として、神さまの造られた世界を正しく管理できるよう、祈ろう。

(4) 歌おう。

「両手いっぱいのお愛」（ブレイズワールド「ジャンプ」13 いのちのことば社）

暗唱聖句（ローマ8章28節）

月 日 名前

○はご自分にかたどって□を創造された。

○にかたどって創造された。

□と□に創造された。

神 人 男 女

(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

## 詩編8編4-9節

「あなたの天を、あなたの指の業を  
わたしは仰ぎます。  
月も、星も、あなたが配置なさったもの。  
そのあなたが御心に留めてくださるとは  
人間は何ものなのでしょう。  
人の子は何ものなのでしょう  
あなたが顧みてくださるとは。  
神にわずかに劣るものとして人を造り  
なお、栄光と威光を冠としていただきせ  
御手によって造られたものを  
すべて治めるように  
その足もとに置かれました。  
羊も牛も、野の獣も  
空の鳥、海の魚、海路を渡るものも。」

私たちは、決して神様にはなれません。最近「神」って言葉がネットの世界などでとってもおかしい使われ方をしているから、「このおもちや作った人は神だ！」みたいに、聖書を知らない人たちがすごくお気軽に言っているのが目に付きます。でも、まことの神を知る私たちはくれぐれも気をつけましょう。冗談でも、人間と神様をいっしょにすべきではありませんよ。神様と私たちの間には決定的な違いがあります。人間は塵から造られ、やがては死んで塵にかえっていく、はかない存在に過ぎません。

でも神は、私たち人間のことを「神にわずかに

だけ劣るもの」という、素晴らしいものとして創造してくださいました。全宇宙の創造者が、特別に御心をとめてかえりみてくださるとは、人間とはいったい何者なのか。この私は何ものなのか。どれだけ値打ちがあるのかと、はるか昔の詩人は歌いました。私たちもよくかみしめてみましょう。私たちがいかに素晴らしいものに創造されたのかを。「人間の尊厳」ということを。

人間は弱く小さい者です。しかしその私たちが、あのエデンの園においては、ただ神の慈しみによって無限に尊厳ある存在として扱われていたのだと聖書は教えてくれます。だから私たちは本来、惨めなままでいい存在ではないのです。

ただ、残念ながら今の私たちは歪んでしまって、本来のすばらしさの片鱗もあらわすことはできていません。

でもそんな私たちを「造り直す」ためにこそ、イエス様が来てくださったのだということを、よく覚えてください。例えるなら、私たちはボロボロに傷ついて、べっとべとに汚れがこびりついた人形のようなものです。イエス様は、十字架の血でその汚れをふきとってくださいました。そして、聖霊を与えて、命を吹き込んでくださいました。それでもまだ、私たちはボロボロなままですが、だんだんと内なる聖霊がきれいに磨いてくださって、イエス様の義と聖に少しずつ似せていってくださいます。

この「造り直し」こそが、「救い」ということです。一人ひとりを作り直して、やがて世界全体を作り直すというのが、神様のご計画です。よく覚えておいてください。



テキスト 創世記 3章1～7節  
子どもカテキズム 問16

問16 最初の人間は、極めて良いものとして続きましたか。

答 いいえ。アダムとエバは、神さまの御言葉を破って、罪を犯しました。

### 〈神の似像〉

「神は御自分にかたどって人を創造され」（創世記1:27）、「その鼻に命の息を吹き入れられた」（2:7）のであり、また「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」（1:31）のです。つまり、神が人を創造された時の状態は、人が神と共に生きることが目的とされていました。

### 〈命の契約〉

そして主は、人が神の祝福の内に永遠の生命を得るために、命の契約（業の契約・行いの契約）を結んでくださったのです（2:16,17）。この契約は、主が人の代表としての最初の人アダムとエバに結ばれたのであり、アダムとエバから生まれ来るすべての人に対して有効なのです。そのため、アダムとエバがこの主との契約を破ることにより、刑罰としての死は彼らの子孫である私たちにももたらされることとなるのです。そうした意味で、創世記3章1～7節は、単なる最初の罪ではなく、この罪により、私たちにつながるすべてに人が創造の秩序から離れ、罪と死を避けて通ることが出来なくなった出来事であることを忘れてはなりません。

### 〈アダムとエバの罪と墮落〉

最初の罪は、蛇の誘惑によって引き起こされた。この蛇がサタンそのものであることを忘れてはなりません。

そして、この最初の罪は、私たちが日々生活する中において犯す罪の原形であり、ここでアダムとエバが犯す罪をとおして、私たち自身に迫ってくる罪の誘惑に対しても、確認しておかなければなりません。

鍵となるのは、主なる神さまが命の契約を結んでくださった時の言葉と、蛇が女に迫って来た時の言葉の違いです。主は「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない」（2:17）とお語りになったのであり、全ての木から取って食べてよい中において、善悪の知識の木という一本の木からのみは、取って食べてはならないという、非常に限定した禁止でした。しかし蛇は、「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか」（3:1）と全否定を語りました。そして、女がそれを打ち消すところから、巧みにその一本の木に関心を集めさせるのです。そのため、女は、主なる神さまの御前であることを忘れ、蛇との会話に呑み込まれていくことになりました。エバだけではありません。アダムも含めて、神との契約の重要性を忘れ、罪を犯すことの罪悪感が軽くされてしまったのです。（辻 幸宏）



---

テキスト	マ創世記 3章1～7節
子どもカテキズム	問16
参照カテキズム	ウェストミンスター信仰告白第6章、同大教理問21、22、同小教理13

---

### 〔単元のねらい〕

最初に人は主なる神さまに「命の息」を吹き入れられ、生きる者として創造された。しかし今、人は皆、肉においては死んでいく。最初の罪を確認することにおいて、人が死ぬことは神さまが求めておられるのではなく、神さまが人を創造された本来の目的からは離れていることを確認して頂きたい。

また第二に、罪は蛇であるサタンの巧みな誘惑によって行われたのであり、これこそが罪の原形である。ここから、子供たちに対しても、同じようにサタンからの罪の誘惑が絶えずあることを確認して頂きたい。そして罪のもたらす結果が死であることを確認し、主の御前で罪を犯すことが、非常に罪深い行為であることを語ることを求められている。

---

## たがが罪、されど罪

みなさんは、お家の人たちや友だちに嘘をついたり、悪いことをしてしまったことはないでしょうか？ 口に出す必要はありませんが、きつと一つや二つはすぐに答えることができると思います。嘘をついた時、みなさんはどんな思いでしょうか？「嘘がバレたら怖いな、怒られるかな」とびくびくするのではないのでしょうか。しかし嘘をついたことが、誰にも注意されることなく、時間が経つと、あれくらの嘘ならばバレないし、怖くないんだと思ってしまうと、また嘘をつくことが怖くなくなっていくのだと思います。

さて、主なる神さまが、最初に天地万物を創られた時、最初の人、アダムさんとエバさんがどのように創られたか覚えていますか？「主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった」（創世記2:7）。こうして神さまは人を土の塵から作り、命の息を与えて、人に生きることを求められました。死ぬことではありませんでした。

ただ神さまは、最初の人アダムさんに対して、「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、

善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう」（同2:16,17）と命じられました。善悪の知識の木にばかり目が向いてしまいますが、まず、すべての木が与えられていることに注目しましょう。人は、園において、多くの木の実があり、神さまとの交わり、神さまがお与えくださった生き物や植物との交わりによって、喜びつつ生きることが出来たのです。善悪の知識の木があることを知らされて、注意はしたでしょうが、特に意識することもなかったかもしれせん。

しかし、サタンに取りつかれた蛇は、賢く、人をだまそうとして、女であるエバさんに近づいてきます。蛇は女に聞きます。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか」(1)。最初神さまは何とお語りになったか覚えていますか？神さまは、「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない」とお語りになったのです。しかし、「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか」と言われて、女は、そういえば神さまは「善悪の知識の木からは、決して食べてはならない」と語っておられたなど、取って食べてはならない木を意識し始めることになり

ました。女は蛇に対して、「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました」(2, 3)と答えます。「触れてもいけない」と、神さまはお語りになったでしょうか？ いいえ。神さまはこんなことは語っておられません。女は、園の中央にある善悪の知識の木が気になってしまうようになりました。

この時、すかさず蛇は女に「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ」(4,5)と語りかけます。もう女は、その木が気になって仕方がなかったので、神さまとの約束など、上の空です。蛇が親切に語っているのだから、本当のことだろう。おいしそうだし、賢くなるようにも見えます。「よし、食べてしまえ!」、女であるエバさんは、その木の実を食べ、男であるアダムさんにも渡して、アダムさんも食べたのです。

こうして、神さまが「食べると必ず死んでしまう」と語っておられた最初の約束が実行されます。アダムさんとエバさんが行った罪により、アダムさんもエバさんも、そして彼らから生まれる私たちもみんな、命があるものは、死ぬものとなったのです。約束を忘れ、興味本位、ふざけ半分で行われるものであっても、罪は皆、その結果は死なのです。サタンは、アダムさんとエバさんに対して、蛇によって誘惑して、神さまから離れさせて、罪を犯させたように、先生にも、そして皆さんに対しても、様々な形で、神さまから離れさせて、罪を犯させようとして誘惑を仕掛けてきます。「こ

れくらいならバレない」、「これくらいなら怒られない」……と言ってね。そして最初は小さなことしか行えなかったことが、段々と大きなことを行うことも平気になってくるのです。

皆さんは、アダムさんとエバさんの罪の故に生まれながらに死ぬものと定められているのだけでも、同時に、皆さん自身が行う嘘や罪の結果も死なのですね。嘘をついたり罪を犯すことは、小さなことに見えるかもしれませんが、神さまの前には大きなことであることを忘れてはなりません。嘘や罪が誰にもバレなかったとしても、神さまはご存じであり、隠すことは出来ません。

今日は、罪を行うことによって死ぬことを覚えたのですが、それだけではないことを、最後にお話します。イエスさまです。イエスさまは人となられ、十字架に死を遂げてくださいました。このイエスさまの死こそが、アダムやエバの犯した罪の刑罰であり、私たちの行った嘘や罪の刑罰です。だからこそ、イエスさまを信じると、もう罪の刑罰は支払われたのだから、イエスさまが復活して天国に行かれたように、イエスさまを信じる私たちも一度は死ぬけれども、イエスさまが再び来られた時、復活の体が与えられ、天国に生きることが出来るのです。

こうして、罪の誘惑に注意し、イエスさまによって救われていることに感謝して、イエスさまに従う歩みすることが、私たちに求められているのです。(辻 幸宏)

---

[今週の暗唱聖句] 創世記 2章16,17節

「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

---



**〈ねらい〉**

人はどのようにして罪を犯したのかを学ぶ。神様の命令に従わないことによって、また、へびにまどわされて罪を犯したことを知る。

**〈展開例〉****1. 見て答えて理解しよう**

今日のお話ののっている絵本や紙芝居などを見せながら、子どもたちが目で理解できるように話してあげましょう。(下線の部分を答えさせるようにして)

★神様は一つだけ、○○してはいけないと言われました。それはどんな命令だったかな？

善悪の知識の木の实から取って \_\_\_\_\_  
はならない。

★それを食べるとどうなると神様はおっしゃいましたか？

必ず \_\_\_\_\_ しまう。

★エバをだましたのは誰ですか？

★神様は、命令をやぶると「必ず死んでしまう」

とおっしゃったのに、へびは「決して \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_」と言ったんだよね。

★へびに言われてエバがその木を見ると、どんなふうに見えましたか？

とても \_\_\_\_\_ そうに見えた。

**2. 少しぐらいならいいの？**

神様が死ぬとおっしゃったのに、へびは決して死ぬことはないと言っていました。

「少しぐらいなら大丈夫」

「みんながやっているから大丈夫」

「誰も見ていないから大丈夫」と、悪いことをさせようとする声が聞こえてくるときがあります。

神様はどんなに小さな罪でも憎まれるお方です。誰も見ていなくても、神様はあなたを見ておられます。

**3. パクパクへびを作ろう**

(→次ページを参照)

このへびを使って、今日のお話を振り返りましょう。



## パクパクヘビを作るう

用意するもの：長めのソックス、白い厚紙、赤と白のフェルト、ハサミ、ボンド、マジック

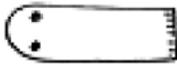
作り方：



1. ソックスの底の部分の大きさに合わせて厚紙を切り、二つ折りにする。



2. その厚紙をボンドでソックスの底にしっかり貼りつける。



3. 白のフェルトを丸く切り、真ん中をマジックで黒く塗って目を作る。それをくつ下にボンドで貼る。



4. 口をあけたところに赤のフェルトで作った舌を貼る。



5. ボンドが乾いたらパクパクヘビの完成。

## 〈ねらい〉

私たちには罪への誘惑がある。それも巧妙な誘惑がある。一番大切なことは神様の言葉を大切にすること。一番大切なことを大切にできなければ、すべてが大切にできなくなる。以上を教える。

## 〈展開例〉

## 1. 人間の罪

創世記3章1～7節を読みましょう。……先週、神のかたちについてお話を聞きました。分級でも、神のかたちは「造ってくださった神様の言うことを聞き、神様に従うこと」だと教えてもらいましたね。そして、実は私たちの神のかたちは、ちゃんとあるんだけど故障しています（歪んでいます）。それは、罪があるからです。

アダムとエバの罪を教えてください。……それでは、みなさんには罪はありますか。みなさんの罪を教えてください……（出された答えを、神様に従わないこと、神様から離れること、そういう答えへ集約する。なお、最初の約束を、いのちの契約、または業の契約だと教えておく）。

みんながアダムとエバだったとします。みんなだったら木の実を食べますか……？ それはどうしてですか？ じゃあ、アダムとエバの罪をもうちょっと勉強しましょう。

みんなは普段何をして遊んでいますか。欲しい物がありますか。……いろいろあると思います。では、今から言うことを聞いてください。そして、みんなの気持ちを教えてください。

## 2. 悪魔の誘惑の言葉を知り、打ち勝とう！～大人も、子どもも～

「○○ちゃん、今だけでいいから少しだけ、神様じゃなくて、私の言うことをちょっとだけ聞いてくれるかな。そしたら君に強い力や、お金や欲しい物もただあげよう。君は、特別にすごい人になるんだ。君さえもらってくれたら、他の友だちにも同じようにしてあげるよ。君にかかっているんだよ。きっと、欲しい物の取り合いでけんかがなくなる。欲しい物を買ってもらえなくて泣いて

いた子も喜ぶし、買ってもらえなくてみんなからいじめられていた子もういじめられなくなる。君が強い力をもらったなら、みんなのために使って喜ばせてあげればいい。お金をもらえれば親は苦労しなくて済むと思うよ。君のために毎日働いて大変なんだから。いいかい？ みんなのことを考えてね。きっとみんな喜ぶよ。だから、みんなのために私の言うことを聞いてね。みんなから、○○ちゃんすごいね！、ありがとう！ って言ってもらえると思うよ。もし、私の言うことを聞いてくれなかったら、○○ちゃんって損なことしてバカだなあ、とか、みんなのこと考えてなくてひどいっ、と言われるかも知れないよ。だから、私の言うことをちょっとだけ聞いてね。みんなが喜ぶかどうかは、君にかかっているんだよ。」

さて、分級に集まっている皆さん（先生たちも）、どんな気持ちになりましたか。……みんなのためにするのなら、良いことのように聞こえてわかんなくなっちゃうよね。大切なことをたくさん言われているけども、一番大切なことを大切にできなかったら、実は、ここで言われていた良いこと全てがダメになります。根っこがダメだと、全部だめになります。この根っこが一番大切なところをダメにするのが悪魔の誘惑です。誘惑に負けると、神様抜きで自分で判断してしまうんですね。一番大切なことは何ですか。……神様の言葉に従うことです。この根っこが大丈夫なら神様は全能だから全てを良くしてくださいます。

人間の罪は、悪魔の誘惑に乗ってしまうことでした。罪を犯した結果、人は死ぬようになったんです。死は罪の結果です。誘惑に勝たなければいけません。ただ一人に誘惑にすべて勝ったお方がイエス様です。だから、イエス様にたよって神様の言葉に従って行きましょう。

## 〈お祈り〉

悪魔の誘惑に勝って罪を犯さないようにしてください。そのために、神様の言葉を一番大切にさせてください。

## 〈ねらい〉

神さまのご命令に従わなかった人の罪について知り、その罪からわたしたちを救ってくださる神さまを讃美することができる。

## 〈展開例〉

(1) 暗唱聖句の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「善悪」って、何？→善と悪。よしあし。ヘブライ語で両極端の言葉を並べることで「万事」を意味した（9月9日の黙想より）。

「ただし」って何？→上に述べたことについて条件や例外を付け足すときに使う。この前には「園のすべての木から取って食べなさい」とある。「すべて食べてもいいが、これだけはダメ」に注目。

「必ず」って何？→一つの例外もなく、ある物事が起こるさま。「例外」という言葉の意味が分かっている子どもたちなら、「但し＝例外あり」、

「必ず＝例外なし」を対比させても面白い。

(3) やってみよう。

神さまの言葉、蛇の言葉、女の言葉、蛇の言葉を書き出して、どこが少しずつ違うのかを調べてみよう。「善悪を知る」＝「賢くなる」と女が感じたことも重要。

神さまのご命令、違反させようとする誘惑者、神さまのご命令より自分の判断を優先させた女、そして女の言葉に従った男の罪について、子どもたちが自分で読み取れるとよい。「必ず死ぬ」に丸をつけ、罪の結果「必ず死ぬ」ものとなった人を、イエスさまが十字架にかかって救ってくださったことを伝える。

(4) 歌おう。

「みやこのそとのとおいみち」（インマヌエル教会学校さんびか50番）

あんしやうせい く

暗唱聖句（創世記2章17節）

月 日 名前

ただし、<sup>ぜんあく</sup>善悪の<sup>ちしき</sup>知識の  からは、

<sup>けつ</sup>決して  べてはならない。

べると  ず  んでしまう。

木 食 必 死

(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

「契約」って分かりますか。最近ではダルビッシュ投手がレンジャーズと6年契約！なんて時に耳にしましたね。誰かと誰かが約束し合っ、お互いに約束を誠実に守ることを願って、契約は結ばれます。結婚というのが、一番分かりやすいでしょうか。結婚は契約です。「私はあなただけを一生かけて愛します。あなたも私を愛してください」とお互いに誓い合い、赤の他人の二人がいっしょに暮らし始めるのです。神様は、それと同じように、私たち人間とのあいだに、信頼と愛を契約合うことを望まれました。「わたしはあなたがたを永遠に大切にします。喜びに満ちた命を絶対に約束する。だからあなたがたもわたしを愛しなさい。わたしを信頼して、わたしの言葉に従いなさい」と、人間の代表であるアダムとエバとのあいだに、契約を結んでくださったのです。

神様の約束は真剣でした。神様が真剣である以上、人間もまた、感謝をもって全力で応答する責任がありました。そのために要求されたのはたった一つ。善悪の知識の木の実を食べない、ということだけでした。しかし人間は、誘惑に勝てず、契約を自分のほうから破りました。それが罪です。そして罪の報酬は「死」です。それは約束された「命」の反対です。肉体が死ぬだけではありません。神様とのラブラブな新婚生活が終わってしまって、もう戻れないのです。そして、最後は永遠の滅びに行き着く、暗い人生です。イエス様に助けてもらわない限り……。

ではどうして、人間は契約を破ってしまったのでしょうか。破るようにそそのかしたのは蛇ですね。「死ぬことはないよ」「賢くなったほうがずっと幸せだよ」という蛇の言葉です。でも、蛇のせいにはできません。蛇はちょこっと誘惑しただけです。力づくで無理やり破らせたわけではない。一番の問題は、そういう蛇の誘いを言い訳にして、自分の中にわきおこった欲求や、神様への疑いを正当化してしまった人間のずるさです。「蛇の言う通りだ。神様の命令にしたがってはいは、本当の幸せを手に入れることはできないのではないか？ 命令を破ってこの木の実を食べれば、もっとすばらしい未来があるのではないか？」なんて、自分勝手な妄想が始まる。

そして最終的には、神様の約束を信じないで、神様の言葉より自分の考えを優先させて、「きっとこの実を食べてみたら、すばらしいことが起こるはず！」と、勝手な行動に走って自滅したわけです。

学校とかでも、この蛇みたいに、「神様の言葉なんて真に受けないほうがいいんじゃない。礼拝より楽しいこといっぱいあるじゃん。」と、ちょこっと誘惑してくる人はいっぱいいますね。そういう声に心乱されて、神様との契約を第一にすることがとても難しく思える時はあるかもしれない。「本当に神様の教えに生きることが幸いなのだろうか？ 聖書に縛られないで、自分の考えで生きるほうが、よりよい未来が開かれるのではないだろうか？」人間はだれも、そうやって神を疑い、神から離れていくのです。

でもその結果はどうなるのか？よく考えてみてください。



テキスト 創世記 3章8～24節  
子どもカテキズム 問17

問17 罪とは何ですか。

答 神さまの御言葉を破って、それに背くことです。

一つでもかなわないならば、私たちは神さまの御前に罪人です。

前回、最初の人間が罪を犯したことを学びました。神さまは、アダムを最初の人間、人類の先祖として造られました。全人類の代表としても造られました。ですから、アダムの罪は、全人類の罪でもあります。「このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです」(ローマ5:12)。

今回の問17は、罪についての定義です。

「罪」は、普通、国語辞書には、「人間がしてはならない行い」(岩波国語辞典)とあります。ですから、そういう行いをしていない限り、普通、自分は罪人なんかではないと、人は思っています。そういうわけで、教会は自分のことを罪人扱いするから嫌いだと、罪の問題は人々の多くが教会につまずく一つの原因になっています。それで、伝道の不振が叫ばれる昨今、世の人々に人気のない教理である、この罪の問題を語らなくなってしまった他派の教会もあると聞きます。しかし、私たち改革派教会は、主イエスさまの教会を造り上げて行くために、絶対に語らねばならない、とても大事な聖書の教理の一つと、昔も今も確信しています。この罪の問題を語らねば、イエスさまが、結局、何からの救い主かが分からなくなってしまい、人間が抱える表面的な問題からの救い主でしかなくなってしまうからです。私たちも、天使と共に告白しましょう。「この子(＝イエス)は自分の民を罪から救うからである」(マタイ1:21)。

ところで、罪とは何かは、創世記第3章4節以下に書き留められている、蛇＝悪魔の誘惑の言葉に示されました。「蛇は女に言った。『決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じな

だ』」(3:4,5)。しかし、実際のところ、人間は罪を犯して、決して、神さまのようになることができただけではありません。神さまが決して食べるなど命じられた善悪を知る木の実は、食べるとスーパーマンのようになれる木の実ではありませんでした。恐らく、他の木の実と変わらなかったことでしょう。しかし、神さまがエデンの園の中央に生えさせて、食べるな!と禁じられたからこそ、特別な木の実でした。そういう木の実を取って食べてしまったことで、人間は、善悪へブライ語では両極端の言葉を並べることで「万事」を意味させた一を知る事の出来る者になれたと誤解してしまったのです。自分自身を大きく勘違いして、自分の判断こそ絶対で、自分の判断で万事うまく行くと思いついてしまったのです。人間にとって、人生の絶対的な規準である、神さまの御言葉は、どうでもよいものとなってしまいました。

罪とは、神さまの御言葉を不必要と見なすことです。つまりは、神さまを不必要と見なすことです。そして、自分勝手に生きることです。そうしますと、罪とは、単に「人間がしてはならない行い」ではありません。まず何よりも、神さまとの関係で「人間がしてはならない行い」です。もちろん、行いだけではありません。神さまとの関係で人間が発してはならない言葉、さらに神さまとの関係で人間が抱いてはならない思いです。こういう人間のことを「神さまの御前に罪人」と呼んでいます。思いと言葉と行いの全てが、つまり、人間の全存在が、最初の人間と共に、罪の状態へと落ち込んで(墮落して)しまっているのです。

人間をこの罪への墮落の状態から救い出すことの出来る御方は、神さまの独り子イエスさましかいらっしゃいません。(長谷川潤)

テキスト 創世記 3章8～24節

子どもカテキズム 問17

参考教理問答 ウェストミンスター信仰告白6:2、ウェストミンスター小教理問17～19

### 〔単元のねらい〕

聖書の教理は、救いの道筋を歩んで行く上で、とても大事だが、極めて具体的なことしか分からない幼児に教理を説くことはとても難しい。従って、聖書の教えを幼稚園児に説いている試行錯誤の経験から、幼児には、教理を大胆にイラスト化することも必要であろう。しかも、たくさんのお話を教えないで、短い時間で、ワンポイントを説く姿勢が必要であろう。お話だけでなく、イエスさまと罪虫との戦いを演じてみるのも良いだろう。そういうわけで、今回は、幼児向けの説教展開例と、小学校高学年向けの説教展開例を記してみた。

## 罪ってなあに？

### 〈幼児への説教展開例〉

こどもの教会（日曜学校）の愛するお友だち、おはようございます。

みんなは、天の神さまのこと、大好きでしょう？

天の神さまは、暑い暑い夏の間も、いろんなお恵みくださいましたね。また、これから、だんだんと秋になって行くと、お米やお野菜や果物、たくさんのおいしい食べ物くださいます。それなら、いつも、神さまにありがとうの気持ちでいっぱいだよ。

だけど、先生もそうなんだけれども、いつも、神さまへのありがとうの気持ちでいっぱいではないよね。ありがとうの気持ちでいっぱいならば、もっとあれほしい、もっとこれほしいという気持ちは起こりません。でも、どうしたわけか、ありがとうの気持ちがなくなって、もっとハンバーガー食べたいとか、もっとジュース飲みたいとか、そういう気持ちになっちゃいます。また、おもちゃ、たくさん持っているのに、誰々君が持っている、仮面ライダー・フォーゼのなりきりグッズほしい！とか、ついお父さん、お母さんにわがまま言ってしまいます。これって、どうしてなんでしょう？

実は、先生の中からだの中にもなんだけれども、私たち、ぼくたちのからだの中には、たくさん

「罪」虫が住んでいる（「罪」を虫のようにイラスト化すると良い）からなの。この罪虫は、神さまが大嫌い！そして、神さまが悲しまれる、悪いことが大好きなの。それで、罪虫があばれるから、神さまへのありがとうの気持ちがなくなってしまふの。そんな時、どうしたらいいのかな？

みんなは、天の神さまのこと、大好きだよ。そして、神さまの独り子イエスさまも大好きでしょう。みんな、イエスさまのこと、大好きならば、実は、イエスさまが、みんなのからだの中にもいてくださって、何と罪虫と戦ってくださるの。そして、罪虫を一匹一匹、退治してくださるの。だから、神さまが悲しまれるようなことをしてしまった時、大事なことは、神さまが悲しまれる悪いこととして、ごめんなさいってあやまって、イエスさま、罪虫を退治してください！ってお願いすること。そうしたら、また、神さまの御言葉に喜んで従う子どもにしてくださいよ。

今日からの一週間も、お家で、幼稚園で、イエスさまに助けてもらいましょう。

### 〈小学校高学年への説教展開例〉

こどもの教会（日曜学校）の愛するお友だち、おはようございます。

一番初めの人アダムさんは、蛇にだまされて、

善悪を知る木の実を取って食べてしまいました。このように神さまの御命令、「神さまの御言葉を破って、それに背くこと」を「罪」と言います。ところで、アダムさんは、全ての人の先祖けれども、人類の代表者でもありました。会社の社長さんが、何か悪いことしたら、それは、会社全体の責任になるように、アダムさんは、人類という会社の社長さんのようなものだから、アダムさんが犯した罪の責任は、私たち、ぼくたちにもあります。ですから、私たち、ぼくたちは、みんな、神さまに向かって罪を犯しています。

さあ、その「罪」は、「神さまの御言葉を破って、それに背くこと」ですが、ちょっと漢字遊びをして、罪についてお話ししましょう。もう、みんなは、「罪」という漢字、習ったと思いますが、「罪」という漢字を分解すると、「四」と「非」という漢字になりますね。ちょっと難しい表現かも知れませんが、「四に非ず」と読みましょう。それで、神さまの御言葉、神さまの御命令の「十戒」の四番目の御命令を思い出してください。『安息日を心に留め、これを聖別せよ』だね。私たち、ぼくたちにとっての「安息日」は、今日の日曜日。イエスさまが復活なさった日曜日です。そして、この日曜日には、こどもの教会（日曜学校）で神さまを礼拝することを神さまは四番目の御命令で、私たち、ぼくたちに求めておられます。ところが、学校のお友だちからこんなこと言われて誘われたことないかな。「おい、〇〇君、今度の日曜日の午前中、仮面ライダー・フォーゼの映画、見に行かないか？ お父さんが連れてってくれるって」。そんな時、「フォーゼの映画だって！ 見に行きたい、見に行きたい!!」と思うことでしょう。そして、こんな声が心の中に聞こえて来ませんか。「こどもの教会の礼拝なんか、どうせ、毎週日曜日にやっているんだから、一回ぐらいさぼったって、大丈夫さ！ 神さま、何とも思われないう！」。

そんな言葉に乗かって、神さまの四番目の御命令なんかどうでも良い！ と見なして、背いてしまうことが、罪なんです。

ちょっと今、漢字遊びをして、罪についてお話ししましたが、礼拝を実際にさぼることだけが罪ではありません。心の中に聞こえて来る声、それは、結局、自分の心から出て来る自分の声なのですが、そのような言葉も、そして、何よりも、礼拝なんか、さぼっても大丈夫！ と思うことさえも、罪なのです。今は、「十戒」の四番目の御命令でお話ししましたが、イエスさまは、「十戒」の六番目の御命令、『殺してはならない』で、このようにおっしゃいました。「あなたがたも聞いているとおおり、昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる」（マタイ5:21,22）。誰かに腹を立てない、怒らない人なんていやしません。これは、誰にも分からない、心の中のことですが、しかし、神さまは、人への怒りなどをひそかな殺人と見なされるのです。そうすると、心の中の罪はきりがありませんね。そんなところから、全ての人、神さまに対して罪を犯しているのです。「神さまの御前に罪人」なのです。

このように罪を犯してしまう私たち、ぼくたちを救ってくださる御方は、イエスさましかいらっしゃいません。

罪を犯してしまう私たち、ぼくたちのために、神さまが罪からの救い主イエスさまをお与えくださいました。

罪からの救いはイエスさまのおかげ。イエスさまへの感謝の気持ちから、今週も、神さまの御命令に従って生活しましょう。みんなの上に祝福が豊かにありますように。（長谷川潤）

---

【今週の暗唱聖句】 ヨハネの手紙一 3章4節

罪を犯す者は皆、法にも背くのです。罪とは、法に背くことです。

---



**〈ねらい〉**

罪とは、神様から離れて自分勝手に生きることだということを教えたい。

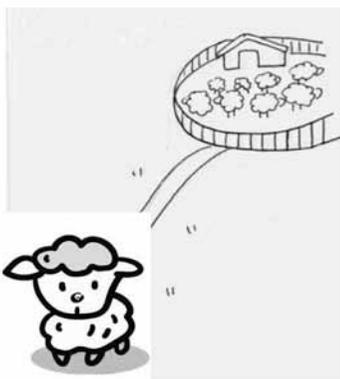
**〈展開例〉****1. 罪ってなあに？**

神様がアダムとエバに「これだけはしてはいけません」とおっしゃったのは、どんなことでしたか？

そのいいつけを二人は守ることができましたか？

できませんでしたね。

神様のいいつけを守らなかったということは、「神様に従うのはいやだ」と言って神様と反対の方を向いて生きようになってしまうということです。このように神様に従わないことを「罪」といいます。

**2. 神様のもとを離れた私たち**

ここに1匹の子羊がいます。名前はメイちゃんです。メイちゃんはある日思いました。「もう羊飼いさんの言うことを聞いているのはいやになった。今日からは自分の好きなように生きるんだ」そう言って、羊飼いさんのところから逃げ出してしまいました。

メイちゃんはずっと遠くまで歩いていきました。だんだんおなかがすいてきました。今までは羊飼いさんがおいしい草をいつでも用意してくれ

ていたのに、食べるものがありません。どこに行ったらきれいな水があるのかもわかりません。だんだん暗くなって夜になりました。ウォーというオオカミの声が聞こえます。メイちゃんは恐くて恐くてたまりません。そのうえ、雨も降ってきました。羊飼いさんのいる暖かいお家なら雨が降っても安心なのに、ずぶぬれで寒くてたまりません。

神様から離れてしまった私たちも、このメイちゃんと同じです。神様の言葉に従わずに自分の好きなように生きる道を選んできましたからです。メイちゃんは何が間違っていたのでしょうか。羊飼いさんのところを離れてしまったことですね。

神様から離れてしまったのはアダムとエバだけではありません。このときから人は皆、神様から離れて、自分の好きなように生きようになりました。とても悲しいことですね。メイちゃんはもう道がわからなくなって、一人で帰ることができなくなってしまいました。

(この後、メイちゃんがどうなったかを想像してみんなで話し合ってみましょう)

神様から離れた私たちは、一人で神様のところに帰ることができなくなってしまいました。そんな私たちを助けるために神様は、イエス様を私たちのところにおくってくださいました。イエス様は迷子になった私たちを神様のところに連れていってくださるお方です。

**3. 羊のはり絵をしよう**

(→64ページを参照)

別紙の羊の絵の顔や角、足に色をぬり、羊の体の部分に両面テープを貼る。

体の部分に毛糸や羊毛フェルト、綿などを貼りましょう。

**4. 羊探しゲーム**

小さな羊のマスコットやグッズを部屋のどこかに隠しておく。みんな羊飼いになって呼びながら探す。

**〈ねらい〉**

神様の言葉（命令）が何かを具体的に確認し、守れないことが恐ろしいことであることを教える。

**〈展開例〉**

## 1. 子どもカテキズム問17を読みましょう。

……守るべき神様の言葉を確認する。

神様の御言葉にはどんなものがあるでしょうか。神様が、私たちにしなさいという命令や、してはならないという命令はたくさんあります。みんなが大切にしている神様の命令は何かありますか。では、あまり大切にしていなくても、知っている神様の命令はありますか。

（大きい紙に、子どもの意見毎に欄をわけ、さらに一つの欄を二にわけて、子どもごとに大切にしている神様の命令、あまり大切にしていなくても知っている神様の命令にまとめて書き留めておく。意見がでにくい場合は、十戒は、主の祈りを例にあげる。あるいは聖書の登場人物を挙げて、意見の吸い上げを助ける。例、ダビデ、ペトロ、カイン、エサウ、ファラオ、荒れ野のイスラエルの民、ゴリアト、サウルなどなど）

## 2. 子どもの霊的な環境を理解する。

（紙を見ながら）

いろいろと挙げてくれてありがとう。よく分らなかった人も大丈夫ですよ。

（教師は、子どもが挙げてくれた神様の命令から、その子が学校や家でどんな神の言葉を大切にしているのかを推察する。教師は子どもの心がけをほめ、またその忍耐に共感することばをきちんと伝えること。そうすれば、それを見た他の子どもも自分のことを話したくなるでしょう。）

さて、罪というのは何か、カテキズムから応えてください。「神様の御言葉を破って、背くことです。」そして「一つでも」かなわなかったら罪です。紙に書いたものを一つでも破った人この

ある人はいますか。どんな気持ちか、教えてください。……そんな時は神様は恐いですか、あんまり考えたことはないですか。

では、学校の先生は恐いですか。どんな時に恐いか教えてください。どんなときに怒られますか。……今まで一番恐かった時は……？ いろいろあると思うけど、とにかく先生の言葉を守らなかった時ですね。

学校の先生は、人間です。でも、人間よりも力があって無限のお方は、神様です。神様の言葉を守らなかったらどうなるでしょう。聖書には、「罪を犯すと死にます（「罪が支払う報酬は死」ローマ6:23）」とあります。コラーって怒られるだけならまだいいよね。罪を犯し続けるなら、死はどんどん迫って来ます。心の中もどんどん死んだような心になります。バタッと倒れて死んだ人もいます。今日生きていても明日生命をとられるかもしれません。神様はそれができるお方です。

では、みんなに聞きます。恐いのは、先生の言うことを守らないことですか？ それとも神様の言葉を一つでも破ってしまうことですか？（よく分からない子どもがいれば、教師は、分からない気持ちに共感するだけ十分です。）

実は、もう私たちは罪を犯してしまっています。さあ、どうしましょう。この罪は、イエス様が代わりに背負ってくれたんだと信じる時に、はじめて赦されます。イエス様はそれくらいすごいことをしてくれました。死ななきゃ行けない僕らの代わりに、先に死んでくださいました。イエス様は、罪は犯さないように、と言っておられます。私たちは、小さな罪でも、それをしないで神様が喜ぶ生活をしましょう。

**〈お祈り〉**

神様に罪を犯すことが大変な大きなことだと知りました。どうか、罪を犯さないように助けてください。

## 〈ねらい〉

罪とは何かについて知り、罪からわたしたちを救ってくださる神さまを讃美することができる。

## 〈展開例〉

(1) 暗唱聖句（説教展開例のものを変更）の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「み子」って、誰？→イエスさま。

「除く」って、何？→取ってすてる。

「罪」って何？→神の律法で禁じられていること（×）をすること。神の律法で求められていること（○）をしないこと。

「神の律法」って何→簡単にまとめると十戒。

「あなたがた」って誰？→ヨハネの手紙を読んでいる人。わたしたちも。

(3) やってみよう。

「イエス様が罪を除くために現れた」ということについて、知っていることを話し合ってみよう。

イエス様のご誕生のこと、宣教のこと、奇跡や癒やしのこと、たとえ話のこと、ご受難と十字架のこと、復活と昇天のこと、等々、子どもが知っていることを全部聞く。そして、イエスさまは全ご生涯において、神さまの律法を完全に満足させられたことを伝える。

イエス様は、律法で禁じられていることは全くなさらず、律法で求められていることはすべてなされた。そのイエス様がわたしの罪のために十字架について神様からの罰を受けてくださった。そのため、わたしの罪は取り除かれた。

(4) 歌おう。

「飼い主我が主よ」（こどもさんびか34 讃美歌354 日本基督教団出版局）

あんしやうせい く

暗唱聖句（1ヨハネ4章5節）

月 日 名前

あなたがたも  っているように、

み  は  を除くために  れました。

知 子 罪 現

罪 = 律法で { 禁じられていることをすること  
求められていることをしないこと

(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

罪とは、「神さまの御言葉を破って、それに背くことです。一つでもかなわないならば、私たちは神さまの御前に罪人です」と言うことができます。

「神さまの御言葉」とは何でしょうか。狭く考えると、神さまの「戒め」ですね。戒めというと、十戒が有名です。その十戒をさらに二つにまとめるとどうなりますか？「神を愛しなさい。隣人を自分のように愛しなさい」です。

もう少し広く考えると、それは神さまの「ご意志」の全体です。どうも戒めというと、これをしちゃいけない、あれをしなさいという厳しいルールの印象が強いけど、それは全部、私たちのために最善の導きを与えようとしてくださる神さまの思いがこもった言葉です。

あなたが間違った道に転げ落ちてしまわないように、そして世界が歪みきってしまわずに、神の国の完成へと向かうように、神さまはフルパワーで働いてくださって、導いていてくださいます。神様は、その熱い思いを、さまざまな形で教えてくれます。時には「キリストを信じなさい。永遠の命を受けなさい」という福音への招きで。時には「殺すなかれ。姦淫するなかれ」といった戒めで。それはすべて、私たちを永遠の命まで無事に導こうとしてくださる、神さまの「ご意志・思い」のこもった「御言葉」です。

罪とは、その御言葉に聞かないで、それと反対の道を行こうとすることと言えます。「神の御意志への反逆」です。神のお考えよりも、自分の考

えを上にして、勝手に行動するのです。神に従うのではなく、自分の欲望に従う。神を神とせず、自分を神とする。この神への反逆を繰り返すのが私たちです。

例えるなら、山の中で、道しるべに従わないで勝手に歩いている人に似ています。昔私は、どうやら道しるべを間違っただけで読んでしまったみたいで、小さなハイキングコースの山なのに、遭難しそうになってしまったことがあります。歩いてても歩いててもどンドンおかしな所に入って行って、ついには崖のようなところを必死で降りたりして、今考えてもぞっとします。そんな風に、道しるべに従わないと、とっても痛い目を見るのです。「神さまの御言葉」こそ、命の道の道しるべです。

もう一つ、罪とはイエス様を基準に考えるとよく分かるかもしれない。「罪とは、イエス・キリストのようになることができず、あるいはイエス・キリストに反逆させること」という風にも覚えておいてください。

いつも、「イエス様ならこんな時どうするだろうか？」と考えてみてください。……そうすると、そのようにはできない自分に気づきます。イエス様のように生きられない、イエス様のように愛せない自分の決定的な弱さに気付くときに、私たちは自分の惨めさ、やりきれない悲しさにも気付きます。それはすなわち、自分の罪に気付くということです。

そうやって、自分の罪に気付く時に、はじめてイエス様の愛が分かります。そんな自分のために、十字架で死んでくださったということのありがたさが。



テキスト 創世記 4章1～16節  
子どもカテキズム 問18

問18 罪を犯した人間はどのようにになりましたか。

答 神さまとの交わりを失い、生きているあいだも、死んだあとも、  
神さまの怒りを受けなければならなくなりました。  
ですから、心が曲がって、自分中心になり、お友だちとけんかをしたり、  
うそをついたり、盗んだり、悪いことをしてしまうのです。

### 〈教理の確認〉

この問答は、罪ゆえの「悲惨の状態」について語っている。悲惨の状態とは、罪と墮落の結果として生じる惨めな状態、罪人である限り引き受けなければならない悲しく惨めな状態である。

たとえば、何か犯罪を犯して有罪と宣告されたなら、罪の責任を負って刑罰に服さねばならない。そのとき、刑罰にともない、投獄されて家族から引き離され、名誉や財産を失うなど、さまざまな不利益を甘受しなければならないだろう。悲惨とは、そのような、罪と墮落にともなって引き受けなければならない惨めな状態を指している。

すなわち、罪と墮落によって、私たち人間は神との交わりを失った。その結果、有罪と宣告され、神の怒りと呪いを受けなければならない（ウ小教理問19を参照）。そして、それにもなって悲惨の状態をも引き受けなければならないのである。

罪の悲惨とは、第一に、神との交わりを失ったゆえの、この世のあらゆる悲惨を指す。神との正しい関係に立つことができず、そのため、神を求めながらも、神ならぬものを神としたり、自分自身を神としてしまう。人間関係においても、隣人との関係を正しく保つことができず、人を憎んだり妬んだりしてしまう。私たちは人間関係の痛みによって苦しむのである。「お友だちとけんかをしたり、うそをついたり、盗んだり」、このような、現実のあらゆる悲惨が引き起こされるのである。第二に、悲惨の極致としての「死」を挙げなければならない。死は、人間にとって本来的なものではなく、罪の報いとして与えられたものである。そして、その「死」は、肉体の死だけではなく、「永

遠の滅び」を含み込む。こうして、悲惨とは、神の怒りと呪いのもとに置かれているゆえに引き受けなければならない、すべてである。

### 〈聖書黙想〉

創世記4章は、この罪ゆえの悲惨の状態を明確に言い表している。兄カインが弟アベルを殺してしまう、人類最初の殺人事件である。神との交わりの喪失は、人間関係に歪みと傷、苦しみをもたらす。それは、ついには人が人の命を奪うという悲惨な仕方であらわになる。

神は、アベルの献げ物に目を留められ、カインの献げ物には目を留められなかった。その理由について、信仰の熱心の違いによるという解釈もあるが、功績主義的な理解はすべきではないだろう。聖書は、その理由について触れていない。

ただ、明らかなことは、人間の罪は自分で善悪を判断しようとするところにある（アダムとエバの罪）ということである。カインは、その罪に陥り、自己を絶対化し、神の振る舞いを正しいこととして受け入れることができなかった。そして、神への反発が弟アベルへの妬みと憎しみ、そして殺人という形であらわになったのである。ここに神との交わりを喪失した人間の悲惨がある。

神は、このような罪人を憐れまれる。逃亡するカインに神はしるしをつけて、お守りになる。安住の地を失うことは裁きであり悲惨であるが、追放のしるしは追放のしるしでありつつ、彼が神のものであることを示す聖なるしるしでもあった。神は、罪人をどこまでも追い求める、愛と憐れみの神であられる。（望月 信）

テキスト 創世記 4章1～16節  
子どもカテキズム 問18

### 〔単元のねらい〕

最初の人アダムとエバとに与えられた子どもたちの間に起こった悲しい出来事は、その罪が子孫にももたらされること、そして、その罪ゆえの悲惨をあらわにするものである。人間は何と罪深く惨めなものなのだろうか。愕然とさせられる思いがする。この單元では、その悲惨に目を留めて、悲しむことが大切である。アダムとエバに対する神の憐れみにもかかわらず、罪は人の命を奪うに至るのである。そして、カインに対する神の守りは、人類に射し込む一筋の光である。最後に、キリストの十字架による罪の赦しの恵みに触れて、神の愛と憐れみを確認しておきたい。

## 何と悲しく惨めなことだろう

神さまが最初に造られた人、アダムとエバは、神さまの前に罪を犯し、エデンの園を追い出されました。しかし、そのように二人を追い出すことをなさっても、神さまは憐れみ深いお方です。神さまは、アダムとエバに住む場所を与え、耕す土地を与えて、なお生きることができるようにしてくださいました。けれども、人間は何と罪深いのでしょうか。再出発をしたアダムとエバの家族に、たいへんな事件が起きてしまったのです。

エデンの園から追い出されて、アダムとエバは土を耕して生きるものとなりました。二人は、おそらく、神さまの前に罪を悔いて、新しい人生を生きていこうと張り切っていたでしょう。神さまは、そんな二人を憐れみ、祝福して、二人の男の子を与えてくださいました。お兄さんがカイン、弟がアベルです。アダムとエバは喜んだでしょう。そして、カインとアベルの兄弟は仲良く成長していたのではないのでしょうか。二人は大きくなり、やがて働くようになりました。お兄さんのカインは土を耕す人、農業をする人になりました。弟のアベルは羊を飼う人、羊飼いになりました。

あるとき、二人は、それぞれの仕事で与えられた収穫物を神さまにささげて、礼拝しました。カインは、土の実り、麦や野菜、果物などを神さまにささげました。アベルは、羊の群れの中から、

最初に生まれた、よく太った羊をささげました。すると、神さまは、アベルの献げ物に目を留めて喜ばれましたが、カインの献げ物には目を留めず、喜ばれませんでした。

いったいどういうことだろう、なぜだろうか、と思うでしょう。神さまがなぜそのようなことなのかは、分かりません。聖書には理由が書いてありません。また、わたしたち人間が神さまの御心を知り尽くすことはできないことなのです。

しかし、おそらくこうではないか、ということがあります。「アベル」という名前には、「息」「はかなさ」という意味があります。そのため、息のように頼りなく、はかなく、弱い人だったのではないか。アベルはカインに比べて弱い人だったと思われるのです。そのことを思えば、神さまがとくにアベルの献げ物に目を留めたことは、分かるような気がします。神さまはいつも、貧しい人、さげすまれている人、弱く小さな人の味方だからです。このときも、弱く小さいアベルを憐れまれたのではないかと思われるのです。

もしそうであれば、弟アベルの献げ物が神さまに喜ばれたことを、お兄さんであるカインも一緒になって喜ぶ。そういうことであってほしかったと思います。けれども、むしろカインはアベルを妬むようになりました。ひょっとすると、カインはすでにアベルを妬み、憎んでいて、この出来事

は、それが表にあらわれるきっかけになっただけなのかもしれません。

このとき、カインは、激しく怒って顔を伏せました。顔を上げて神さまを仰ごうとはしませんでした。これは、神さまに背く心のあらわれです。神さまよりも自分のほうが正しいと思ったのです。神さまは間違っていると思ったのです。

そのような思いが湧き起こったとき、人は怒りを静めて、神さまのほうに向き直らなければなりません。神さまも、このとき、カインが怒りのあまり罪を犯すことがないように、カインにおっしゃいました。「あなたは、もう一度、顔を上げて、わたしを見なさい」。「罪があなたを支配しようと、戸口で待ち伏せている。だから、一刻も早く、罪から離れなさい」。

けれども、カインは、神さまの御声に耳を傾けませんでした。神さまに対する不平不満をアベルに向けて、カインはアベルを妬みました。そして、憎しみのあまり、アベルを野原に誘い出して、ついには殺してしまいました。こうして、聖書は、人類最初の殺人事件を書き留めています。

子どもカテキズムの間18、罪の悲惨ということを学んでいます。罪を犯したために、人間がどんなに惨めなことになっているのか。あらためて、答えをお読みします。「神さまとの交わりを失い、生きているあいだも、死んだあとも、神さまの怒りを受けなければならなくなりました。ですから、心が曲がって、自分中心になり、お友だちとけんかをしたり、うそをついたり、盗んだり、悪いことをしてしまうのです」。

カインがアベルを殺してしまった、殺人というとても大きな罪のお話を聞きました。これも人間の罪のために起きてしまったことです。「神さまとの交わりを失い」とありました。カインは、神さまの前にへりくだって、神さまが正しいお方であると考えのではなく、神さまよりも自分が正しいと考えました。そうして神さまとの交わりを失い、罪に心を奪われてしまいました。大切な弟

を妬んで殺してしまふ。神さまとの交わりを失うと、人間は罪に心を支配されて、人を殺すような、それほど大きな罪を犯してしまうのです。

このカインの罪は、前回学んだ、アダムとエバの罪と同じです。アダムとエバも、善いことと悪いことを自分で判断したい、そうして神さまのようになりたいという誘惑に心を奪われたのです。神さまの前にへりくだること、神さまに造られたものであることを忘れてしまったのです。

神さまとの交わりを失うことが、わたしたち人間のあらゆる悲惨の源であること。そのことをはっきりと心に刻みましょう。罪のゆえに、わたしたちの地上の人生には多くの悲しみがあり、痛みがあり、苦しみがあります。そして、罪の報いとして、ついには死ななければなりません。人間とは、何と悲しく惨めなことでしょう。

しかし、神さまは憐れみ深いお方です。大きな罪を犯したカインは、追放されて、一人、荒れ野をさすらうことになりました。カインは、「自分を見つけた人は、だれでも、この罪のために、自分を殺すでしょう」と言って、恐れしました。そのカインに、神さまは、一つのしるしをつけて、カインの命が奪われることのないようにしてくださいました。神さまは、罪を犯したカインさえ憐れみ、お守りになるお方です。

わたしたちは皆、生まれながらに罪人です。人を妬み、憎んで、罪を犯してしまうのです。ですから、カインが守られたことは、わたしたちにとってもただひとつの希望にほかなりません。神さまは、カインを憐れまれたように、わたしたちを憐れんで、十字架のイエスさまを与えてくださいました。このイエスさまによって、わたしたちは守られています。わたしたち自身は、罪を背負うことはできません。けれども、イエスさまがすべての罪を背負って十字架につけられてくださいました。このイエスさまに結ばれること。そこに、わたしたちの罪の赦しと本当の命があるのです。

(望月 信)

---

[今週の暗唱聖句]

ローマの信徒への手紙 7章24節

わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。

死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか。

---

**〈ねらい〉**

アベルとカインの物語から、人間のうちにある罪の暗さについて考える。

**〈展開例〉****1. カインはどんな顔をしたのかな**

神様はアベルのささげものを喜ばれましたが、カインのささげものは喜ばれませんでした。

すると、カインは激しく怒って顔を伏せました。そのときカインは、どんな気持ちだったのかな？

先生がそのときのカインの顔を想像してやってみるので、みんなは、カインがどんな気持ちだったかを考えてみてください。（先生が怒って顔を伏せた様子を演じてみせる）

**2. カインはなぜ顔を伏せたのかな**

神様はカインに「どうして顔をふせるのか。もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか」とおっしゃいました。

カインは自分が正しくないとわかっていても、腹をたてていたので、顔を上げることができませんでした。神様の顔をまっすぐに見ることができませんでした。

私たちもお母さんや先生に怒られたとき、素直にごめんなさいと言えずに、怒って下を向いていたことがありますか？

**3. カインの心**

神様はカインの心が怒りでいっぱいになっているのを知っておられました。心の中の怒りをそのままにしておく、もっと大きな罪を犯してしまいます。神様はそのことを教えたかったのです。でもカインは怒りをおさえることができず、アベルを野原に連れ出して殺してしまいました。兄弟を殺すという、さらに恐ろしい罪を犯してしまったのです。

**4. ごめんなさいが言えない私たち**

カインは神様に素直にごめんなさいとすることができませんでした。神様から離れた人間は、自分のしたことを人のせいにしたり、いいわけをしたりして、神様に素直にごめんなさいとすることができなくなってしまいました。

心に悪い思いが起こってきたら、罪が大きくなる前に、すぐに神様のところに行って、ごめんなさいと謝りましょう。神様はゆるしてくださいませ。神様は私たちの罪をゆるしてくださいのために、イエス様を与えてくださったのです。

**5. カインの顔が変わる工作**

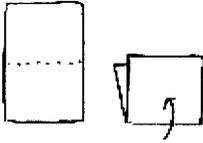
（→次ページを参照）



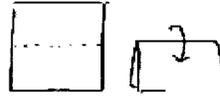
## カインの顔が変わる工作

用意するもの：画用紙（肌色、茶色、台紙の色）・ハサミ・マジックかクレヨン・のり

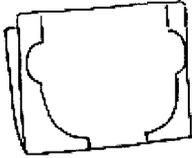
①肌色の画用紙を、折り目を下にして折る



⑤茶色の画用紙を、折り目を上にして折る



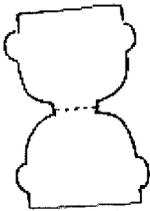
②顔のりんかくを描く



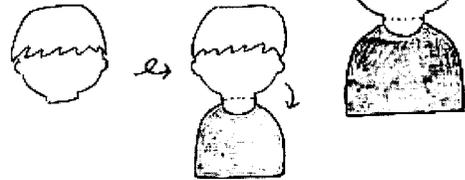
⑥顔にかぶせてちょうどよい大きさになるように髪の毛の形に切る



③合わせて切る



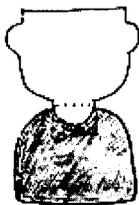
⑦髪の毛を開いて顔の部分のをりで貼る  
(のりのはみ出ないように気をつける)



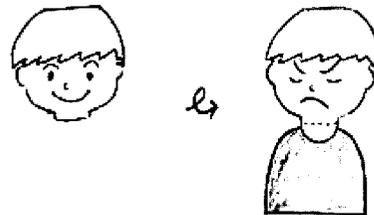
(首のところでつながっている)

閉じたとき 開いたとき

④下の方の耳の形の部分を切る。



⑧顔を書く



(洋服の色をぬる)

(出来上がったら顔の裏側だけにのりをつけて台紙に貼ってもよい)

## 〈ねらい〉

互いの罪の悲惨の中にあることを認め合う。そして、神さまが喜ばれることとしていけるように決意する。

## 〈展開例〉

(分級の中で話し合うことは、大きな紙に書きとめながら進めるとよい。)

今日のカテキズムを一緒に読みましょう。

今日は、アベルとカインの話でした。罪によって生まれた悲惨を挙げてみましょう。

(教師や子供が書き留める)

……殺人……それだけでしょうか？

……(神さまにささげものをちゃんとしなかったこと、アベルに嫉妬したこと、神さまに不満を持ったこと、怒りに燃えたことや静めなかったこと、さらに怒りをアベルにやつあたりしたこと、アベルを愛せず大切にできなかったこと、アベルの気持ちを分かってあげられなかったこと、)

イエス様は、神を愛し、人を愛するようにと言われたけども、カインはそれをしませんでした。

アベルがみんなのお友だちだとして。私たちは、楽しく先生や親に人よりもほめられたいと思いつつ、そして少しのことしかしてないのにたくさん上手にやったように見せたら、それが見つかって、恥ずかしくなって、腹がって人に悪い思いを抱いたことはないだろうか。もともと自分が悪いんだね。友だちはうまくやっているのに、自分の時だけみつかったかもしれない。でも神さまは喜ばないね。

カインのように、手を抜いて自分のことをしたら、見つかってしまい、友だちをうらやみ、悔しくてはらがたったり、お友だちの足をひっぱったり、冷たくしたりしたことはないかな。自分の兄

弟にはどうかな。今、してしまったことを思い出して語り合ってみましょう。

(先生も自分のことを話す準備をして、悔い改めとセットで語る。また、神さまが顔をあげられるはずではないか、と言われた言葉をもとに、再び同じ失敗をしないことを決意する。)

みんなはこれからもそういう生活をつづけたいですか？

罪とは、神様から離れていることです。罪があると神さまが何を思うか、とは考えないし、神様の言うことを大切にしない。もし罪がなく神さまと結ばれてるから、神様が思うことを大切にすれば、神さまの言うことを大切にすれば、神さまも喜んでくれるようにします。

カインは神様を大切にしないならどうするべきでしたでしょうか。みんなが神さまを大切にしているつも神さまと結びついているなら、さっき教えてくれた失敗はどうなっていたでしょう……。失敗したとしても、どうなっていたでしょう……。

(殺さなかった。アベルをほめた、アベルを見習った、神様に悔い改めた……。)

カインは、まずちゃんと心から神さまにささげものをしたし、神さまに受け入れられなくてもすぐに悔い改めたでしょうね。顔を神さまの方へ上げて、「ああ、自分が悪かった」と気づいたでしょうね。

神さまはいつも、神さまに顔を上げるチャンスを与えてくれます。だから、神さまに恥じることはない生活を送りましょう。

## 〈お祈り〉

どうか、神さまが喜ばれることをして、神様に恥ずかしくない生活ができますように。



〈ねらい〉

アダムの犯した罪は、その子カインにも全人類にも引き継がれたことを知り、その悲惨に目をとめて悲しむことができる。また、そこから十字架によって救われたことを感謝できる。

〈展開例〉

(1) 暗唱聖句（説教展開例のものを変更）の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「仕える→～のために働く。付き従う。

「奴隷」→主人の所有物として働く人。

「従順」→逆らわず、素直におとなしく。

「至る」→行き着く。

「義」って何？→神・人間がもつ属性としての正しさ。また、両者の関係としての正しさ。

「あなたがた」って誰？→ローマにいる信徒。この手紙を読んでいる人。わたしたちも。

(3) やってみよう。

「罪に付き従い、罪のために働く奴隷」「神に逆らわず素直に付き従い、神のために働く奴隷」と言いながら、「罪に仕える奴隷」「神に従順に仕える奴隷」のところに丸をつける。「行き着く先は、それぞれ死と義」と言いながら「死」と「義」に丸をつけ、矢印で結ぶ。

カインは、「罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならぬ」と言われたが、罪に支配され、アベルを殺してしまった。アダムの墮落によって、全人類は罪の奴隷となった。わたしたちは罪に支配され、行き着く先は死である。しかし、キリストの贖いによって神に仕える奴隷と変えられ、神の前に義とされる。

(4) 歌おう。

「Oh Happy Day」（プレイズワールド21「素直になって」11 いのちのこば社）

あんしやうせい く

暗唱聖句（ローマ6章16節）

月 日 名前

あなたがたは、罪に  える奴隷となって

に至るか、

に従順に  える奴隷となって

に至るか、どちらかなのです。

仕 死 神 義

(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

アダムとエバが罪人に墮落して、楽園から追放されて以後、人間はどんどんねじれて歪んでいきます。どんどん歪んでいくから、神様との関係がますます悪くなっていく。どんどん遠く離れていって、神様のことをだんだん忘れていってしまう。

そうやって、神様との関係が悪くなって、じゃあ人間同士は仲良くなったのかというと、そうはいかないのが悲しいところだね。人間というのは神様を愛せなくなると、隣人も愛せなくなるし、自分のこともちゃんと愛せなくなる。そういう風に造られている生き物です。相手のことが大切だと思えなくて……、相手の持っているものがねたましくて……、色んな理由で、人間同士も憎みあい、殺しあうようになっていきます。

みんなの学校とかにもありませんか、そんなドロドロの人間関係……。そういうドロ沼にはまっている私たちの状態を、罪の悲惨というのだと、今日は学びました。私たちは、そういう悲惨な存在だと。そして今日は、そんなドロ沼劇の一番最初に起こった、人類最初の兄弟げんかにして、人類最初の殺人事件を読んだわけです。

私は腰痛持ちだったので、整骨院に通っていた時があります。腰を治してほしいとお願いするのですが、ただ腰だけマッサージしてもらっても意味がありません。結局は背骨がぐにゃぐにゃに歪んでいて、体がまっすぐでないのです。だから腰も痛くなるのです。背骨が歪むと色んなところに

故障が出るのです。

私たちにとって、神様との関係が一番大事な背骨です。これが歪むから、色んなところに歪みが出てきて、痛みや悲しみが生み出されるということ、よく覚えてください。人間関係の破綻の問題。憎しみ合う世界。貧困、飢餓、差別に苦しむ人々。誰もが直面する死の問題、病の問題。どれも私たちが直面している悲惨な現実です。でも結局全部根本は、神関係の破綻に根ざすのです。

『神は死んだ』と豪語して自ら神との交わりを絶とうとした近代人の自立と自律の試みは、自己疎外という自己自身の喪失、隣人愛と他者の喪失と共に、環境破壊という環境の喪失と被造世界全体のうめきという現代の問題へと移行する過程の源泉である。創世記の第三章のアダムの自立と自律の要求による罪の墮落から、第四章以下の罪の悲惨へと移行する記述を彷彿とさせる。神との交わりの喪失は、この世のすべての悲惨の原因である。(春名純人『ウ小教理講義』より)

最も大きな悲惨は「神とのまじわりの喪失」です。アダムとエバの時以来、私たちはみんな、神のもとからはぐれてしまっている迷子なのです。迷子は悲しいものです。さみしいものです。私たちは誰も、「失われた者」の空しさを生きねばならない。

でも、その「失われた者」を探して救うために、来てくださった方がいます。勝手に迷子になった私たちを、声をからして探して下さっている方の声が開こえます。十字架の上から聞こえてきます。



テキスト                   ローマの信徒への手紙 5章12節  
 子どもカテキズム 問19  
 参照教理問答           ウェストミンスター小教理 問16, 19

問19 あなたは罪人ですか。

答 はい、私も神さまの御前に罪人です。

問20 あなたも神さまの怒りを受けなければなりませんか。

答 はい。私も神さまの怒りを受けなければなりません。

ウ小教理においては、問15で「最初の先祖たちを墮落させた罪」と問い、問16の「アダムの最初の違反で、全人類が墮落したのですか」に続いていく。アダムとエバにおいて、全人類が墮落したことが明らかになった。説教箇所であるローマの信徒への手紙5章12節(以下、ローマ5:12)は、この点についての引証聖句である。その墮落の悲惨さが、問17以降で展開される。

「子どもカテキズム」は、基本的にウ小教理の順序を踏まえているが、問19と問20はウ小教理にないもので、成人洗礼の誓約文を援用してつくられた新しい問いである。成人洗礼式の誓約の第二項に、「あなたは、自分が神のみ前に罪人であり、神の怒りに値し、神のあわれみによらなければ望みのないことを、認めますか」とある。成人洗礼を受ける者は、これに対して「ハイ」と答えねばならない。この罪認識なしに、キリスト者としての歩みは始まらない。ここでの怒りは、悪しき世に対する神の怒りではなく、わたしに対する神の怒りであり、洗礼へと導く神の怒りである。

洗礼の誓約文であることを知ると、この問答の特殊性がわかる。「人は」という主語を立てて、説明しても、一般論で終わる。人間の罪深さが分かることと、自分の罪深さが分かることは、別の事柄である。人間とは、所詮、罪深い存在であると嘆いている人が、他人事のように語っている場合がある。「あなたは」と問い、「私も」と答えることができるのか、それが肝要である。

ここでは、「神様の御前に罪人である」と応答しなければならない。成人洗礼式の告白の第一項は、神認識に関するものである。神がどのような

お方であるかが分かって初めて、そのようなお方の御前では、自分も罪人であると受け入れることができる。他人の前や、人との比較で分かる罪認識ではない。人は、本能的に自分より罪深い人と思える人を探し出し、その人と比較して、自分に罪があっても大したことはないと安心する。そのような人間同士の比較の場合から、神の御前に出なければならぬ。

まず覚えることは、私の罪は、神がお怒りになっても当然な、神の怒りを受けるべきものである、ということである。その上で、怒り給う神に思いを向けたい。私たちは、悪いことをする人を蔑視したり、無視したりすることがあっても、本当に怒るだろうか。「彼の行為は、私の怒りにさえ値しない」と達観することはないであろうか。私の罪が神の怒りを受けるとは、神が私の罪に本気で向き合っておられるということである。神は、見過ごすことができないという緊急性をもって、「私が怒らねば誰が怒るのか」という親密さをもって、怒り給う。神は、愛しておられるからこそ、激しく厳しくお怒りになる。私は、この神と正面から向き合っている。私は、この神の御前に罪人であり、神のこの怒りを真正面から受けている。

このような罪認識を抱く者は、罪の赦しを神に求め、神の憐れみによりすがらる者となる。この罪認識が、神の選びによりすがらせ、罪人の救い主としてのイエス・キリストの必要性を理解させ、自分の救い主として受け入れさせる。このようにして、問21以降へと進んでいく。

#### 〈教理解説と説教箇所等の関係についての考察〉

説教箇所のローマ5:12の (115ページに続く)

テキスト ローマの信徒への手紙 5章12節  
子どもカテキズム 問19, 20

### 〔単元のねらい〕

説教のねらいは、子どもたちが「神の御前での自分の罪を自覚し、神の怒りに震え怯え、赦しを請う」子どもとして整えられることである。「罪を犯して何が悪い」「みんな罪人、私も罪人、みんな罪人なら怖くない」という誤ったイメージを、子どもたちに決して与えてはならないし、もし、もう既に子どもたちにそれに似た誤ったイメージが植え込まれていたなら、取り除かないといけない。罪を怒る神は真剣であり、そのために御子をさえ遣わす愛のお方である。下記の説教は、子どもにこの通り語るようには記されていない。まず教師が、怒り給う神と向き合うことを目指している。それができたなら、目の前にいる子どもに対して、自らの経験を踏まえて、その人にしか話せない説教が紡ぎ出されるであろう。

## 罪を怒り給う神

皆さんは、「怒り」という言葉を聞くと何を思いますか。お母さんやお父さんに怒られたことでしょうか。あるいは、学校の先生に怒られたことを覚えている人もいるでしょう。自分が悪いことをしていることが分かって、いつも怒られていると、自分を怒る人を疎ましく思うようになるかもしれません。また、何故怒られねばならないかよく分からないのに、それでも怒られるとき、怒る人が嫌いになります。また、瞬間湯沸かし器のようにすぐに怒り出す人がいる場合、回りは、怒らせないようにビクビクしなければなりません。怒りについてこのようなイメージをもっている場合、「怒り給う神様」という話は、聞きたくなくなるでしょう。しかし、このようなイメージは、神様の怒りではなく、人の怒りです。人の怒りを神様の怒りと混同してはなりません。神様は、人が気ままに怒るようには、怒られません。神様は、すべてをご存じですから、誤解して怒られることはありません。感情が先走り、かっかとなって、怒りすぎることもありません。悔しくて無念で、自分の気持ちを晴らすために、お怒りになることはありません。

神様が、お怒りになられるとき、それはいつも私たちのためです。もし、私たちが悪いことをしても、神様がお怒りになられなかったなら、私た

ちはどうなるでしょうか。悪いことをしたことにも気が付かず、悪いことをし続けるでしょう。そして、私たちの悪いことにより、多くのお友達を苦しませ、悲しませたとしても、それにも気が付かないでしょう。悪いことをする人が威張り、悪いことをされた人が悲しみ続ける社会は、間違っています。神様は、悪がはびこることをお嫌いに成り、悪によって脅かされている人をお守りくださいます。神様の聖なる怒りにより、私たちは自らの悪に気付かされ、私たちの社会も整えられていきます。多くの場合、神様の怒りは、弱い人を守るために、強い人に向かって燃え上がります。ですから、この世にあって誰をも恐れない強い人であっても、いや、そのように強い人であるからこそ、その人は自分を怒られる神の怒りを、真摯に受けとめねばなりません。

アダムが罪を犯して、すべての人類は罪の中に生きる者となりました。そのとき、神様は、人間はすべて罪深いと諦めることをなさいませんでした。もし、神様に深い愛が宿っていなければ、「怒っても無駄だ、すぐにまた罪を犯す。自分から離れて悲惨な道を選び取ったのだから、人間は滅んで当然だ。神様のご命令より、自分の都合を優先する人間など、もう信じられない。相手にできない。怒る価値すら、もうなくなった」と、人間と縁を

切ってしまったかもしれません。しかし、神様を神様と思わず、崇めず、従わず、神の栄光を汚す人間を、神様は、愛し続け、愛するがゆえに、「罪から離れよ。悪を捨てよ」と怒り続けてくださいます。神様が怒られるのは、私たちが罪から立ち直るためです。また、神様は、イスラエルの民が御自分の民であるがゆえに、特にイスラエルに対して激しく怒り続けられます。怒るという仕方であったとしても、神様は関わり続けてくださいます。人が幸せに生きるために与えられた十戒が守られないとき、もし、神様がお怒りにならなければ、神様は、人を不幸な人生へと見捨てることとなります。人が十戒を守って幸せに生きることを願われるから、神様は律法が守られないとき、お怒りになられます。神様の怒りは、神様の深い愛情から沸き上がる怒りです。

神様に背く私たちの罪は、神様を怒らせます。神様は、怒ったふりをされるのではなく、本気で怒っておられます。神様に怒られるとは、どれほど怖いことでしょうか。人に怒られる怖さとは、まったく違います。罪を犯し、悪いことをしたときは、神様を怒らせてしまったと、恐れおののかねばなりません。聖霊なる神様が心にお宿りくださるとき、神様の愛の豊かさや神様の怒りの真剣さを理解することができます。そのように神様が

怒っておられますので、私たちは、他の誰かにではなく、まさに、神様にお詫びします。「神様、ごめんなさい。神様、憐れんでください。神様、お赦してください」と心から神様に叫びます。

そして、神様の怒りに震える者は、神様から赦しの宣言を受けて、喜びに立ち上がります。神様は、本気で怒られるお方であり、心からお赦しくださるお方です。罪人に対する神様の怒りと愛は、主イエス・キリストの十字架のなかに、溢れ、輝いています。私たちは、キリストの身代わりの十字架と執り成しなしには、怒り給う神の御前に近づくことはできません。しかし、キリストの執り成しがありますので、どのように罪深い者も、罪を悔いて、神の御前に立つことができます。アダムにあって罪を犯した者はすべて、今や、キリストにあって罪の赦しの祝福の中に移しかえられます。人間は、一度怒るとなかなか、自らの怒りから離れることはできません。しかし、神は、人ではないから、罪を怒っても、その怒りに御自分が捕らわれることはありません。キリストを信じる者に対しては、大胆に罪を赦し、御自分の怒りをさえ、忘れてくださいます。罪に気付いたときは、怒り給う神を恐れましょう。そして、心からの悔い改めの祈りをもって、キリストにあって罪を赦したもう神を褒め讃えましょう。(岩崎 謙)

---

[今週の暗唱聖句] エフェソの信徒への手紙 2章3～8節より抜粋  
わたしたちも皆……生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。  
しかし、……恵みにより、信仰によって救われました。

---

(112ページの続き) 聖句は、アダムとキリストとの関係を解き明かしている文脈におかれている。アダムにあって全人類は墮落し、キリストにあって全人類に救いに至る道が開かれた。5章12～21節の段落のメッセージが重要で、ここには、アダムの罪との対比のなかで、キリストの救いの壮かさ、確かさ、神のご計画の豊かさが、解き明かされている。この段落のメッセージから切り離して、ローマ5:12だけから原罪論を語っても、未消化に終わるであろう。ローマ5:12は、アダムの子孫である「あなた」、今、キリストに結ばれているので、原罪の呪いから解放され、永遠の命に導く(5:21) 救いに入れられているという

ころまでを語り切ることを求めている。また、ローマ5:12は原罪の引証聖句であり、怒りを説明する聖句ではない。よって、暗唱聖句には、ウ小教理問20で怒りの引証聖句になっているエフェソの信徒への手紙から抜粋して記した。

今回より、教理解説と聖句解説を合わせた黙想を記した上で、説教展開例を記すことになった。その線に沿おうと努力したが、改めてその困難さに直面した。教理の深み、受洗誓約文の意義、御言葉の恵み、これらを一つに統合できる一箇所の聖句を選び出すこと自体が、極めて困難であろう。今回は、ローマ5:12の聖句よりも、教理に主眼をおいた説教となろう。(岩崎 謙)

**〈ねらい〉**

神様はどんなに小さな悪でも憎まれること、イエス様によって罪が清められることを知る。

**〈展開例〉****1. 怒られない方がいい？**

お父さんやお母さんはみんながどんなことをしたときに怒りますか？

- ・うそをついたとき
- ・兄弟げんかをしたとき
- ・言うことを聞かなかったとき

(子どもたちに言ってもらおう)

そうですね。お母さんやお父さんはみんなが悪いことをしたときに怒るよね。怒られたら、うれしいかな？ いやな気持ちになるよね。

でも、悪いことをしてもお父さんやお母さんが全然怒らなかったらどうなるかな。きっと悪いことをしたことがわからなくて、もっともっと悪い子になってしまうよね。

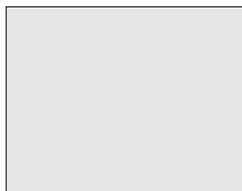
**2. 悪を憎まれる神様**

神様は悪いことが大嫌いです。だから「少しぐらい悪いことをしてもいいんだよ」とはおっしゃいません。



薄汚れた布

ここに布があります。(薄いグレーの布を用意する) この布は何色ですか？(白色?) では、こうしたら？(真っ白な布を出す)



薄汚れた布



真っ白な布

この真っ白な布と比べてみると、こっちの布が本当は真っ白ではなかったことがわかるよね。自分で、これぐらいはまあいいだろう、ゆるされるだろうと思う小さな罪も、清い神様は、汚れたものとしてごらんになります。

神様は少しも暗いところがないお方なので、どんな小さな汚れ(罪)でも、心から憎まれるのです。

**3. 光の子になるために**

神様から離れてしまった私たちは、暗い汚れた心(罪)を持つようになってしまいました。こんな私たちが、どうしたら清い神様の子どもになることができるでしょう。

イエス様を信じる子どもたちは、イエス様のくださる真っ白な布でおおわれます。イエス様の清さを与えられて、光の子どもとなることができるのです。うれしいですね。

**4. おにごっこ**

広い場所があれば、おにごっこをして遊びましょう。陣地を決めて、養生テープで陣地のしるしをして、陣地の中にテープで十字架を書く。この陣地に入っていれば鬼はつかまえることができない。ただし、10秒しか陣地にいることはできない。捕まった人が次の鬼になる。

**5. ダンボールで教会を作ろう**

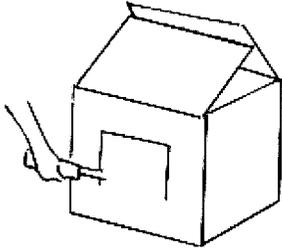
広い場所がない場合は、大きなダンボール箱で教会を作って遊びましょう。

(→次ページを参照)

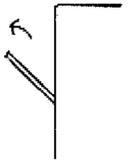
## ダンボールで教会を作る

用意するもの：大きなダンボール箱・カッターナイフ・ガムテープ  
 (カッターナイフは先生が使いましょう)

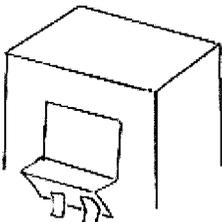
### ○出窓の作り方



カッターで切り込みを入れる

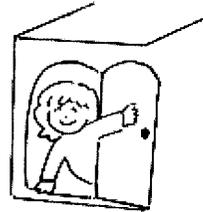
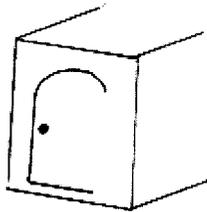


根元を折ってさらに  
3分の1ぐらいの  
ところを折る



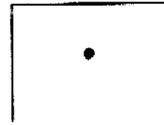
ガムテープで貼る

### ○玄関の作り方

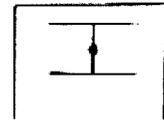


ドアの穴をあけて  
からカッターで切る

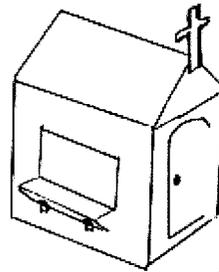
### ○窓の作り方



取っ手の穴を  
あける



カッターで  
切る



屋根をガムテープ  
でとめて、十字架を  
つけば完成  
色をぬってみよう！

## 〈ねらい〉

①神様の怒りを自分の経験の中で認める。②神様の怒りは愛であることを教える。

## 〈展開例〉

(分級の中で話し合うことは、大きな紙に書きとめながら進めるとよい。)

今日のカテキズムと一緒に読みましょう。

私たちは、罪人でみんな神に背く罪を犯すので、神の怒りを受けなければいけません。でも、神さまは、愛しているから怒ると聖書で語られています。

みんなは神さまの怒りを感じたことはありませんか。教えてください。……たとえば、神さまに背いた後や、神さまのことはまあいいやと思ってから、その後で大変な目にあって、これは神さまの怒りだと感じたことです。

(教師はよく祈って自分の証を準備しておきましょう。例：先生はこんなことがありました。参照—「教会学校教案誌」No.40、p.81—学校の部活で靴が欲しかったんです。周りの友だちは新しい靴を買っていました。自分も遅れをとるまいと思ひ、献金を後まわしにして、そのお金で靴を買いました。すると、足に怪我をしてちゃんと走れなくなり、結局部活をやめたんです。靴を買うために、神さまを信頼せず、自分でなんとかしよう

と考えて、しちゃいけないことをしてしまったんです。それで、神さまに悔い改めました。今はこの出来事があったおかげで、神さまにささげる献金をとても大切にできるようになりました。残り物をささげるのではなく、まず最初にささげるものを取り分けておく習慣が身につきました。また、神さまのお金は恐れをもって扱うようになりました。このように自分を成長させてくださった神さまの愛を感じ、今では、神さまが怒ってくださったことをとても感謝しています。)

さて、これからみんなは神さまの怒りを受ける時があります。でも、それは「悪を捨てなさい。罪を捨てなさい。」と、私たちが悪いものを手放すように、するためです。

私たちは、すぐに悪い思いを持ったりや悪い言葉を語ろうとしたりしますが、それで私たちがどんどん悪くならないように、神さまは怒ってくださるんですね。

だから、神さまの怒りと言うのは、「わたしたちを清くしてくださる怒りなんだ」ということを覚えてください。

## 〈お祈り〉

神さまが怒るのは、私たちに悪や罪を捨てさせるためだと知りました。神さまの愛を感謝します。



## 〈ねらい〉

罪を怒る神が、真剣であり、そのために御子を遣わす愛のお方であることを知り、真剣に罪の赦しを祈る機会をもつことができる。

## 〈展開例〉

(1) 暗唱聖句の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「神の怒り」って、何？→神さまは罪を怒られる。真剣に怒られる。その怒りは正しい怒りである。誤解はない。人間のため、わたしのために怒ってください。そこに愛があるから、人間を愛しておられるから、真剣に怒られる。

「神の怒りから救われる」のは、なぜ？→イエス様が十字架にかかって、わたしの代わりに神さまの怒りを受けてくださったから。神さまの真剣な怒りに、真正面から真剣に向き合ってください

たから。そのことを信じて受け入れることが「恵み」であり、その「信仰」によってわたしは救われている。

(3) やってみよう。

契約の子はもう救われているけれど、教会のみんなの前で自分の口で告白する。自分が罪人であり、神さまの怒りを受けなければならないことを。

自分の罪と向き合ってみよう。その罪を赦してくださいと、真剣にお祈りしてみよう。

その場でお祈りできる雰囲気なら、いっしょに祈ってよい。難しいようなら、教師が祈り、個人の祈禱を家でささげるように励ます。

(4) 歌おう。

「まなざし」(二宮忍)

ホームページから楽譜と楽曲のダウンロードができます。[http://ogaki-ch.com/ss\\_text/46](http://ogaki-ch.com/ss_text/46)

あんしょうせい く

暗唱聖句 (エフェソ 2 章 3 ~ 8 節) 月 日 名前

わたしたちも皆<sup>みな</sup>……  まれながら

の怒り<sup>いか</sup>を受けるべき  でした。

しかし、……  みにより、 仰<sup>こう</sup>によって

救<sup>すく</sup>われました。

生 神 者 恵 信

(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

今までで、怒られて一番反省した時って、どんな時だろう？ 今は学校の先生がピンタなんてしたら問題になってしまうのかもしれないけど、私の子どもの頃はよく殴られました。私たちのズルやさばりに先生が怒り狂って、ポコポコにされたこともあります。でも、そんなのはあまり怖くありません。怖かったけど、もう二度とやらないでおこうとは思わなかった。今度はばれないようにしようと思うだけでした。

一番心に突き刺さったのは、先生が涙を流しながら、静かに、もうやってはいけないと言われた時でした。そんな卑怯な人間のままで大人になってはいけないと、涙を流して、私たちを怒ってくれました。その時に、「……もうやらないでおこう」と、向きを変えることができました。

こんな話も聞いたことがあります。物を盗んでしまう癖のある少年。そのお父さんは、毎日その少年をどなりつけ、なんとかその悪い癖をなおさせようと思いました。でも、まったく直ることがない。ついにお父さんは、その子を倉庫に連れて行って、トンカチを振りかざして「この悪い手をつぶしてやる」と打ちたたきました。でも、少年の手はつぶれませんでした。なぜなら、お父さんは、少年の手の上に自分の手を重ねて、自分の手の上にトンカチを打ち下ろしたからです。きっと、このお父さんも泣きながら、そうしたのではないのでしょうか。それから少年は、もう盗みをすることはなくなったそうです。

神様の怒りというのは、それと似ているかもしれませんが。私たちを大切に大切に考えてくださるから、「あなたは決してこのままでいてよい存在ではない」と、怒りをもって、私たちに悔い改めを迫られます。

怒られて納得できない時って、どういう時でしょう？ いろいろあると思うけど、自分の言い分を全然聞いてもらえなかった時というのが、一番納得いかないのではないのでしょうか。何を言っても、それは言い訳だと言われて、頭ごなしに叱られる……。そういう時に、ムカつくって言いたくなるのでは。

神様はどうでしょう。神様は、あなたの心の中を全部知っていてくださいますよ。例えば、友達に「死ね」と言ってしまったとしよう。それは、はっきり罪です。どうしてそんなことしたの？ 理由はいくらでもあるよね。あいつが先に「死ね」と言ってきた……。あいつは死にふさわしい悪党だ……。「死ね」なんて、みんなが軽く使ってる冗談だから……。などなど。神様は、そういう心の声を全部聞いていてくださいますよ。あなたが心に抱えている痛みや正義感や、周りに合わせてしまう弱さまで、神様は全部分かっていてくださるよ。

でも、全部分かってくださった上で、「それでもそれは罪だ」と、そして「それが罪だと、あなたにも本当は分かっているだろう？」……。と、怒りをもって悔い改めを迫られるのです。すべてを見通される静かな目に、深い愛情をたたえて、神が怒ってくださいます。「あなたは、そんな汚い言葉を使う、汚い人間のままでいていい存在ではないのだ」と。



テキスト                      ローマの信徒への手紙 3章21～26節  
子どもカテキズム 問21

問21 神さまは、あなたもほかの人も、罪人を滅びるままにお見捨てになりましたか。

答 いいえ、ちがいます。

神さまは、神の民となるように最初から私たちを選んでくださいました。

罪から救い出してくださるあがない主を与えてくださったのです。

罪は全世界、全人類に及ぶ普遍的な問題であり、だれ一人例外なく、神の裁きのもとにおかれている（ローマ1:18-3:19）。3章21～26節は、その問題の解決方法を提示するローマ書の中心的な箇所である。罪を犯し、そのままでは滅びる運命にある人間への福音（良い知らせ）の告知である。福音とは、罪人である私たちのために、神みずから贖い主キリストを備え、彼を信じる者を恵みによって無償で義としてくださるという約束である。

このテキストの鍵語のひとつは「義」（21, 25, 26）、「義とされる」（24）、「義となさる」（26）である。これらは法廷用語で「義とされる」とは、無罪であると認められることを意味する。

21節は、「ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました」（21）と告げる。「律法とは関係なく」とは、神の義は律法を行うことにより得られる義ではないことを示す。パウロはすでに20節で、だれも律法を行うことによって神の前で義とされない、と言っている。福音の提供する義は、行いとは関係なく、全く異なる仕方で与えられる恵みとしての義である。

しかも、それは新約の時代になって突如現れたのではない。むしろ、律法と預言者（旧約聖書）によって立証されてきた。旧約の時代には、約束、預言、犠牲、割礼、過ぎ越しの小羊、またその他の予型や規定によって執行され、これらはすべて来たるべきキリストを示していた（ウ告白7:3）。旧約の聖徒たちはこの贖い主を信じ、待ち望み、

その信仰によって義とされた。

人類の始祖アダムの墮落は全人類に影響を及ぼした（23）。しかし神は、罪人が救われ、永遠の命を得る道を備えてくださった。それは贖い主キリストへの信仰による。神は彼を信じる者すべてに、恵みにより無償で神の義をくださる（22, 24）。そこには何の差別もない（22）。

そのことを可能にしたのがキリスト（メシアを意味する）による贖いの業である。「神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を贖う供え物となさしました」（25）。「罪を贖う供え物」という語は「贖いの座」（レビ16:2, 15-16）という語に由来している。旧約時代、大祭司は年に一回、律法に定められた贖罪日に、至聖所の契約の箱の上にある「贖いの座」に動物の血を振りまき、贖罪の儀式をした。これは、来たるべきメシアによる贖いの業を指し示すものであった。神は罪人を滅びるままに捨て置かれず、御子キリストを罪を償う供え物となさり、キリストを信じる者に、賜物として神の義を与える道を開かれた。ちなみに26節の「正しい方」は前述の「義」という語と同じ語源で、神が性質において義なる方であることを意味している。ご自分の御子を罪を償う供え物となさったことにより、神ご自身は罪をいささかも見逃されない正しいお方であることを明らかにされたと同時に、私たちへの愛を具現された。神は私たちを愛し、最初から私たちを選び、私たちが滅びないように、贖い主キリストを与えてくださったのである（エフェソ1:4）。  
（後藤公子）

テキスト                      ローマの信徒への手紙 3章21～26節  
子どもカテキズム          問21

### 〔単元のねらい〕

神は、罪を犯し、神の怒りを受けなければならなくなった私たちを救うために、永遠のご計画に基づいて、御子キリストを通して贖いの業を成し遂げられた。それは、ご自分の民が行いによらず、ただ贖い主キリストを信じる信仰によって無償で義とされるためである。その贖いの業は、御子を罪を償う供え物とされたことにより実現した。御子キリストによる贖いの業は、神が正しい方であること、また御子を犠牲にされるほど、神がご自分の民を愛しておられることを示している。

## 私たちのあがない主イエスさま

「神さまは愛である」って、もう何度も聞いたと思います。でも「愛」というのは、わかったようでわからない言葉です。愛は、やっぱり目に見える形で表してくれて、初めてわかります。たとえば、あるお友達が私の誕生日を覚えていてくれて、「おめでとう」と言ってくれたり、誕生日カードに、とても励みになる言葉を書いてくれると、「ああ、〇〇ちゃんは本当の友達なんだ、私のことを思ってくれてるんだ」ってわかります。愛には納得できる証拠が必要なんです。

聖書は、神さまが私たちを愛しておられる、と教えています。どうして、そんなことが言えるのでしょうか。神さまは私たちが納得する証拠を見せてくださっているのでしょうか。

ヨハネ福音書3章16節にこう書かれています。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」。

神さまは、「わたしはあなたを愛している。その証拠に、あなたが滅びないように、わたしの大切な独り子であるイエス・キリストを与えた」と語っておられます。

神さまが私たちを愛しておられるという、目に見える証拠とは、神さまが私たちのために払ってくださった大きな犠牲のことです。それは何でしょうか。また何のために、神さまはそうならなければならないのでしたのでしょうか。それが、今

日の聖書の箇所ではっきりと示されています。

その前に、最近学んだことを思い出してみましょう。私たちは、みんな神さまの前に罪人であり、神さまの怒りを受けなければならないものであることを、すでに学びました。罪人である私たちは、もう神さまと交わることができなくて、神さまから切り離されて生きているのです。それは本当に恐ろしい、とても耐えられないことです。でも、そのような恐ろしい状態にあることに気付いていない場合がほとんどなのです。

イザヤ書のなかにこういう言葉があります。「わたしたちは羊の群れ、道を誤り、それぞれの方角に向かって行った」(53:6)。羊は羊飼いがいないと、道を迷ってしまい、気付かないでどんどん危険な方へ行ってしまう方向音痴な動物だと言われています。聖書は、私たちのことを、そのような愚かで迷った羊のようだ、と言っています。私たちは皆、神さまから離れて自分勝手に歩んでいるのです。そして、危険にさらされていることを知らなくて、どんどん滅びの道へ突き進んでいます。そのことに気付いていないのは、とても怖いことです。

神さまから離れた人間は自分のことしか考えることができず、自己中心になっています。だから、自分の思うようにならないと、お父さんやお母さんに反抗したり、お友達とけんかしたりします。また自分を守るためにうそをついたり、得するた

めにごまかしたりします。そんな自己中心な性質を持ち、罪を犯して神さまを悲しませている私たちでも、時々、自分がしていることがいけないことだとわかる時があります。神さまが良心を与えてくださっているからです。いけないことだとわかっているなら、やめればいいのですが、私たちはそうできないのです。だれもが罪の力に負けています。そして、また同じような失敗を繰り返してしまうのです。私たちは自分自身を変えることができないみじめな者です。

自分の力で罪に勝てない私たちですから、だれかが助けてくれなければ助からないのです。お父さんやお母さんや学校の先生でも、私たちを救うことができません。神さまの前ではみんな罪人で、だれもが他からの助けを必要としているからです。

私たちをお造りになられた神さまは完全で、また正しく聖いお方なので、私たちの罪を少しでも見過ごしになさることはできません。私たちの罪に対して、「いいよ、いいよ、少しぐらいなら気にしないよ」などとは決して言われません。どんな小さな、たとえひとつの罪であっても、罰せずにはおられない正しく聖いお方です。

しかし、神さまは同時に私たちを限りない愛で愛しておられます。ですから、そんなみじめで無力な私たちを憐れんでくださり、ご自分の大切な独り子イエスさまを、私たちの救い主として遣わしてくださったのです。イエスさまは十字架の上で、私たちが受けなければならない罰を負い、身代わりとして死なれました。しかしイエスさまは神さまですから、三日目に復活され、今も生きておられる私たちの救い主です。

ローマ書3章23,24節にこう記されています。「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくな

っていますが、ただキリスト・イエスにある贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです。

神さまは、私たちの罪を帳消しにするために、ご自分の大切な独り子を十字架の上で罰せられました。イエスさまも私たちを救うために、ご自分から進んで十字架にかかれ、代わりに罰を受けてくださいました。私たちの身代わりになってくださったのは、私たちが滅びないためです。「贖い」とは束縛されている者を、代価を払って解放する行為のことを言います。イエスさまは私たちの贖い主です。

だから、神さまは、イエスさまを信じる者の罪を赦してくださるのです。それは、私たちが罪のない者として神さまの国の民となることを意味します。

聖書は、神さまが私たちに宛てて書いてくださったラブレターです。「わたしはあなたを愛している。その証拠に、あなたのために、わたしのかけがえのないキリストを与えた。あなたが滅びるのをわたしは望まない。だからキリストを信じて、永遠の命を得なさい。」

これが聖書が一番言いたいことです。そう言って招いてくださっている神さまの愛に応えたいと思います。私たちがこの招きに素直に応えるとき、実は、神さまが私たちを愛して、初めから、私たちが救われ、神さまの民となるようにと選んでくださっていたことがわかるのです。（後藤公子）

【今週の暗唱聖句】 ヨハネの手紙一 4章10節

わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、  
わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。  
ここに愛があります。



**〈ねらい〉**

罪人が罪人を救うことはできない。罪のない神の独り子だけが私たちを救うことができる。

**〈展開例〉****1. おぼれている私たち**

私たち人間は神様の命令に背いてしまったので、神様の言葉どおり、死ぬものとなってしまいました。そのままでは、神様の子どもとして天国に行くことはできません。神様は、罪をもったままの人間を受け入れることができないからです。では、どうしたらまた神様の子どもとしていただけるのでしょうか。

私たちは海でおぼれている人のようなものです。(溺れている人の絵を描く) このままだと助かりません。見るとすぐ近くに人がいます。「助けてくれ」と叫びました。でも、その人も溺れているので、助けてあげることができません。誰かが助けに来てくれないとこのままではみんな死んでしまいます。

**2. 助けることのできるのは誰？**

誰がこの人を助けることができるでしょう。そうですね、おぼれていない人です。

私たち人間はみんな海でおぼれている人です。罪という海で死にそうになっています。隣の人を助けてあげたくても、自分がおぼれているので助けてあげることができません。

助けることができるのは罪をもっていない人、おぼれていない人だけです。

神様は私たちを救うために罪のないご自分の子どもであるイエス様をおくってくださいました。イエス様は罪のある世界に来てくださり、おぼれている私たちの手をとって助けてくださいました。

イエス様は遠くから「おーい、がんばって泳ぎ

なさい」と言ったのでも、泳ぎ方を教えてくれたのでもありません。イエス様は海に飛び込んでおぼれている私たちの手を取り、神様のもとに引き上げてくださいました。私たちは、どんなにがんばれと言われても、自分で泳ぐことも海から出ることもできないのです。誰かが海に飛び込んで、引き上げてくれなければ助かりません。

神様は私たちを救うために大切な独り子をこの世界におくってくださいました。それほどに神様は私たちのことを愛してくださっているのです。

**3. デコレーションクッキーを作る****〈材料〉**

- ・クッキー(市販のものか手作り)
- ・アイシング(粉砂糖75gと卵白(半個)と食紅か抹茶、(粉砂糖に少しずつ卵白を混ぜて糊ぐらいの硬さにする)
- ・チョコペンかホワイトチョコペン(湯煎する)
- ・アザラン・カラーシュガー
- ・クッキングシート

**〈作り方〉**

10cmに切ったクッキングシートを丸めて先の方をペンのようにしてホッチキスで止める。その中にアイシングをいれる。

クッキーにアイシングや湯煎したチョコペンで十字架やハートの絵を描く。アザランやシュガーを飾り付ける。チョコペンはすぐに固まってしまうので、熱いお湯を用意しておいた方がよい。



**〈ねらい〉**

①自分たちの罪を認め、②その罪の代価をイエス様が支払ってくださったこと、③イエス様に頼るために支払うべきものはないこと、以上を教える。

**〈展開例〉**

(分級の中で話し合うことは、大きな紙に書きとめながら進めるとよい。)

今日のカテキズムと一緒に読みましょう。

神さまは、私たちを罪人として滅びないように、イエス様を送って下さいました。私たちはイエス様が私たちの罪を代わりに背負ってくださったことを信じています。

私たちには罪がありますね。罪とは何ですか……。

(神さまに背くこと、悪いことをすること、思うこと。神さまから離れてしまうこと。)

みなさんは、どんな罪をどれくらい犯しますか。……私たちの気づかないうちにたくさん犯して、私たちに罪がたくさんあります。

(教師も自分のことを準備しておきましょう。)

例：先生は心配することが多くて、いろいろと自分でやろうとしてしまいます。でも自分でやりすぎて、神さまの働きがあることを、忘れる罪を犯し悔い改めています。神さまは思い悩んではならないと言ってくさるんですけどね。もっと、神さまのことを信頼しないとイケません。)

気がついたらちゃんと悔い改め祈りを早くしましょう。「神さま、私たちには数え切れないほど多くの罪があります。どうか私の罪をお赦しください。また、お友達の罪もお赦しください。また、私たちの家族の罪をお赦しください。そして、教会のみんなの罪をお赦しください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。」

さて、私たちの罪はとても大きいです。この罪

を赦してもらうために何かいい方法はありますか。……なぜですか。では、神さまにお金を払うとしたらいくら払えばいいでしょうか。100万円でしょうか。1億円でしょうか。持っているお金全部でしょうか。先生は持っているお金全部でも、1億、1兆円払っても赦してもらえません。命で支払わないといけません。

命で支払うとは、どうすることですか。……死ぬということ。結局赦されないということです。赦される方法は他にないのでしょうか。

他に良い方法はありますか。……(お祈りする)……神さまをお願いするんですね。では本当にお祈りして赦してもらえるのでしょうか。ただ優しいというだけで神さまは先生やみんなの罪を赦してくれるのでしょうか。

困った時はイエス様を考えましょう。イエス様は何をなさったでしょう。十字架についたとはどういうことでしょうか。それは、私たちの代わりに、罪の償いを命で支払ってくださったわけです。このイエス様が罪を背負ってくださったと信じるなら、神さまは罪を赦す、と決めてくださったのです。

今日の分級の最後の質問です。イエス様に頼るのに何か要りますか。信仰ですね。そのまま受け入れて信じるということです。イエス様に頼るのに、あれをしなきゃいけない、これをしなきゃいけない、というのはありません。聖書では、お金の全くない人、力の弱い人、病の人たちがイエス様に頼り、罪が赦されました。ですから、払わなきゃいけないお金などはありません。神さまの愛に感謝してイエス様に頼りましょう。

**〈お祈り〉**

私たちの罪をイエス様が代わりに負って下さり感謝します。イエス様にいつも頼ることが出来ますように。

## 〈ねらい〉

わたしたちに最も必要なものは、罪の赦しと裁きからの解放であることを知り、神さまの招きに素直に応えようとするができる。

## 〈展開例〉

(1) 暗唱聖句の穴埋めをしよう。

(2) 言葉の意味を考えよう。

「罪を贖ういけにえ」って、何？→イエスさまがわたしの罪の身代わりに、神さまの怒りと呪いを受けてくださり、義を買い取ってくださったこと。「義とされる」とは「無罪である」ということ。展開例の説教で語られたことを、もう一度書いて示すとよい。

「御子」→もちろん、イエスさまのこと。

「お遣わしになる」→上位者が下位者を行かせる。父なる神さまが、その独り子であるイエスさ

まを十字架に書けるために地上に送ってくださった。その愛を知ろう。

(3) やってみよう。

幼児洗礼を授かった契約の子は、信仰による義の保証に与っている。幼児洗礼を授かっていない子どもたちも、神さまの救いに招かれている。幼児洗礼を授かった子もそうでない子も、もう少し大きくなったら、教会のみんなの前で自分の口で信仰告白をする。自分が罪人であり、イエスさまの贖いがなければ救われないことを。その日への備えのために祈ろう。

(4) 歌おう。

「素直な心」(二宮忍)

ホームページから楽譜と楽曲のダウンロードができます。[http://ogaki-ch.com/ss\\_text/46](http://ogaki-ch.com/ss_text/46)

あんしやうせい く

暗唱聖句 (1ヨハネ4章10節)

月 日 名前

わたしたちが ○ を  したのではなく、

○ がわたしたちを  して、

わたしたちの  を贖ういけにえとして

み  をお遣わしになりました。

ここに  があります。

神 愛 罪 子

(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

イエス様が生まれてきてくださらなかったなら、イエス様が十字架にかかってくださらなかったなら、あるいはイエス様が復活してくださらなかったなら……とにかく、イエス様の存在がなければ、私たちはのん気に神様に祈ることもできません。神様と仲良くさせていただけるのは、「贖い主」イエス様がいるからです。このことを絶対忘れないでください。

みんなは、「神様を信じてる」っていう言い方をよくしますね。それ自体は何も悪いことじゃない。でも、本当の神様を知らない多くの日本人も、「神様助けて……」とお祈りします。イスラム教やユダヤ教の人も「神よ、憐れみたまえ」と祈ります。そういう人たちと私たちとは何が違うのだろうか？ 違うのは、イエス・キリストという救い主を持っているかどうかです。私たちは「キリストの教会」に入れていただいた者たちです。私たちの神様は、「独り子イエス・キリスト」を与えてくださった、「イエス・キリストの父なる神」です。

私たちは、イエス様のご人格、お言葉、ご生涯、救いの業を通して、はじめて神様のまことの思いを知るのです。神様の愛を知るのです。イエス様があなたにしてくださったことの意味をしっかりとつかんでいないなら、どれだけ神様の愛を信じていると主張しても、そんなのは手前勝手なたわ言に過ぎません。

じゃあ、イエス様は何をしてくださったのか。

分かりやすく言うなら、イエス様は私たちの代わりに、「契約の責任」を果たしてくださいました。先に、神様はアダムとのあいだに「契約」を結んでくださって、「わたしはあなたがたを永遠に大切にします。喜びに満ちた命を絶対に約束する。だからあなたがたもわたしを愛しなさい。わたしを信頼して、わたしの言葉に従いなさい」と、信頼と愛を契り合うことを望まれました。でも、アダムはその神の思いを裏切って墮落したのです。今や私たち普通の人間の誰一人として、この契約に対する責任を果たすことなどできません。だから、それを代わりに果たすために、神の尊い独り子が人間となってくださって、第二のアダムとして、二つの点で責任を果たしてくださいました。

- ①本来、私たちが受けねばならない契約違反の刑罰(滅び、呪い)を、十字架で引き受けてくださいました。
- ②本来、私たちが実行せねばならない神への完全な服従を、その全生涯をもって成しえてくださいました。(フィリピ2:8 十字架の死にいたるまでの従順)

では私たちは、あと何をせねばならないのでしょうか。ただこのイエス・キリストを「信じる」ことだけなのです。一人の正しい人であるイエス・キリストが、代表者として、人間の果たすべき責任を果たすことで、彼に連なるすべての者を「正しい者と宣言する」という、とんでもなく虫のいい話を、神様が約束してくださったからです。だから、図々しく、その救いにあずからせていただくのです。



# 副読本のご案内

## 『主は羊飼―中高生のための教理入門―』

価 格 800円

著 者 木下裕也

(名古屋教会牧師・教会学校教案誌編集員・神戸改革派神学校講師)

ぜひお買い求めください。ご注文は教案誌編集部まで。

### ① 人生の目的―神礼拝

もうかなりのお年になってから教会に連れ始められた方と聖書の学びをしていたときのことです。そのときたまたま一緒に、ウェストミンスター小教理問答の問1を読みました。その問いは「人のおもな目的は何であるか」です。

この問いを読まれて、その方はつぶやくようにおっしゃいました。一わたしはもう何十年も生きてきたのに、人生のほんとうの目的などということを考えたこともありませんでした、と。

人生の目的とは何か。このことをはっきり知っているのだ、知らずにいるのとは、やはり生きかたが大きくことになってくるのではないのでしょうか。

さまざまなことが人生の目的になり得ます。お金をもうけること、地位や名誉を得ること、仕事で成功をおさめること、熱烈な恋愛をすることなどです。これらのことは人生にある幸せをもたらすでしょう。

けれども一方で、そのどれもが不確かです。お金は一瞬にして失われることがあります。地位や名誉を得たとしても、たった一度のあやまちですべてを棒にふることもあります。熱烈な恋もさめることがあります。とすれば、これらはいずれも人生の究極の目的とはなり得ないでしょう。

さらに、私たちの命そのものも不確かなものです。明日この地上に生きているという保証を、私たちはだれひとり持たないのです。

では、私たちはついに人生の確かさ、人生のほんとうの目的を見出すことはできないのでしょうか。

いいえ、私たちは人生の眞の目的を知ることができます。ほんとうに確かで、生きがいのある命と人生を生きることができるのです。

もういちどウェストミンスター小教理問答の問1を見ましょう。

問 人のおもな目的は何であるか。

答 人のおもな目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことである。

もうひとつ信仰問答を見ましょう。ジャン・カルヴァンの手にするジュネーブ教会信仰問答の問1はこうです。

問 人生の目的は何ですか。

答 神を知ることです。

人生の目的は神さまを知り、神さまの栄光をあらわし、神さまを喜ぶことにあります。すなわち、神さまを礼拝することこそが人生の眞の目的なのです。

人生の確かさは私たち自身にはありません。私たち自身何かを頼りにしているかぎり、私たちの人生は不確かです。

けれども神さまは確かなお方です。神さまこそ私たちの人生のゆるぎなき土台、岩、命のとりです。なぜなら神さまは天地の造り主であられ、私たちの命の与え手であられ、この世界のいとなみと私たちの人生の歩みのすべてをみ手のうちに握っておられるお方だからです。

# 2012年10～12月カリキュラム (第47号)

— 『子どもカテキズム』に基づく二年サイクル第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参照教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単元の目標			
10月7日	二性一人格	問22	ウ小教理21, 22
		ルカ1:26-38	ルカ1:28b
神であり人であられる救い主が与えられた驚くべき神の御業を喜ぼう			
14日	罪からの救い主	問23	ウ大教理41, 42、ハイデ29, 31
		マタイ1:18-25	マタイ1:21b
罪からの救い主が私たちと共にいてくださる。この恵みを共に喜ぼう			
21日	謙卑のキリスト	問24	ウ小教理27、ウ大教理46-50
		ヘブライ12:1-3	ヘブライ12:1b, 2a
謙卑のキリストが共にいてくださる幸いを知ろう。私たちも忍耐強く歩もう			
28日 宗教改革記念	高挙のキリスト	問24	ウ小教理28、ウ大教理51-57
		ヘブライ5:7-10	ヘブライ5:8-10
高く上げられ、神の右に座しておられる救い主を仰ごう。そこに平安がある			
11月4日	預言者イエス	問25	ウ小教理24、ウ大教理43
		ヘブライ1:1-4	ヨハネ1:12
まことの預言者・神の御言葉の完成者である主イエスの御声に聞こう			
11日	大祭司イエス	問26	ウ小教理25、ウ大教理44
		ヘブライ4:14-16	ヘブライ4:16
罪を背負って贖いの御業を成し遂げてくださった大祭司イエスをほめたたえよう			
18日	真の王イエス	問27	ウ小26、ウ大45、ハイデ31
		ヘブライ3:1-6	詩編23:1-3a
主イエスはまことの羊飼いとして王であられる。このお方の羊として歩もう			
25日	恵みのみ	問28	ウ大教理58、ハイデ60, 61
		ルカ18:9-14	ローマ3:24
神の救いはただ恵みとして与えられる。この福音に生きることへと励まそう			
12月2日 アドベント	選びと有効召命	問29	ウ小教理29-32、ウ大教理59
		ルカ5:1-11	ローマ8:30
主なる神は罪人を愛して選び出される。神に召し出されている幸いを喜ぼう			
9日 アドベント	救い主を待ち望む (一)	—	子どもカテキズム22
		ルカ1:5-25	ルカ1:13
私たちの思いを超える大きな贈り物をしてくださる神の大きな御業を待ち望もう			
16日 アドベント	救い主を待ち望む (二)	—	—
		ルカ1:57-66	ルカ1:76, 77
救い主を迎えるための備えをしたヨハネ。私たちも備えて救い主を迎えよう			
23日 降誕祭	主イエスの降誕	—	—
		ルカ2:1-7	ヨハネ—4:9a
主なる神の大きな愛のあふれる贈り物である主イエスの降誕を喜ぼう			
30日 年末	再臨を待ち望む	—	子どもカテキズム35, 36, 80
		黙示録21:1-4	ヨハネ16:33b
主イエスは再び来られるお方である。その平安の内に、一年を締めくくろう			

## 2012年度 年間カリキュラム (第45～48号)

(2012年4月～2013年3月)

二年サイクル カテキズム カリキュラム 第一年 (子どもカテキズム問1～20)

	月 日	教会暦・行事	主題	子どもカテキズム
2012年 第45号	4月1日	進級式・受難週	十字架のキリスト	—
	4月8日	復活祭	復活されたキリスト	—
	4月15日		人生の目的 一神を知る一	問1
	4月22日		神の栄光をあらわす	問1
	4月29日		救われた喜び	問2
	5月6日		神の子とされた喜び	問2
	5月13日	母の日	礼拝こそいのちの源	問3
	5月20日		いのちのパンで生きる	問3
	5月27日	聖霊降臨祭	神と人を愛する (一)	問4
	6月3日		神と人を愛する (二)	問4
	6月10日	花の日	キリスト証言	問5
	6月17日	父の日	神の御言葉	問6
	6月24日		霊なる神	問7
	第46号	7月1日		唯一の神
7月8日			生ける神	問9
7月15日			三位一体の神	問10
7月22日			主権者なる神	問11
7月29日			天地創造	問12
8月5日		(平和)	平和を創り出す	—
8月12日			摂理の神 (一)	問13
8月19日			摂理の神 (二)	問14
8月26日			人間の創造	問15
9月2日			人の罪	問16
9月9日			罪と墮落	問17
9月16日		(敬老の日)	罪の悲惨	問18
9月23日			神の怒り	問19, 20
9月30日			贖い主の必要性	問21

年・号	月 日	教会暦・行事	主題	子どもカテキズム
第47号	10月7日		二性一人格	問22
	10月14日		罪からの救い主	問23
	10月21日		謙卑のキリスト	問24
	10月28日	宗教改革記念	高挙のキリスト	問24
	11月4日		預言者イエス	問25
	11月11日		大祭司イエス	問26
	11月21日		真の王イエス	問27
	11月25日		恵みのみ	問28
	12月2日	アドベント	選びと有効召命	問29
	12月9日	アドベント	キリストを待ち望む	—
	12月16日	アドベント	キリストを待ち望む	—
	12月23日	降誕祭	主イエスの降誕	—
	12月30日	年末	一年の恵みの感謝	—
2013年	1月6日	新年	キリストとの結合	問30
第48号	1月13日		罪の赦しと義認	問31
	1月20日		神の子とされる幸い	問31
	1月27日		聖化の恵み	問32, 33
	2月3日		愛の歩み	問32, 33
	2月10日	(11信教の自由) (13-レント)	良心の自由と尊厳	—
	2月17日	レント	主イエスと共に歩む	問34
	2月24日	レント	再臨の約束	問35
	3月3日	レント	再臨に備える	問35
	3月10日	レント	死のときの祝福	問36
	3月17日	レント	苦難のキリスト	—
	3月24日	受難週	十字架のキリスト	—
	3月31日	復活祭	復活のキリスト	—

## 〈執筆よりひとこと〉

- 幼稚科としては少し難しいかもしれませんが、小学科の参考にもなればと思います。(漆崎晴美)
- 分級展開例を作り終えるまで、励ましてくださった方、祈ってくださった方々、本当にありがとうございました。(酒井啓介)
- 14回分の賛美歌を選ぶため、二宮忍長老(関キリスト教会)にお手伝いいただきました。ぜひ歌ってみてください。(長谷川はるひ)
- 中学生分級は、どうあるのがふさわしいのでしょうか。試行錯誤中です。(坂井孝宏)
- 子供たちのひとりひとりを深く見つめられた主イエスのまなざしを思います。(木下裕也)
- 夏は、キャンプや修養会などをとおして、神さまと出会うチャンスの時です。それぞれのキャンプが、神さまによって祝福されますように。(辻 幸宏)

## 〈あとがき〉

- 第46号をお届けいたします。神様と執筆者・読者の皆様に心からの感謝を申し上げます。
- 山浦裕子姉より、子どもたちに対する教会ケアの視点で、原稿をお寄せいただきました。ぜひ教会会の学びの材料にしてください。山浦姉は教会ケア、グリーンケアの専門家です。この領域の働きが教会で広がることを願っています。
- 子どもたちの信仰の証を募集しています。子どもたち自身の言葉でも、教師(もしくは親)の言葉でもかまいません。皆さまは、主の日の朝、誰よりもはやく教会の玄関をくぐり、祈りつつ、子どもたちを迎えておられることと思います。しかも、土曜日の夜は、焦りながら(?)準備の仕上げに追われておられるのではないのでしょうか。皆さまの奉仕の労苦を主が豊かにねぎらってくださいますように。そして、子どもたちの信仰告白と受洗の実り以上のねぎらいはないでしょう。喜びをぜひ互いに分かち合いましょ。
- 教師の皆さまの声を募集しています。奉仕の悩みや苦しみも分かち合いましょ。長く教師として奉仕を重ねておられる先輩方には、若い教師への失敗談や幸いな体験をお分かちください。新米教師、教師の補助者の若い兄弟姉妹からの素朴な質問をお待ちしています。今さら、聞けない……

という恥ずかしがり屋の中堅教師の質問も大歓迎です。(誌面での匿名も可です。)その他、礼拝賛美やダンス、さまざまな取り組みをご紹介します。誌面の活性化に、ぜひご協力ください!

- 今号より、礼拝部分の形式を変更して、「教理説教のための聖書黙想」と「説教展開例」の二本立てにいたしました。説教展開例執筆者が、教理説教を執筆する道筋の中で、聖書研究とカテキズム研究を兼ね備える「黙想」を執筆するという仕方です。「聖書研究」「カテキズム研究」「説教展開例」が一つに重なり合っていないというご指摘をしばしばいただいて参りました。その克服を願って試みているところですが、困難を感じており、試行錯誤の面があることを否認しません。実際に用いていただくことのできるものとして整えることができるよう、お祈りください。

●日本キリスト改革派教会の聖書日課『リジョイス』の「いのちのパン」についても、ご意見をお寄せください。教案誌編集部より提供させていただいています。それぞれの祈りの場が主の祝福に満たされますように。

●様々なご意見、情報をお気軽に編集部までお寄せください。弊誌は、皆さまのものです。皆さまに奉仕することこそ、その使命、目標です。

●Soli Deo Gloria!

## 〈購読の申し込み〉

- 『教会学校教案誌』をぜひご購読ください。また、品切れになっていた『子どもカテキズム』を再刷しました。現在のカリキュラムは、『子どもカテキズム』に基づいて編まれています。ぜひお求めください。教案誌はバックナンバーもあります。第40号までは一部500円で販売しています(品切れの号もあり)。
- 教案誌購読受付と送付は大垣伝道所の辻幸宏教師が担当しています。お求めは下記までご連絡ください。『子どもカテキズム』(300円)、副読本『主は羊飼』(800円)のお買い求めも下記までお願いいたします。

大垣伝道所 辻幸宏まで

〒503-0996 大垣市島町283

Tel/Fax. 0584-91-3538

E-mail: yukihito.tsuji@nifty.ne.jp

---

☆ 執筆者一覧 ☆

まえがき	二宮 創 (太田伝道所宣教教師)
風間義信 (江古田教会牧師)	辻 幸宏 (大垣伝道所協力牧師)
巻頭説教	長谷川潤 (四日市教会牧師)
川杉安美 (綱島教会牧師)	望月 信 (高蔵寺教会牧師)
教会学校・日曜学校訪問	岩崎 謙 (神港教会牧師)
高橋乃亜 (湘南恩寵教会日曜学校校長)	後藤公子 (神戸改革派神学校講師)
特別寄稿	分級展開例
山浦裕子	幼稚科
(稲毛海岸教会青少年ミニストリー担当)	漆崎晴美 (金沢伝道所教会学校教師)
発題	小学科下級
望月 信 (高蔵寺教会牧師)	酒井啓介 (宿毛伝道所宣教教師)
聖書研究・説教展開例	小学科上級
木下裕也 (名古屋教会牧師)	長谷川はるひ (関キリスト教会日曜学校教師)
聖書黙想・説教展開例	中学科
小野静雄 (多治見教会牧師)	坂井孝宏 (勝田台教会牧師)
三川栄二 (稲毛海岸教会牧師)	イラスト作画
大西良嗣 (滋賀摂理伝道所宣教教師)	表紙 片岡契一 (高島平キリスト教会長老)
芦田高之 (新浦安教会牧師)	本文 岡野美佳 (青葉台教会)
相馬伸郎 (名古屋岩の上伝道所宣教教師)	

---

☆ 編集部 ☆

相馬伸郎 (長)	名古屋岩の上伝道所宣教教師
木下裕也	名古屋教会牧師
辻 幸宏	大垣伝道所協力牧師
長谷川潤	四日市教会牧師
二宮 創	太田伝道所宣教教師
望月 信	高蔵寺教会牧師

---

日本キリスト改革派教会 中部中会 『教会学校教案誌』  
2012年7・8・9月号 (季刊)  
第46号  
2012年5月24日発行

---

発行	日本キリスト改革派教会 中部中会 日曜学校委員会
発行所	日本キリスト改革派教会 中部中会 教会学校教案誌編集部 名古屋岩の上伝道所 宣教教師 相馬伸郎 〒458-0021 愛知県名古屋市緑区滝の水2-2012 Tel/Fax. 052-895-6701
郵便振替口座	00890-2-148183 「伊藤治郎」
編集・印刷	株式会社あるむ
頒価	900円 (本体価格)

---